

費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇入ノ給料、收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セス

第九條 左ニ掲クル物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ免除ス

- 一 金、銀、銅、鉛、亞鉛、錫、ニッケル、クロム、コバルト、鐵、アルミニウム及マグネシウムノ地金並ニ水銀
 - 二 鐵ノ條、竿、丁形山形類、軌條、板、線及管（鑄鐵管ヲ除ク）
 - 三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管
 - 四 アルミニウムノ合金及マグネシウムノ合金
 - 五 球軸受、コロ軸受及同部分品
 - 六 汽罐、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
 - 七 アルミナ、クリオリット、チタン白、カーボンブラック、石灰、窒素、硫酸カリ、磷酸アンモン、硫酸アンモン、硝酸（アンモニア酸化ニ依ルモノ）、石炭酸、グリコール、グリセリン、メタノール、アセトン、ブタノール、合成イソブチルアルコール、合成ベンゾール、合成トルオール、アセチルセルロース、人造ゴム、人造レジン（フェノールレジンヲ除ク）、人造タンニン、タンニンエキスを及タンニン代用エキス（バルブ廢液ヨリ製造スルモノ）
 - 八 纖維素バルブ、蛋白人造纖維、ガラス纖維、岩石纖維及石棉
 - 九 光學用ガラス
 - 十 コンデンスドミルク、カゼイン、大豆カゼイン及落花生カゼイン
 - 十一 感光性乳劑用ゼラチン
 - 十二 鯨革及鯨革
- 左ニ掲クル物産ノ採掘又ハ採取ノ事業ヲ營ム者ニハ營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ免除ス
- 一 金、銀、銅、鉛、錫、亞鉛、鐵、硫磺、滿俺鐵、ニッケル、水銀及クロム鐵
 - 二 石油及石炭
 - 三 砂鐵

第十條 前條ノ製造、採掘若ハ採取ノ事業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムヘキ事實アル者ハ其ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付營業稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十一條 營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ同法第十五條又ハ第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ第九條ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スルトキハ第九條ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生スル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スヘシ

第十二條 營業稅法第十四條第二項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スヘキ地租額ハ營業稅ヲ課スヘキ營業ノ用ニ供スル土地ニ付納付シタルモノニ限ル但シ貸付ケタル土地ニ對スル地租額ノ控除ハ其ノ土地ニ付生シタル純益ノ總額ニ百分ノ一・五ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ營業稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地アルトキハ其ノ地租總額ヲ營業稅ヲ課スヘキ營業ニ屬スル收入金額ト其ノ他ノ營業ニ屬スル收入金額トニ按分シテ控除額ヲ計算ス但シ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資産價額又ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

第十三條 營業稅法第十四條第二項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ地租額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ營業稅法第十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ地目別ニ其ノ賃貸價格、納付シタル稅額及控除ヲ受クヘキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第十四條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スヘキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命スルコトヲ得

第十五條 營業稅法第十四條第三項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スヘキ地租額ハ其ノ營業用ノ土地ニシテ家事ニ關聯セサルモノニ付納付シタルモノニ限ル

前項ノ地租額ハ前年中ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス

第十二條第二項ノ規定ハ營業稅ヲ課スヘキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地ニ對スル地租額ノ控除ニ付之ヲ準用ス

第十六條 營業稅法第十四條第三項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ地租額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ營業稅法第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ地番、地目、賃貸價格及地租額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第十七條 法人ノ各事業年度ノ純益ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十八條 解散シタル法人ノ清算純益ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ 殘餘財産ヲ數回ニ分テ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スヘキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スヘシ

第十九條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算純益ハ合併ノ日ヨリ十四日以内ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二十條 前三條ノ申告ハ法人稅法ニ依ル所得及資本ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第二十一條 個人ノ營業ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、純益金額及純益算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二十二條 稅務署長營業稅法第十七條、第十九條又ハ第三十三條第二項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十三條 營業稅法第二十一條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第二十四條 所得稅法施行規則第七十七條及第七十九條ノ規定ハ營業稅ニ付之ヲ準用ス

第二十五條 稅務監督局長營業稅法第二十二條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十六條 個人ノ營業稅ノ納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ト認ムルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ營業稅ニ付之ヲ輕減又ハ免除ス

第二十七條 所得稅法施行規則第八十三條乃至第八十五條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル營業稅ノ輕減又ハ免除ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ營業場所在地ノ稅務署ニ納稅地ヲ申告スヘシ

第二十九條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スヘシ

第三十條 稅務署長又ハ其ノ代理官營業稅法第二十九條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スヘシ

第三十一條 稅務署長ハ所轄内ニ事務所ヲ有スル商業組合、工業組合、同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ其ノ團體ニ屬スル各營業者ノ純益金額ノ推定額又ハ順位ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ諮問事項ニ對スル調書ヲ作成シ稅務署長ノ指定スル期限迄ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

附 則

第三十一條 本令ハ營業稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 法人ノ各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度ヨリ、清算純益ニ對スル營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因リ分ヨリ、個人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ個人ノ營業ノ純益ニ付テハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

第三十三條 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シ本令施行前ニ終了シタル事業年度ニ於テ生シタル損金ノ算定ニ關シテハ營業稅法第四條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第三十四條 營業稅法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮、臺灣、樺太又南洋群島ニ於ケル資産ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ營業稅法第三十九條ノ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第三十五條 營業稅法第四十二條ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スヘキ礦產稅額及特別礦產稅額ハ本令施行後終了スル事業年度ニ於テ產出シタル礦產物ニ對シ納付シタル礦產稅額及特別礦產稅額ノ合計額ニ限ル但シ其ノ控除額ハ當該事業年度ニ於ケル礦業ノ純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

營業稅法第四十二條ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スヘキ取引所營業稅額ハ本令施行後終了スル事業年度ニ於テ爲シタル買買取引ニ基ク賣買手數料收入金額ニ對シ納付シタル取引所營業稅額ノ一分ノ三ニ相當スル金額ニ限ル但シ其ノ控除額ハ當該事業年度ニ於ケル取引所純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ規定及法人稅法施行規則第三十條ノ規定ニ依リ營業稅額及所得ニ對スル法人稅額ヨリ控除スヘキ礦產稅額、特別礦產稅額又ハ取引所營業稅額ハ法人ノ各事業年度ノ純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第三十六條 營業稅法第四十二條ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ礦產稅額、特別礦產稅額又ハ取引所營業稅額ノ控除ヲ受ケントスル法人ハ營業稅法第十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ礦產稅及特別礦產稅ニ在リテハ礦產物ノ種類別ニ其ノ價額、納付シタル礦產稅額及特別礦產稅額並ニ控除ヲ受クヘキ礦產稅額及特別礦產稅額ニ關スル明細書ヲ、取引所營業稅ニ在リテハ毎月ノ賣買手數料收入金額、納付シタル取引所營業稅額及控除ヲ受クヘキ取引所營業稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

第三十七條 營業稅法第四十三條ノ規定ニ依ル昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ營業稅ノ輕減若ハ免除又ハ昭和十五年分若

昭和十六年分ノ純益金額ノ計算ニ關スル特例ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

- 一 昭和十四年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ新ニ開業シ又ハ相續ニ因ルニ非スシテ營業ヲ繼續シ當該營業ノ外他ニ營業ヲ有セサル個人ニハ昭和十五年分ノ營業稅ヲ免除ス但シ昭和十四年ノ所得調査委員會閉會後ニ於テ個人ノ營業ニ付納稅義務アルニ至リタル者ニシテ營業收益稅法第十三條第三項ノ規定ニ依リ純益金額ノ決定ヲ受ケザリシモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 二 昭和十四年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十五年分ノ營業稅ヲ免除ス
 - 三 昭和十五年一月一日以後昭和十五年分純益金額決定前ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニ付テハ昭和十五年分ノ純益金額ハ其ノ年一月一日ヨリ營業ヲ廢止スル迄ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ除除シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス
 - 四 昭和十四年分純益金額決定後昭和十五年分純益金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル個人ノ當該營業ノ純益金額ニ付テハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ラス當該營業ノ純益金額ニ對スル昭和十五年分ノ營業稅ニ付當該營業ノ純益金額ニ對スル昭和十四年分ノ營業收益稅額ニ相當スル金額ヲ輕減ス
 - 五 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十六年分營業稅ヲ免除ス但シ其ノ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 前項第三號ノ場合ニ於テ營業稅法第十四條第三項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スヘキ地租額ハ其ノ年一月一日ヨリ營業ヲ廢止スル迄ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス
- 第三十八條** 營業稅法第四十四條ノ規定ニ依リ個人ノ營業ノ純益ニ對スル昭和十六年分ノ營業稅額ヨリ控除スヘキ鑛產稅額及特別鑛產稅額ハ昭和十五年一月一日以後產出シタル鑛產物ニ對シ納付シタル鑛產稅額及特別鑛產稅額ニ限ル但其ノ控除額ハ昭和十五年一月一日以後同年三月三十一日迄ニ產出シタル鑛產物ニ付生シタル純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ス
- 前項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スヘキ鑛產稅額又ハ特別鑛產稅額ハ純益ノ計算上之ヲ必要經費ニ算入セス
- 第三十九條** 營業稅法第四十四條ノ規定ニ依リ個人ノ營業ノ純益ニ對スル昭和十六年分ノ營業稅額ヨリ昭和十五年一月一日以後產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅額又ハ特別鑛產稅額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ營業稅法第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ
- 前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ鑛產物ノ種類別ニ其ノ價額、納付シタル鑛產稅額及特別鑛產稅額並ニ控除ヲ受クヘキ鑛產稅額及特別鑛產稅額ニ關スル明細書ヲ提出スヘシ

國際決済銀行ニ租稅ヲ課セサルコトニ關スル法律

(關係條文ハ所得稅(非課稅ニ關スル法令ノ部)ニ掲出セルニ付省略)

貯蓄銀行法 (抄錄) (大正十年四月十四日法律第七十四號)

改正 昭和十五年三月二十九日法律第五十九號

第二十二條 貯蓄銀行業ヲ營ム者ニハ其ノ納付スヘキ營業稅額ノ二分ノ一ヲ免除ス

鑛業法 (抄錄) (明治三十八年三月八日法律第四十五號)

改正 昭和十五年三月二十九日法律第五十九號

第八十二條 鑛業權者ニハ其ノ鑛業ニ付營業稅及營業稅ヲ課セス

保險業法 (抄錄) (明治三十三年三月二十二日法律第六十九號)

改正 昭和十五年三月二十九日法律第五十九號

第八十一條 相互會社ニハ營業稅ヲ課セス

工業組合法 (抄錄) (昭和十四年四月四日法律第六十五號改正)

改正 昭和十五年三月二十九日法律第五十九號改正

第三十三條ノ九 工業小組合ニハ營業稅ヲ課セス

右ノ外營業稅非課稅ニ關スル法令

(關係條文ハ所得稅ノ部ニ掲出セルニ付省略)

- 産業組合法
- 漁業法
- 蠶絲業法
- 農業倉庫業法
- 住宅組合法
- 産業組合中央金庫法
- 競馬法
- 工業組合法
- 海外移住組合法
- 家畜保險法
- 商業組合法
- 農村負債整理組合法
- 商工組合中央金庫法
- 重要肥料業統制法
- 漁船保險法
- 貿易組合法
- 恩給金庫法
- 庶民金庫法
- 農業保險法
- 酪農業調整法
- 海運組合法

- 造船事業法
- 職員健康保險法
- 船員保險法
- 軍馬資源保護法

右ノ外營業稅免除ニ關スル法令

(關係條文ハ所得稅ノ部ニ掲出セルニ付省略)

- 自動車製造事業法
- 退職積立金及退職手當法
- アルコール專賣法
- 人造石油製造事業法
- 帝國燃料興業株式會社法
- 製鐵事業法
- 日本產金振興株式會社法
- 工作機械製造事業法
- 航空機製造事業法
- 硫酸アンモニア増産及配給統制法
- 北支那開發株式會社法
- 帝國鑛業開發株式會社法
- 國際電氣通信株式會社法
- 大日本航空株式會社法
- 輕金屬製造事業法

臨時利得税法

(昭和十年三月三十日法律第二十號)

改正

昭和十二年三月三十日法律第三號

昭和十三年三月三十一日法律第四十三號第四十四號第四十五號

昭和十四年三月三十一日法律第四十九號

昭和十五年三月二十九日法律第三十二號

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ臨時利得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者ハ本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノ臨時利得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條 臨時利得税ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス (昭和十五年法律第三十二號改正)

一 法人ノ利得

二 所得税法第十條ニ掲グル營業ニ因ル個人ノ利得 (營業利得ト稱ス以下同ジ)

三 船舶 (製造中ノ船舶ヲ含ム) 又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル個人ノ利得 (讓渡利得ト稱ス以下同ジ)

第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得トス (昭和十五年法律第三十二號改正)

第四條ノ二 削 除 (昭和十五年法律第三十二號)

第四條ノ三 削 除 (昭和十五年法律第三十二號)

第四條ノ四 削 除 (昭和十五年法律第三十二號)

第五條 法人ノ現事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ相互保險會社及會員組織ノ取引所ニ在リテハ現事業年度ノ剩餘金ニ依ル (昭和十五年法律第三十二號改正)

法人ガ現事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人税及臨時利得税並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル分類所得税ニシテ法人税法第十六條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人税額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ且

法人ノ現事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス(昭和十五年法律第三十二號改正)
前二項ノ規定ハ相互保險會社又ハ會員組織ノ取引所ノ剩餘金ノ計算ニ付之ヲ準用ス(同上)
本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ利益ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前四項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス(同上)

第五條ノ二 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス(同上)

第五條ノ三 所得稅法第六條及第七條ノ規定ハ臨時利得稅ノ賦課ニ付之ヲ準用ス(同上)

第六條 法人ノ現事業年度ノ利益ノ計算ニ付テハ合同運用信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ各之ヲ控除ス(同上)
テ之ヲ計算ス(昭和十五年法律第三十二號改正)
本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 本法ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

第八條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ利得ニ付臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス(昭和十五年法律第三十二號改正)

第九條 個人ノ利益ガ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ營業利得トス(昭和十五年法律第三十二號改正)

第九條ノ二 前條ノ規定ニ依リ營業利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ七千圓又ハ現年ノ利益ノ三分ノ一ニ相當スル金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ニ達セザルトキハ其ノ多額ナル一方ノ金額ヲ以テ平均利益トス(同上)

第九條ノ三 削 除(昭和十五年法律第三十二號)

第九條ノ四 削 除(同上)

第十條 個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費(收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子ヲ含ム以下同ジ)ヲ控除シタル金額ニ依ル(昭和十五年法律第三十二號)

所得稅及臨時利得稅ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ(同上)

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス(同上)
營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ營業利得ハ相續人ノ營業利得ト看做ス(同上)
第十條ノ二 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス(昭和十三年法律第四十五號改正)

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ(昭和十五年法律第三十二號改正)

第十一條ノ二 讓渡利得ハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル收入金額ヨリ取得價額、設備費、改良費及讓渡ニ關スル必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十一年十二月三十一日以前ニ取得シタルモノニ付テハ同日ニ於ケル價額ヲ以テ前項ノ取得價額トシ同日後ニ爲シタル設備又ハ改良ニ要シタル費用ノミヲ以テ前項ノ設備費又改良費トス

前二項ノ計算ニ關シテハ相續、贈與又ハ遺贈ニ因リ取得シタルモノハ相續人、受贈者又ハ受遺者ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シ讓渡後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ爲シタル讓渡ハ之ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス

前三項ニ定ムルモノノ外讓渡利得ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條ノ三 讓渡利得ニ付テハ其ノ利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

第十二條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ法人稅法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザル者ニハ臨時利得稅ヲ課セズ(昭和十五年法律第三十二號改正)

第十三條 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本法ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條ノ二 船舶ノ讓渡ニ因ル利益ニシテ第九條ノ個人ノ利益ニ屬スルモノ及昭和十四年一月一日以後ニ於テ設定セラレタル鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル權利ニシテ命令ノ定ムルモノノ讓渡ニ付テハ本法中讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十四條 法人ノ臨時利得稅ハ法人ノ利得ヲ左ノ部分ニ區分シ各部分ニ付左ノ稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス(昭和十五年法律第三十二號改正)

一 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得

二 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額

利得金額ノ百分ノ二十五

利得金額ノ百分ノ二十五

利得金額ノ百分ノ二十五

年百分ノ三十ノ割合ヲ乗ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得
三 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ三十ノ割合ヲ乗ジテ算出シタル金額ヲ超ユル金額ヨリ成ル部分ノ利得
利得金額ノ百分ノ六十五
現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限り前項ニ規定スル稅率百分ノ二十五ハ之ヲ百分ノ十五トシ同百分ノ四十五ハ之ヲ百分ノ三十五トシ同百分ノ六十五ハ之ヲ百分ノ五十五トス

第十四條ノ二 前條ノ規定ニ依リ現事業年度ノ資本金額ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合トス但シ其ノ割合ガ年百分ノ十未満ナルトキ又ハ法人ノ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ終了シタルトキハ其ノ割合ヲ年百分ノ十トシ其ノ割合ガ年百分ノ二十ヲ超ユルトキハ之ヲ年百分ノ二十トス(昭和十五年法律第三十二號改正)

第五條(第二項及第三項ヲ除ク)乃至第六條及第七條第一項ノ規定ハ前項ノ平均利益及平均資本金額算出ノ基礎タル昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル各事業年度ノ利益及資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ當該事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベカリシ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅及臨時利得稅並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅ニシテ所得稅法ニ依リ其ノ額ヲ第一種所得稅額ヨリ控除シタルモノハ當該事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ(同上)

第十四條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ガ年百分ノ十ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中ニ増加資本金額アルトキハ同項ノ規定ニ拘ラズ現事業年度ノ資本金額中増加資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト増加資本金額以外ノ部分ニ同項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ現事業年度ノ資本金額ニ對スル割合ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益率トス(同上)
前項ノ増加資本金額トハ現事業年度ノ資本金額ガ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額又ハ同日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過額ヲ謂フ(同上)
昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ同日ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ醜金及積立金額ニ依リ之ヲ計算ス(同上)

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ計算ニ付之ヲ準用ス(同上)
第十四條ノ四 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益及平均資本金額並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス(昭和十五年法律第三十二號改正)

第十四條ノ五 個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス(同上)
營業利得 利得金額ノ百分ノ三十
讓渡利得 利得金額ノ百分ノ二十五

第十五條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ
第十六條 營業利得ニ付納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ(昭和十五年法律第三十二號改正)

讓渡利得ニ付納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ
第十七條 法人ノ利得金額ハ第十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ營業利得金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス(昭和十五年法律第三十二號改正)
年間ハ仍所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得(昭和十五年法律第三十二號改正)
所得調査委員會閉會後營業利得ニ付納稅義務アルコトヲ申出デ又ハ利得金額ノ増加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス(昭和十五年法律第三十二號改正)
讓渡利得金額ハ前條第二項ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條 稅務署長ハ毎年營業利得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ利得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ(昭和十五年法律第三十二號改正)
前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第十九條 所得稅法第三十七條、第三十八條及第六十三條ノ規定ハ利得金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス(同上)
第二十條 第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ
第二十一條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル利得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セズ

第二十二條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得税法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス
所得税法第三十八條及第六十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(昭和十五年法律第三十二號改正)

第二十三條 削 除(昭和十五年法律第三十二號)

第二十四條 削 除(同上)

第二十四條ノ二 削 除(同上)

第二十五條 第二十二條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(昭和十五年法律第三十二號改正)

第二十六條 法人ノ利得ニ付テハ事業年度毎ニ臨時利得税ヲ徴收ス

營業利得ニ付テハ臨時利得税ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本
法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得税ヲ徴收スルコトヲ得(昭和十五年法律第三十二號改正)

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

讓渡利得ニ付テハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ノ際臨時利得税ヲ徴收ス

第二十七條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得税ヲ通脱シタル者ハ其ノ通脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料
ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ營業利得ニ付臨時利得税ヲ通脱シタル者ノ利得金額ハ第十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決
定シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス(昭和十五年法律第三十二號改正)

第二十八條 臨時利得税ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事
由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第
二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 所得税法第三十六條第四項、第三十九條第二項、第七十五條、第七十六條、第八十一條、第八十二條及第八十四

條乃至第八十六條並ニ法人稅法第二十八條ノ規定ハ臨時利得税ニ付テ之ヲ準用ス(昭和十五年法律第三十二號)

第三十一條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ利得ニ付テハ臨時利得税ヲ課セス(同上)

第八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ利得ニ付テハ臨時利得税ヲ課セス(同上)

施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタ
ル法人カ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル場合ニ付テ之ヲ準用ス(同上)

朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ臨時利得
税ヲ課セス(附則一六、三、二八日法律第七十八號改正)

第三十二條 大正十三年法律第六號ニ依リ所得稅、法人稅及營業稅ヲ免除セラレル所得及純益ニ付テハ本法ヲ適用セス(同上)

第三十三條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ臨時利得税ヲ課スルコトヲ得ス

附 則
本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ個人ニ付テハ昭和十年分
ヨリ之ヲ適用ス

本法ニ依ル臨時利得税ノ賦課ハ法人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リ、營業利
得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ノ讓渡ニ因リ利得ニ對スル分限リトス(昭和十五年法律第三十二號改正)

第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十五年ニ限リ二月十五日トス

明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

六 臨時利得税

附 則

第一條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 法人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十
三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十四條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得税ヨリ之ヲ適用ス

第三條 臨時租稅増徴法第十九條ノ規定ハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得税及昭和十三
年分以降ノ個人ノ臨時利得税ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條 昭和十三年三月三十一日迄ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得税ニ付テハ第十四條ノ改正規定ニ拘ラス甲

種利得ニ對スル臨時利得税ノ税率ヲ利得金額ノ百分ノ十五トス

第五條 北支事件特別税法第八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ法人ノ甲種利得ニ對スル臨時利得税額ヲ以テ同條ニ規定スル臨時利得税額トス

第六條 臨時利得税法第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限り四月十五日トス

附 則 (昭和十四年法律四十九號)

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十四年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得税ニ付テハ昭和十四年分ヨリ本法ヲ適用ス

讓渡利得ニ對スル臨時利得税ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ノ讓渡ニ因ル利得ニ對シ本法ヲ適用ス

附 則 (昭和十五年法律第三十二號)

第一條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 法人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、營業利得ニ對スル臨時利得税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス

第三條 昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度分ノ第一種所得税、第一種所得税附加税、法人資本税及命令ヲ以テ指定スル第一種所得税附加税ニ相當スル租税ハ之ヲ法人税ト看做シ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得税及資本利子税ニシテ法人税法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人税額ヨリ控除スヘキモノハ之ヲ分類所得税ト看做シ第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス

法人カ本法施行前ニ合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ合併ノ日ヲ含ム事業年度カ本法施行後ニ終了スル場合ニ於ケル合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ第一種所得税、第一種所得税附加税、法人資本税及命令ヲ以テ指定スル第一種所得税附加税ニ相當スル租税並ニ清算所得ニ對スル第一種所得税及第一種所得税附加税ハ之ヲ法人税ト看做シ第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス

第四條 本法施行後終了スル事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得税及資本利子税ニシテ法人税法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人税額ヨリ控除スヘキモノハ之ヲ分類所得税ト看做シ第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス

第五條 昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度分ノ臨時利得税ハ第五條第二項ノ改正規定ニ拘

ラス法人ノ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第六條 昭和十四年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ爲シタルニ非サル營業ニ因ル個人ノ利得ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年分又ハ昭和十六年分ニ限り臨時利得税ヲ輕減若ハ免除シ又ハ營業利得金額ノ計算ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第七條 第十六條ノ改正規定中三月十五日トアルハ昭和十五年ニ限り四月十四日トス

附 則 (昭和一六、三、二八法律第七八號)

本法ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時利得税法施行規則

(昭和十年三月三十日勅令第三十七號)

改正

昭和十三年四月一日勅令第九十四號

昭和十四年四月一日勅令第七十一號

昭和十五年三月三十一日勅令第四十二號

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金ハ其ノ事業年度ノ利益ノ計算上益金ニ之ヲ算入セス(昭和十五年勅令第四十二號改正)
法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ臨時利得税法第五條第三項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ之ヲ算入セス(同上)

第二條 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生シタル損金ニシテ其ノ損金ノ生シタル事業年度以後ノ事業年度ノ利益ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ臨時利得税法第五條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス(同上)

第三條 臨時利得税法第四條ニ規定スル現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘シテ算出シタル金額ハ現事業年度ノ月數ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘シテ之ヲ計算ス(同上)

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス(同上)

前二項ノ規定ハ臨時利得税法第十四條第一項ニ規定スル現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘シテ算出シタル金額、現事業年度ノ資本金額ニ平均利益率ヲ乘シテ算出シタル金額又ハ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘シテ算出シタル金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス(同上)

第四條 削 除 (昭和十五年勅令第四十二號)

第五條 削 除 (同上)

第六條 臨時利得税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セサル法人ノ資本金額ハ總資産價額ニ對スル臨時利得税法施行地ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ利益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 除 (昭和十五年勅令第四百十二號)

第八條 除 (同上)

第九條 除 (同上)

第九條 營業利得金額ヲ計算スル場合ニ於テ營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムヘキ事實アルトキハ納稅義務者ノ申告ニ依リ前營業者ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ其ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ト看做ス (昭和十五年勅令第四百十二號改正) 前項ノ場合ニ於テ前營業者カ法人ナルトキハ法人ノ營業ニ付臨時利得稅法第十條第一項ノ規定ヲ準用シテ其ノ利益ヲ計算ス

第十條 個人ノ營業ノ期間カ一年未滿ナル場合ニ於テハ臨時利得稅ヲ課スヘキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應シ月割ヲ以テ昭和十一年以前三年ニ屬スル各年ノ利益ヲ算出シテ平均利益ヲ計算ス (昭和十五年勅令第四百十二號改正) 第三條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十一條 個人ノ利益ハ臨時利得稅ヲ課スヘキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス 第十二條 臨時利得稅法第十條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スヘキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料、收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ (昭和十五年勅令第四百十二號改正)

第十二條ノ二 讓渡利得ノ金額ハ臨時利得稅法第十一條ノ二ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス 一 船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十一年十二月三十一日以後ニ於テ取得シタルモノノ取得價額ハ製造又ハ創設ニ因リ取得シタルモノニ付テハ其ノ製造費又ハ創設費 (鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル權利ニ在リテハ探鑛ノ費用ヲ含ム) ニ依リ他人ヨリ讓渡ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ對價 (取得ニ關スル必要ノ經費ヲ含ム) ニ依ル

二 相續、贈與又ハ遺贈アリタル船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ハ之ヲ被相續人、贈與者又ハ遺言者カ取得シタル時ニ於テ相續人、受贈者又ハ受遺者カ取得シタルモノト看做シ被相續人、贈與者又ハ遺言者ノ支出シタル設備費、改良費又ハ讓渡ニ關スル必要ノ經費ハ之ヲ相續人、受贈者又ハ受遺者ノ支出シタルモノト看做ス

三 被相續人ノ爲シタル讓渡ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス場合ニ於ケル讓渡利得ノ金額ハ被相續人ノ爲シタル讓渡ニ付計算シタル讓渡利得ノ金額ニ依ル 第十二條ノ三 昭和十四年一月一日以後ニ於テ左ニ掲クル原因ニ因ラズシテ自己カ原始的ニ取得シタル鑛業又ハ砂鑛業ニ關

スル權利ノ讓渡ニ付テハ臨時利得稅法第十三條ノ二ノ規定ニ依リ讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ 一 鑛區又ハ砂鑛區ノ合併分割又ハ分合 二 試掘權ノ設定アル鑛區ニ付テノ探掘權ノ取得 三 試掘權ノ存續期間滿了ニ因ル更新

第十三條 臨時利得稅法第十四條ノ二第一項ノ平均利益ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度 (既往各事業年度ト稱ス以下同シ)ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス (昭和十五年勅令第四百十二號改正) 前項ノ場合ニ於テ既往各事業年度ノ期間カ現事業年度ノ期間ト異ナルトキハ既往各事業年度ノ利益ハ既往各事業年度ノ月數ノ現事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス (同上) 前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ既往各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ現事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス (同上)

第十三條ノ二 臨時利得稅法第十四條ノ二第一項ノ平均資本金額ハ既往各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ資本金額ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス (同上) 第十三條ノ三 臨時利得稅法第十四條ノ二第一項ニ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益ヲ除シテ之ヲ計算ス (同上)

第十三條ノ四 臨時利得稅法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ第十四條ノ二第二項ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス (同上)

第十四條 臨時利得稅法第十四條ノ三第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ヲ計算スル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額以外ノ部分ニ乘スヘキ既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ハ臨時利得稅法第十四條ノ二第一項但書ノ規定ヲ適用シタル割合トス (同上)

第十四條ノ二 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往各事業年度ノ全部ノ平均資本金額及平均利益並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ既往各事業年度ノ資本金額及利益並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ヲ合算シテ之ヲ計算ス (同上)

第十五條 法人ノ利得金額ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ利得算出ノ基礎ヲ明記シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ但シ法人稅法ニ依ル所得及資本ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十六條 營業利得ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ但シ所得稅法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケス

第十七條 營業利得ニ付納稅義務アル者ハ讓渡ノヨリ二十日以内ニ利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十八條 稅務署長臨時利得稅法第十七條、第十九條又ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十九條 臨時利得稅法第二十一條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ利得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ツヘシ

第二十條 稅務監督局長臨時利得稅法第二十二條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第二十一條 營業利得ニ對スル臨時利得稅ノ納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ト認ムルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ輕減又ハ免除ス

第二十二條 所得稅法施行規則第八十三條乃至第八十五條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ臨時利得稅ノ輕減又ハ免除ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 除 (昭和十五年勅令第四百七十一號)

第二十四條 所得稅法施行規則第五十九條、第七十七條第七條乃至第四百四條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十五條 朝鮮臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ臨時利得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セスシテ朝鮮臺灣、關東州又ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ左ニ掲タル場合ヲ除クノ外臨時利得稅ヲ課セス

(昭和十六、三、勅令第二九二號改正)

一 臨時利得稅法施行地ニ住所ヲ有スル者利得金額決定後朝鮮臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ (同上)

二 朝鮮臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者朝鮮臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ利得金額決定前臨時利得稅法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ (同上)

三 臨時利得稅法施行地、朝鮮臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準スヘキ事由ノ生シタルトキ (同上)

附 則 本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ個人ニ付テハ昭和十年分ヨリ之ヲ適用ス

本令施行前決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度ノ利得金額ニ付テハ第十五條ノ申告ハ本令施行後十四日以内又ハ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十七條ノ規定中三月十六日トアルハ昭和十年ニ限り四月二十六日トス

附 則 (昭和十三年勅令第四百九十四號改正)

本令ハ昭和十三年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十七條ノ二ノ規定ハ昭和十二年臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ノ申告ハ既ニ之ヲ爲シタルト否トヲ問ハズ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日以内ニ、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

附 則 (昭和十四年勅令第七十一號)

本令ハ昭和十四年法律第四十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ、讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ノ讓渡ニ因リ利得ニ對スル分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十四年一月一日以後本令施行前ニ於テ確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得

附 則

本令ハ昭和十四年法律第四十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ、讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ノ讓渡ニ因リ利得ニ對スル分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十四年一月一日以後本令施行前ニ於テ確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得

附 則

本令ハ昭和十四年法律第四十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ、讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ノ讓渡ニ因リ利得ニ對スル分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十四年一月一日以後本令施行前ニ於テ確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得

附 則

本令ハ昭和十四年法律第四十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ、讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ノ讓渡ニ因リ利得ニ對スル分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十四年一月一日以後本令施行前ニ於テ確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得

附 則

本令ハ昭和十四年法律第四十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

金額ノ申告ハ既ニ之ヲ爲シタルト否トヲ問ハス本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日以内ニ、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
昭和十四年一月一日以後同年三月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル讓渡利得ニ對スル臨時利得税ニ付テハ第十六條ノ二ノ規定ニ拘ラス利得金額ノ申告期限ヲ昭和十四年四月二十日トス

附 則 (昭和十五年勅令第四百十二號)

第一條 本令ハ昭和十五年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 法人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

第三條 法人ノ現事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シ本令施行前ニ終了シタル事業年度ニ於テ生シタル損金ノ算定ニ關シテハ臨時利得税法第五條第二項ノ規定ヲ適用セス

第四條 臨時利得税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得税ハ之ヲ昭和十五年法律第三十二號附則第三條ニ規定スル第一種所得税附加税ニ相當スル租税トス

第五條 昭和十五年法律第三十二號附則第六條ノ規定ニ依ル昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ臨時利得税ノ輕減若ハ免除又ハ昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ營業利得金額ノ計算ニ關スル特例ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十四年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ新ニ開業シ又ハ相續ニ因ルニ非スシテ營業ヲ繼續シ當該營業ノ外他ニ營業ヲ有セサル個人ニハ昭和十五年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得税ヲ免除ス但シ昭和十四年ノ所得調査委員會閉會後ニ於テ個人ノ乙種利得ニ付納税義務アルニ至リタル者ニシテ改正前ノ臨時利得税法第十七條第三項ノ規定ニ依リ個人ノ乙種利得金額ノ決定ヲ受ケザリシモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

二 昭和十四年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十五年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得税ヲ免除ス

三 昭和十五年一月一日以後昭和十五年分營業利得金額決定前ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニ付テハ昭和十五年分ノ營業利得計算ノ基礎タル利益ハ其ノ年一月一日ヨリ營業ヲ廢止スル迄ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス

四 昭和十四年分營業利得金額決定後昭和十五年分營業利得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル個人ノ當該營業ノ營業利得金額ニ付テハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ラス當該營業ノ營業利得金額ニ對スル昭和十五年分ノ臨時利得税ニ付當該營業ノ昭和十四年分ノ乙種利得ニ對スル臨時利得税額ニ相當スル金額ヲ輕減ス

五 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十六年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得税ヲ免除ス但シ其ノ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則 (昭和一六、三、六勅令第二九二號)

本令ハ昭和十六年法律第七十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

地 租 法

(昭和六年三月三十一日法律第二十八號)

改正 昭和十五年三月二十九日法律第三十四號

第一章 總 則

- 第一條** 本法施行地ニ在ル土地ニハ本法ニ依リ地租ヲ課ス
- 第二條** 左ニ掲クル土地ニハ地租ヲ課セス但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラス (昭和十五年法律第三十四號改正)
- 一 國、府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地
- 二 府縣、市町村其ノ他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スルモノト決定シタル其ノ所有地但シ其ノ決定ヲ爲シタル日ヨリ一年内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルモノヲ除ク
- 三 府縣社地、鄉村社地、護國神社地
- 四 墳墓地
- 五 公衆用道路、鐵道用地、軌道用地、運河用地
- 六 用惡水路、溜池、堤塘、井溝
- 七 保安林
- 第三條** 土地ニハ一筆毎ニ地番ヲ附シ其ノ地目、地積及賃貸價格(無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク)ヲ定ム
- 第四條** 稅務署ニ土地臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄ス
- 一 土地ノ所在
 - 二 地番
 - 三 地目
 - 四 地積
 - 五 賃貸價格
 - 六 所有者ノ住所及氏名又ハ名稱
 - 七 質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ其ノ質權者又ハ地上權者ノ住所及氏名又ハ名稱

稱

本法ニ定ムルモノノ外土地臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 地番ハ市町村、大字、字又ハ之ニ準スヘキ地域ヲ以テ地番區域トシ其ノ區域毎ニ起番シテ之ヲ定ム

第六條 有租地ノ地目ハ土地ノ種類ニ從ヒ左ノ如ク區別シテ之ヲ定ム

第一類地 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類地 池沼、山林、牧場、原野、雜種地
無租地ノ地目ハ第二條第三號乃至第七號ノ土地ニ在リテハ各其ノ區別ニ依リ、其ノ他ノ土地ニ在リテハ其ノ現況ニ依リ適當ニ區別シテ之ヲ定ム

第七條 地積ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ平方メートルヲ單位トシテ之ヲ定メ一平方メートルノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二 宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハメートルヲ單位トシテ之ヲ定メ一メートルノ百分ノ一未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一アールノ百分ノ一未滿ナルモノニ付テハ一アールノ一萬分ノ一未滿ノ端數ヲ切捨ツ

第八條 地租ノ課稅標準ハ土地臺帳ニ登錄シタル賃賃價格トス

賃賃價格ハ貸主カ公課、修繕費其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃賃スル場合ニ於テ貸主ノ收得スヘキ一年分ノ金額ニ依リ之ヲ定ム

第九條 賃賃價格ハ十年毎ニ一般ニ之ヲ改訂ス第一回ノ改訂ハ昭和十三年ニ於テ之ヲ行フ

前項ノ改訂ニ關スル事項ハ其ノ都度別ニ之ヲ定ム

土地ノ異動ニ因リ賃賃價格ヲ設定シ又ハ修正スル必要アルトキハ類地ノ賃賃價格ニ比準シ其ノ土地ノ品位及情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地租ノ稅率ハ百分ノ二トス(昭和十五年法律第三十四號改正)

第十一條 地租ハ毎年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス(同上)

一 田租

第一期 翌年一月一日ヨリ三十一日限
第二期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

年額ノ二分ノ一
年額ノ二分ノ一

二 其ノ他

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限
第二期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

年額ノ二分ノ一
年額ノ二分ノ一

特別ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ納期ヲ定ムルコトヲ得

第十二條 地租ハ納期開始ノ時ニ於テ土地臺帳ニ所有者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス但シ賃賃ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ賃賃者又ハ地上權者トシテ登錄セラレタル者ヨリ之ヲ徵收ス

第十三條 土地ノ異動アリタル場合ニ於テハ地番、地目、地積及賃賃價格ハ土地所有者ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ若ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキ又ハ申告ヲ要セサルトキハ稅務署長ノ調査ニ依リ稅務署長之ヲ定ム

第二章 土地ノ異動

第一節 有租地及無租地ノ轉換

第十四條 本法ニ於テ無租地ト稱スルハ地租ヲ課セサル土地(免租年期地、災害免租地及小農耕免租地ヲ含マス)ヲ謂ヒ有租地ト稱スルハ其ノ他ノ土地ヲ謂フ(昭和十五年法律第三十四號改正)

第十五條 無租地カ有租地ト爲リタルトキ又ハ有租地カ無租地ト爲リタルトキハ土地所有者ハ三十日內ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ但シ有租地カ無租地ト爲リタル場合ニ於テ之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ若ハ申告ヲ爲シタルモノ又ハ官公署ニ於テ公示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 新ニ土地臺帳ニ登錄スヘキ土地ヲ生シタルトキハ當該地番區域內ニ於ケル最終ノ地番ヲ追ヒ順次其ノ地番ヲ定ム但シ特別ノ事情アルトキハ適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 新ニ土地臺帳ニ登錄スヘキ土地ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ設定ス

土地臺帳ニ登錄セラレタル無租地カ有租地ト爲リ又ハ有租地カ無租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第十八條 新ニ土地臺帳ニ登錄スヘキ土地ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ測量シテ其ノ地積ヲ定ム

土地臺帳ニ登錄セラレタル無租地カ有租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ開拓ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓

與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開拓減租年
期ヲ許可シ年期中ハ其ノ原地(開拓前ノ土地)相當ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ト爲リタル開拓地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ開拓減租年期ヲ短縮スルコトヲ得(昭和十五年法
律第三十四號)

第二十條 國有財產法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ埋立(干拓ヲ含ム)ノ事業成功ニ
因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノ又ハ公有水面埋立法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ埋立地ノ所有權
ヲ取得シ有租地ト爲リタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ埋立免租年
期ヲ許可ス

前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ト爲リタル埋立地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ埋立免租年期ヲ短縮スルコトヲ得(昭和十五年法
律第三十四號)

第二十一條 前二條ノ規定ニ依リ開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ有租地ト爲リタル日ヨリ六十日
内ニ、開拓減租年期又ハ埋立免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請
スヘシ

第二十二條 開拓減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ開拓減租年期ハ消滅ス

開拓減租年期中ニ於テ地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セス

埋立免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト
看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第二十三條 開拓減租年期地又ハ埋立免租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了ノ申告書
ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第二十四條 無租地カ有租地ト爲リタルトキハ直ニ其ノ賃賃價格ヲ設定ス

開拓減租年期地ニ付テハ有租地ト爲リタルトキ直ニ原地相當ノ賃賃價格ヲ設定シ開拓減租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃
賃價格ヲ修正ス

埋立免租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ設定ス

第二十五條 開拓減租年期又ハ埋立免租年期ノ滿了ニ因リ賃賃價格ヲ設定シ又ハ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキ

ハ其ノ地積ヲ改測ス

第二十六條 無租地カ有租地ト爲リタルトキハ賃賃價格ヲ設定(第二十四條第三項ノ設定ヲ含ム)シタル年ノ翌年分ヨリ地
租ヲ徵收ス

開拓減租年期ノ滿了ニ因リ賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃賃價格ニ依リ地
租ヲ徵收ス

第二十七條 有租地カ無租地ト爲リタルトキハ其ノ申告ヲ要スルモノニ付テハ申告アリタル後ニ開始スル納期ヨリ、其ノ申
告ヲ要セサルモノニ付テハ稅務署長カ其ノ事實ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

第二節 分筆及合筆

第二十八條 本法ニ於テ分筆ト稱スルハ一筆ノ土地ヲ數筆ノ土地ト爲スヲ謂ヒ合筆ト稱スルハ數筆ノ土地ヲ一筆ノ土地ト爲
スヲ謂フ

第二十九條 分筆又ハ合筆ヲ爲サントスルトキハ土地所有者ハ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第三十條 一筆ノ土地ノ一部カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ前條ノ申告ナキ場合ニ於テモ稅務署長ハ其ノ土地
ヲ分筆ス

一 別地目ト爲ルトキ

二 無租地カ有租地ト爲リ又ハ有租地カ無租地ト爲ルトキ

三 所有者ヲ異ニスルトキ

四 質權又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ

五 地番區域ヲ異ニスルトキ

第三十一條 分筆シタル土地ニ付テハ分筆前ノ地番ニ符號ヲ附シテ各筆ノ地番ヲ定ム

合筆シタル土地ニ付テハ合筆前ノ地番中ノ首位ノモノヲ以テ其ノ地番トス

特別ノ事情アルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス適宜ノ地番ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 分筆ヲ爲シタルトキハ測量シテ各筆ノ地積ヲ定ム

合筆ヲ爲シタルトキハ合筆前ノ各筆ノ地積ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ地積トス

第三十三條 分筆ヲ爲シタルトキハ各筆ノ品位及情況ニ應ジ分筆前ノ賃賃價格ヲ配分シテ其ノ賃賃價格ヲ定ム

合筆ヲ爲シタルキハ合筆前ノ各筆ノ賃賃價格ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ賃賃價格トス

第三節 開 墾

第三十四條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ第二類地ヲ第一類地ト爲スヲ謂フ

第三十五條 開墾成功シタルトキハ土地所有者ハ三十日以内ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第三十六條 開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ開墾減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地(開墾前ノ土地)相當ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ニ著手シタル土地ニ付テハ之ヲ許可セズ

二十年内ニ成功シ能ハサル開墾地ニ付テハ前項ノ年期ハ開墾著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年トス
前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ト爲ス開墾地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ開墾減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ開墾減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ開墾著手ノ日ヨリ三十日以内ニ、開墾減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第三十八條 開墾減租年期中ニ於テ開墾成功シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セズ

開墾減租年期中ニ於テ其ノ原地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ成功地ニ付地類變換ヲ爲シタルトキハ開墾減租年期ハ消滅ス

第三十九條 開墾減租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了ノ申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第四十條 開墾成功シタルトキハ(開墾減租年期中ナルト否トヲ問ハス)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第四十一條 開墾成功シタルトキハ開墾減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス
開墾減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙開墾成功セサル土地ニ付テハ開墾成功シタルトキ直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

第四十二條 開墾ニ因リ賃賃價格ヲ修正スル場合ニ於テハ其ノ地積ヲ改測ス但シ其ノ地積ニ異動ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四十三條 開墾ニ因リ地目又ハ賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第四節 地目變換及地類變換

第四十四條 本法ニ於テ地目變換ト稱スルハ第一類地中又ハ第二類地中ノ各地目ヲ變更スルヲ謂ヒ地類變換ト稱スルハ第一類地ヲ第二類地ト爲スヲ謂フ

第四十五條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ土地所有者ハ三十日以内ニ之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第四十六條 二十年内ニ成功シ能ハザル地目變換地ニ付テハ土地所有者ノ申請ニ依リ地目變換著手ノ年及其ノ翌年ヨリ四十年ノ地目變換減租年期ヲ許可シ年期中ハ原地(變換前ノ土地)相當ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス
前項ノ年期滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ更ニ十年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

宅地又ハ鑛泉地ニ變換スル土地ニ付テハ其ノ情況ニ依リ稅務署長ハ地目變換減租年期ヲ短縮スルコトヲ得

第四十七條 前條ノ規定ニ依リ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ地目變換著手ノ日ヨリ三十日以内ニ、地目變換減租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第四十八條 地目變換減租年期中ニ於テ其ノ原地又ハ變換地ニ付地目變換ヲ爲シタルトキハ其ノ地目ヲ修正スルモ其ノ賃賃價格ハ之ヲ修正セズ

地目變換減租年期中ニ於テ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期ハ消滅ス

第四十九條 地目變換減租年期地ニ付テハ土地所有者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了ノ申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第五十條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ(地目變換減租年期中ナルト否トヲ問ハス)直ニ其ノ地目ヲ修正ス

第五十一條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキハ地目變換減租年期地ヲ除クノ外直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス
地目變換減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ修正ス但シ年期滿了スルモ尙地目變換セサル土地ニ付テハ地目變換シタルトキ直ニ其ノ賃賃價格ヲ修正ス

第五十二條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ賃賃價格ヲ修正スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第五十三條 地目變換又ハ地類變換ニ因リ地目又ハ賃賃價格ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正地目又ハ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五節 荒地免租

第五十四條 本法ニ於テ荒地ト稱スルハ災害ニ因リ地形ヲ變シ又ハ作土ヲ損傷シタル土地ヲ謂フ

第五十五條 荒地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ荒地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ十五年内ノ荒地免租年期ヲ許可ス

前項ノ年期滿了スルモ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノニ付テハ更ニ十五年内ノ年期延長ヲ許可スルコトヲ得

海、湖又ハ河川ノ狀況ト爲リタル荒地ニ付テハ前項ノ延長年期ハ二十年内トス其ノ年期滿了スルモ尙海、湖又ハ河川ノ狀況ニ在ルモノハ本法ノ適用ニ付テハ海、湖又ハ河川ト爲リタルモノト看做ス

第五十六條 前條ノ規定ニ依リ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケントスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

荒地免租年期延長ノ許可ヲ受ケントスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第五十七條 荒地免租年期中ニ付テハ免租年期許可ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

第五十八條 荒地免租年期中ノ土地カ再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ノ年期ハ消滅ス

第五十九條 開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期中ノ土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタルトキハ其ノ許可ヲ爲シタル年ヨリ荒地免租年期滿了ニ至ル迄ハ開拓減租年期、埋立免租年期、開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ハ其ノ進行ヲ止ム

前項ノ規定ハ他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除シタル土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十條 荒地免租年期中ニ於テ地目變換、地類變換又ハ開墾ニ該當スル土地ノ異動アルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ナキモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ免租年期ノ滿了スル年ニ於テ其ノ地目ヲ修正ス

第六十一條 荒地免租年期中ニ付テハ納稅義務者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ年期滿了ノ申告書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ

第六十二條 荒地免租年期中ニ付テハ其ノ年期中ノ滿了スル年ニ於テ其ノ賃賃價格ヲ設定ス

第六十三條 荒地免租年期中ノ滿了ニ因リ賃賃價格ヲ設定スル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ地積ヲ改測ス

第六十四條 荒地免租年期中ノ滿了ニ因リ賃賃價格ヲ設定シタル土地ニ付テハ其ノ設定ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第三章 災害地免租

第六十五條 北海道又ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亘ル災害又ハ天候不順ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ年分地租ハ之ヲ免除ス

第六十六條 地目變換若ハ開墾成功ノ申告アリタル土地又ハ耕地整理工完了シ賃賃價格配賦ノ申出アリタル土地ニシテ未タ土地臺帳ヲ更正セサルモノニ付テハ其ノ成功地目カ田畑ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十七條 前二條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ被害現狀ノ存スル間ニ於テ其ノ事實ヲ明ニシテ稅務署長ニ申請スヘシ

第六十八條 前條ノ申請アリタルトキハ被害ノ調査中其ノ年分地租ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第六十九條 第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ之ヲ控除セス

第四章 小農耕地免租 (昭和十五年法律第三十四號改正)

第七十條 田畑地租ノ納期開始ノ時ニ於テ納稅義務者ノ住所都市町村及隣接市町村内ニ於ケル田畑賃賃價格ノ合計金額カ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ田畑ノ當該納期分地租ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ免除ス但シ耕作セサル田畑ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(同上)

民法施行前ヨリ引續キ存スル永小作權ニ付テハ其ノ設定ノ當時舊來ノ慣行ニ依リテ小作料支拂ノ外當該田畑ノ地租ノ全額ヲ永小作權者ニ於テ負擔スルコトヲ約シタル田畑ニ關シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ永小作權者ヲ所有者ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十一條 前條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ住所都市町村ヲ經由シ稅務署長ニ申請スヘシ

前項ノ申請期間經過後新ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第五章 地租徵收

第七十二條 稅務署長ハ土地ノ異動其ノ他地租徵收ニ關シ必要ト認ムル事項ヲ市町村ニ通知スヘシ

第七十三條 地租ハ各納稅義務者ニ付同一市町村内ニ於ケル田ノ賃賃價格ノ合計金額ト田以外ノ土地ノ賃賃價格ノ合計金額トニヨリ各別ニ算出シ之ヲ徵收ス但シ合計金額カ五圓ニ滿タサルモノニ付テハ地租ヲ徵收セス(昭和十五年法律第三十四號改正)

田、畑、宅地以外ノ土地ハ之ヲ同一地目ノ土地ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第七十四條 市町村ハ地租ノ納期毎ニ其ノ納期開始前十五日迄ニ賃賃價格及地租ノ總額並ニ其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ稅務

署長ニ報告スヘシ但シ前報告後異動ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ報告後納期開始迄ニ報告事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ異動額ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

第七十五條 市町村ハ第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ノ賃賃價格ノ總額ヲ前條ノ例ニ準シ稅務署長ニ報告スヘシ

第七十六條 大藏大臣ハ稅務署長又ハ其ノ代理官ヲシテ隨時市町村ニ於ケル國稅徵收ニ關スル事務ヲ監督セシムヘシ

第六章 雜則

第七十七條 他ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ヲ免除シタル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第五十七條及第六十條乃至第六十四條ノ規定ヲ準用ス

第七十八條 稅務署長土地ノ異動ニ因リ地番、地目、地積又ハ賃賃價格ヲ土地臺帳ニ登錄シタルトキ又ハ登錄ヲ變更シタルトキハ土地所有者及納稅義務者ニ通知スベシ

第七十九條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市町村内ニ現住セサルトキハ地租ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ市町村内ニ現住スル者ニ就キ納稅管理人ヲ定メ當該市町村長ニ申告スヘシ

第八十條 土地所有者ニ變更アリタル場合ニ於テハ舊所有者カ爲スヘカリシ申告ハ所有者ノ變更アリタル日ヨリ三十日内ニ新所有者ヨリ之ヲ爲スヘシ

第八十一條 本法ニ依リ土地所有者ヨリ爲スヘキ申告又ハ申請ハ質權ノ目的タル土地又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ土地臺帳ニ登錄セラレタル質權者又ハ地上權者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第八十二條 本法ニ依リ申告ヲ爲スヘキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲ササルトキハ五十圓以下ノ過料ニ處ス

第八十三條 詐欺其ノ不正ノ行爲ニ依リ地租ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ地租ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス

第八十四條 本法ニ依リ申告ヲ爲スヘキ義務ヲ有スル者其ノ申告ヲ爲サス仍テ地租ニ不足額アルトキハ直ニ之ヲ徵收ス

第八十五條 前二條ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル場合ニ於テハ第七十三條ノ規定ニ拘ラス當該土地一筆毎ニ其ノ地租ヲ算出ス

第八十六條 稅務署長又ハ其代理官ハ土地ノ検査ヲ爲シ又ハ土地ノ所有者、質權者、地上權者其ノ他利害關係人ニ對シ必要ナル事項ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ土地ノ検査ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第八十八條 本法ハ國有地ニ之ヲ適用セス

第八十九條 府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但シ所有者以外ノ者同條第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其ノ土地ニ付使用者ニ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルハ此ノ限ニ在ラス

第九十條 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分分地租ニ限リ第十條ノ規定中百分ノ三・八トアルハ百分ノ四、第十一條ノ規定中宅地租第一期其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ其年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年九月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、其ノ他第二期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年三月一日ヨリ三十一日限、第七十一條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス

第九十一條 左ノ法律ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテハ仍舊法ニ依ル

地租條例

災害地租免除法

宅地地價修正法

明治七年第百二十號布告地所名稱區別

明治三十四年法律第三十號

明治三十四年法律第三十一號

明治三十七年法律第十二號

明治三十七年法律第十六號

二四九

大正十五年法律第四十七號

第九十二條 土地賃貸價格調査法ニ依リ賃貸價格ノ調査ヲ爲シタル土地ニ付テハ同法ニ依リ調査シタル賃貸價格ヲ以テ本法施行ノ際ニ於ケル賃貸價格トス但シ其ノ賃貸價格ニ依リ算出シタル本法ノ地租額カ從前ノ地價ニ依リ算出シタル舊法ノ地租額ノ三倍八割ヲ超ユル土地ニ在リテハ舊法ノ地租額ノ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第九十三條 大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ地價ヲ設定シ又ハ修正シタル土地（免租年期又ハ低價年期ノ滿了ニ因リ原地價ニ復シタルモノヲ含ム）ニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ定ム

大正十五年四月一日後本法施行前ニ於テ分筆又ハ合筆ヲ爲シタル土地ニ付テハ第三十三條ノ例ニ準シ前條ノ賃貸價格ヲ配分又ハ合算シテ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第九十四條 舊法ニ依リ低價年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ原地價ニ復セサルモノニ付テハ第九條第三項ノ例ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ定ム

第九十五條 前三條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ本法ニ依リ地租ヲ徵收ス

第九十六條 本法施行前ニ於ケル土地ノ異動中本法施行ノ際未タ舊法ニ依リ地價ノ設定又ハ修正其ノ他ノ處分ヲ爲ササルモノニシテ本法中ニ相當スル規定アルモノニ關シテハ本法ヲ適用ス但シ第九十一條但書ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第九十七條 舊法ニ依リ届出又ハ申請ニシテ本法中ニ相當スル規定アルモノハ之ヲ本法ニ依リ申告又ハ申請ト看做ス

第九十八條 舊法ニ依リ開墾ノ届出アリタル土地ニシテ本法施行ノ際開墾著手後未タ二十年ヲ經過セサモルノハ第三十六條第一項ノ規定ニ依リ開墾減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス但シ地類變換ヲ爲シタル後五年内ニ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 舊法ニ依リ免租年期、減租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ年期ノ滿了セサルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ免租年期又ハ減租年期ヲ許可セラレタルモノト看做ス

一 地租條例第十六條第三項ノ減租年期ハ第三十六條第二項ノ開墾減租年期トス

二 地租條例第十六條第四項ノ減租年期ハ第十九條第十九條第一項ノ開墾減租年期トス

三 地租條例第十六條第五項ノ新開免租年期ハ第二十二條第一項ノ埋立免租年期トス

四 地租條例第十六條第六項ノ地價据置年期ハ第四十六條第一項ノ地目變換減租年期トス

五 明治三十四年法律第三十號ノ年期延長ハ前各號ノ例ニ準シ第十九條第二項、第二十條第二項、第三十六條第三項又ハ第四十六條第二項ノ年期延長トス

六 地租條例第二十條ノ荒地免租年期ハ第五十五條第一項ノ荒地免租年期トス

七 地租條例第二十三條又ハ第二十四條ノ免租繼年期ハ荒地ノ種類ニ從ヒ第五十五條第二項又ハ第三項ノ年期延長トス

前項ノ年期ハ舊法ニ依リ許可セラレタル年期ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年ニ於テ滿了ス

第一百條 地積ハ第七條ノ規定ニ拘ラス當分ノ内左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

一 宅地及鑛泉地ノ地積ハ六尺平方ヲ坪、坪ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勻トシテ之ヲ定メ勻未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

二 宅地及鑛泉地以外ノ土地ノ地積ハ六尺平方ヲ步、三十步ヲ畝、十畝ヲ段、十段ヲ町トシテ之ヲ定メ步未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ但シ一筆ノ地積一步未滿ナルモノニ付テハ步ノ十分ノ一ヲ合、合ノ十分ノ一ヲ勻トシテ之ヲ定メ勻未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第一百一條 舊法ノ土地臺帳ハ之ヲ本法ノ土地臺帳ト看做ス

第一百二條 小笠原島及伊豆七島ノ地租ニ付テハ當分ノ内仍從前ノ例ニ依ル

附 則（昭和十五年法律第三十四號）

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十四年分以前ノ地租ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

土地賃貸價格改訂法第四條ノ規定中從前ノ賃貸價格ニ依ル地租額ノ四倍トアルハ昭和十五年分地租ニ付テハ從前ノ賃貸價格ノ百分ノ二ニ相當スル金額ノ四倍トス

地租法施行規則

(昭和六年四月一日勅令第四十七號)

改正 昭和十三年三月四日勅令第四百號

昭和十五年三月三十一日勅令第四百四號

第一章 總 則

第一條 地租法第二條第一號及第二號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、北海道地方費

二 市町村學校組合、町村學校組合、學區

三 水利組合、水利組合聯合、北海道土功組合

第二條 土地ノ所有權、質權又ハ地上權ノ得喪變更ニ關スル事項ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ土地臺帳ニ之ヲ登録セマ

但シ左ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一 新ニ土地臺帳ニ登録スヘキ土地ヲ生シタルトキ

二 未登記ノ土地カ土地臺帳ニ登録ヲ要セサル土地ト爲リタルトキ

三 未登記ノ土地カ收用セラタルトキ

第三條 土地臺帳ニ登録セラレタル土地所有者、質權者又ハ地上權者其ノ住所ニ異動ヲ生シタルトキ又ハ其ノ氏名若ハ名稱

ヲ改メタルトキハ遲滞ナク之ヲ稅務署長ニ申告スヘシ

第四條 土地臺帳謄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ土地一筆ニ付十錢ノ手数料ヲ納メ稅務署長ニ之ヲ請求スヘシ

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

謄本ハ送付ニ要スル郵便切手ヲ提供シテ之カ郵送ヲ求ムルコトヲ得

國有地又ハ御料地ノ拂下又ハ讓與ニ係ル土地ニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得ス

土地臺帳謄本ノ書式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條 北海道、鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ於ケル地租ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

北海道 (昭和十三年勅令第四百四號
昭和十五年勅令第四百四號改正)

第一期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限
第二期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

鹿兒島縣大島郡(十島村ヲ除ク) 翌年五月一日ヨリ三十一日限
鹿兒島縣大島郡十島村 翌年五月一日ヨリ六月三十日限
沖繩縣

翌年五月一日ヨリ三十一日限

年額ノ二分ノ一
年額ノ二分ノ一
年額全部
年額全部
年額全部

第二章 土地ノ異動

第六條 土地ノ異動ニ關スル申告書(年期限満了申告書ヲ含ム)ニハ異動ノ種類ヲ表示シ原地ノ所在、地番、地目、地積及賃
貸價格(無租地及免租年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク)並ニ異動シタル地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載スヘシ
前項ノ申告書中新ニ土地臺帳ニ登錄スヘキ土地ニ關スル申告書又ハ分筆ノ申告書ニハ地積ノ測量圖ヲ添附スヘシ其ノ他ノ
申告書ニシテ之ニ記載シタル異動地ノ地積カ其ノ原地ノ地積ト同一ナラサルモノニ付亦同シ

第七條 減租年期又ハ免租年期ノ申請書ニハ年期ノ種類ヲ表示シ土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格(無租地及免租
年期地ニ付テハ賃貸價格ヲ除ク)ヲ記載シ尙左ノ事項ヲ附記スヘシ

- 一 開拓減租年期又ハ埋立免租年期ニ付テハ有租地ト爲リタル事由
- 二 二十年ノ開墾減租年期ニ付テハ開墾ノ豫定地目及著手ノ日
- 三 四十年ノ開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ニ付テハ開墾又ハ變換ノ豫定地目、著手ノ日及事業計畫
- 四 荒地免租年期ニ付テハ荒地ト爲リタル事由、被害ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期
- 五 前各號ノ年期ノ延長ニ付テハ土地ノ狀況及許可ヲ受ケントスル年期

第八條 開墾減租年期又ハ地目變換減租年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニ付開墾若ハ變換ノ豫定地目ヲ變更シ又ハ開墾若ハ變換
ヲ廢止シタルトキハ遲滞ナク稅務署長ニ之ヲ申告スヘシ

第三章 災害地免租

第九條 災害地免租ノ申請書ニハ收穫皆無ニ歸シタル事由、被害ノ狀況、土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載
スヘシ

第十條 災害地免租ノ申請ヲ爲ス者ハ稅務署長ノ承認ヲ受ケル迄收穫皆無ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ作毛ヲ存置スヘシ

第十一條 地租法第六十六條ノ規定ニ依ル地租ノ免除ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

- 一 地目變換地又ハ開墾地ニ在リテハ原地(變換又ハ開墾前ノ土地)ノ地租ヲ免除ス
- 二 耕地整理地ニ在リテハ收穫皆無ニ歸シタル換地ニ相當スル從前ノ土地ノ地租ヲ免除ス

第四章 小農耕地免租(昭和十五年勅令第四百十四號改正)

第十二條 地租法第七十條第二項ニ規定スル永小作權者ニシテ同條第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ毎年三月中ニ左
ノ事項ヲ田畑所在ノ市町村長ニ申告スヘシ

- 一 永小作權ノ目的タル田畑ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格
- 二 田畑所有者ノ住所及氏名
- 三 永小作權設定ノ年月日

前項ノ申告期間經過後新ニ地租法第七十條第一項ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ
申告ヲ爲スコトヲ得

第十三條 市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申告ヲ爲シタル者ニ對シ永小作權ノ設定ヲ證スヘキ證書其ノ他必
要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得

第十四條 第十二條ノ申告ヲ爲シタル永小作權者ハ地租法第七十條第一項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ當該田畑ノ所有者ト
看做ス

第十五條 地租法第七十一條ノ規定ニ依ル地租免除ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番及地目ヲ記載スヘシ但シ申請者カ其ノ住
所地及隣接市町村内ニ於ケル自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ
得

第十六條 市町村ハ其ノ市町村内ニ於ケル田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者(地租法第七十條第二項ノ規定ニ依リ所有者ト看做サ
レタ永小作權者ヲ含ム)ノ住所隣接市町村内ニ在ルトキハ各人別田畑ノ賃貸價格合計金額ヲ毎年三月中ニ其ノ住所地市
町村ニ通知スヘシ

前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始迄ニ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ住所地市町村ニ通知スヘシ

第十七條 市町村ハ隣接市町村内ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ申請者ノ住所地市町村及隣接市
町村内ニ於ケル田畑賃貸價格ノ合計金額カ其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ其ノ旨ヲ田畑所在ノ市町村ニ

通知スヘシ

前項ノ通知後田畑地租ノ各納期開始ノ時迄ニ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ田畑所在ノ市町村ニ通知スヘシ

第五章 地租徴収

第十八條 市町村ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付地租法第七十一條ノ申請又ハ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ同法第七十條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スル田畑ヲ調査シ同法第七十五條ノ報告ヲ爲スヘシ

第十九條 市町村ハ其ノ市町村内ノ土地ニ付土地臺帳ノ副本及地租名寄帳ヲ設備スヘシ
地租名寄帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第六章 雜則

第二十條 地租法以外ノ法律ニ依リ一定ノ期間地租ノ全部又ハ一部ヲ免除スル土地ニ付テハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外第六條及第七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 地租法第七十八條ノ規定ニ依ル通知及減租又ハ免租ノ申請ニ對スル許否ノ通知ハ土地所在ノ市町村ヲ經由スヘシ

第二十二條 市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本令中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和六年分地租ニ限り第五條ノ規定中北海道宅地租第一期其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ其ノ年十一月一日ヨリ三十日限、其ノ他第一期其ノ年十一月一日ヨリ三十日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣那霸市、首里市、島尻郡、中頭郡、國頭郡宅地租及田租其ノ年八月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、沖繩縣宮古郡(平良村字鹽川、仲筋、水納ヲ除ク)八重山郡(八重山村字波照間、與那國ヲ除ク)田租其ノ年七月一日ヨリ三十一日限トアルハ翌年一月一日ヨリ三十一日限、第十六條第一項ノ規定中三月中トアルハ十二月中トス
地租條例施行規則、土地臺帳規則、明治三十八年勅令第五百十九號及明治四十四年勅令第九十二號ハ之ヲ廢止ス但シ昭和五年分以前ノ地租ニ關シテ仍從前ノ例ニ依ル

地租法施行細則

(昭和六年四月一日大藏省令第六號)

改正 昭和十五年四月一日大藏省令第十二號

第一條 土地臺帳ハ第一號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 土地臺帳ノ謄本ハ第二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三條 地租名寄帳ハ第三號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第四條 地租法第七十四條及第七十五條ノ規定ニ依ル報告書ハ第四號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

土地臺帳規則施行細則、大正三年大藏省令第五號、明治二十二年大藏省訓令第四十九號ハ之ヲ廢止ス

土地臺帳(副本ヲ含ム)及地租名寄帳ノ書式ニ付テハ當分ノ内從前ノ例ニ準スルコトヲ得

明治三十八年大藏省令第五十號中第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十四年分地租ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

東京府管内八丈島ノ地租ニ關スル法律

(明治四十四年二月二十三日)
法律第一號

東京府管内八丈島ノ地租ハ黃綃一段ニ付金一圓七十二錢五厘ノ割合ニ依リ換算シ現金ヲ以テ翌年五月限り之ヲ納付スヘシ
附則
本法ハ明治四十三年分地租ヨリ之ヲ適用ス

地租、地租附加税及段別割ニ關スル法規ヲ皇

族所有ノ土地ニ適用スルノ件

(大正二年七月三十一日)
皇室令第八十一號

地租地租附加税及段別割ニ關スル法規ハ皇族賜邸ヲ除クノ外皇族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ皇室財産令第二十一條ニ掲ケタル皇族所有ノ土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

租税ニ關スル法規ヲ王公族所有ノ土地ニ適用スルノ件

(大正十五年十二月一日皇室令第十八號)

左ニ掲クル租税ニ關スル法規ハ王公族所有ノ土地ニ之ヲ適用ス但シ王又ハ公ノ殿邸地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

- 一 地租
- 二 地租附加税
- 三 段別割
- 四 朝鮮ニ於ケル租税ニシテ前各號ニ該當スルモノ

砂防法第十一條ノ地租其ノ他ノ公課減免ニ

關スル件 (明治三十二年八月十六日勅令第三百七十四號)

改正 昭和六年四月一日勅令第五十一號

- 第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其ノ所有者又ハ納稅義務者ノ申請ニ依リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其ノ地租ヲ輕減シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス
- 第三條 第一條ノ規定ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ土地ノ所在、地番、地目、地積、賃賃價格及地租ノ免除又ハ輕減ノ區分(輕減ニ付テハ其ノ程度共)ヲ記載シタル申請書ヲ稅務署長ニ提出スヘシ
- 第四條 第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減スヘキ土地ニ付テハ其ノ賃賃價格ヨリ輕減地租額ニ相當スル賃賃價格ヲ控除シタルモノヲ賃賃價格トシ前條ノ申請アリタル後ニ開始スル納期ヨリ其ノ賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス
- 第五條 第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ輕減シタル土地ニ付一定ノ行為ヲ禁止又ハ制限ノ解除アリタルトキハ直ニ地租法第九條第三項ノ例ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ修正シ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

私立學校用地免租ニ關スル法律 (大正八年四月五日) (法律第三十八號)

- 第一條 左ニ掲ケタルモノノ用ニ供スル土地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 私立ノ幼稚園、小學校、中學校、高等女學校、實業學校、專門學校、高等學校及大學
- 二 前號ニ掲ケサル私立學校ニシテ大藏大臣ニ於テ指定シタルモノ

第二條 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除スヘキ土地ハ校舍及寄宿舎、圖書館其ノ他保育又ハ教育上必要ナル附屬建物ノ敷地並ニ運動場、實習用地其ノ他直接ニ保育又ハ教育ノ用ニ供スルモノニ限ル但シ收益ヲ生スル土地ニ付テハ大藏大臣ハ免租スヘキ區域ヲ制限スルコトヲ得

第三條 北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ本法ニ依リ免租セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

本法ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

私立學校用地免租ニ關スル法律施行方 (大正八年十二月二十二日) (大藏省令第三十三號)

- 私立學校用地ニ對シ地租ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署長ニ申請スヘシ
 - 一 所在郡、市區町村並土地ノ字、地番、地目、反別又ハ坪數、地價及其ノ用途
 - 二 學校管理者ト納稅義務者ト異ナルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面
 - 三 學校ノ設立又ハ變更ノ年月日
- 前項ノ申請ヲ受ケタル場合ニ於テ收益ヲ生スル土地アルトキハ稅務署長ハ大藏大臣ニ稟議スヘシ地租ノ免除ヲ受ケタル土地ニシテ之カ供用ヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ
- 附 則
- 本令ハ大正九年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

航空法第三十八條ノ規定ニ依リ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ對スル地租免除ノ施行方 (昭和二年六月七日) (大藏省令第十七號)

第一條 航空法第三十八條ノ規定ニ依リ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付地租ノ免除ヲ請ハントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

- 一 所在市町村並土地ノ番號、地目、各筆毎ノ面積及地價
 - 二 飛行場經營者ト納稅義務者ト異ナルトキハ無料借地タルコトヲ證スル書面
 - 三 飛行場設置ノ目的及設置ノ期間
 - 四 飛行場ノ設置又ハ目的若ハ區域ノ變更ノ許可年月日
- 第二條 地租ノ免除ヲ受ケタル飛行場ノ用地ニシテ飛行場タルコト若ハ其ノ公共ノ用ニ供スルコトヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ
- 附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

造林地地租免除申請方 (明治四十一年一月十六日大藏省令第一號)

明治四十年法律第四十三號森林法第十二條ニ依リ造林地ノ地租免除ヲ得ムトスル者ハ所轄稅務署長ニ申請スヘシ

地種變更免租年期ニ關スル法律 (大正七年五月二十五日法律第四十三號)

改正 昭和八年三月二十八日法律第十九號

- 第一條 左ニ掲クル土地ニ付開墾ヲ爲シ又ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ加ヘテ地目變換ヲ爲シタルトキハ地租ヲ課スルニ至リタル年ヨリ二十年以内ノ地種變更免租年期ヲ許可ス但シ事業成功ノ定アル土地ニ付テハ事業成功後開墾ヲ爲シ又ハ開墾ニ等シキ勞費ヲ加ヘテ地目變換ヲ爲シタル場合ニ限ル
- 一 明治八年開拓使布達第三號山林荒蕪地拂下規則第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 二 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條但書ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 三 明治二十二年法律第十八號ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 四 明治二十三年法律第七十九號屯田兵土地給與規則第三條及第八條ノ規定ニ依リ地租ヲ免除シタル土地

- 五 明治三十年法律第二十六號北海道國有未開地處分法第十八條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 六 明治三十二年法律第二十七號北海道舊土人保護法第二條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 七 明治四十一年法律第五十七號北海道國有未開地處分法第十九條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 八 昭和二年法律第十八號第一條ノ規定ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 地種變更免租年期明ニ至リ地味成熟ニ至ラサルモノニ付テハ更ニ年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ通シテ三十五年ヲ超ユルコトヲ得
- 第二條 地種變更免租年期又ハ其ノ延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ政府ニ申請スヘシ
- 附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本法ハ本法施行前既ニ地租ヲ課スヘキ土地トナリ未タ地價ノ設定ナキモノニモ之ヲ適用ス
- 附 則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 (昭和八年法律第十九號)

地種變更免租年期ニ關スル法律施行規則 (大正七年五月二十五日大藏省令第二十三號)

改正 昭和八年五月二十六日大藏省令第十三號
昭和十一年五月十八日大藏省令第十三號

- 第一條 地種變更免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ開墾成功シ又ハ地目變換ヲ爲シタル後六十日以内ニ開墾又ハ地目變換ニ要シタル勞費ニ關スル明細書ヲ添ヘ地種變更免租年期ノ許可ヲ所轄稅務署長ニ申請スヘシ
 - 第二條 前條ニ依リ地種變更免租年期ノ許可ヲ申請セムトスル者ハ工事著手前三十日迄ニ工事著手ノ年月日、土地ノ所在、地番、現在地目、目的地目、地積及豫定ノ成功期日ヲ所轄稅務署長ニ届出ツヘシ
 - 第三條 地種變更免租年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ所轄稅務署長ニ其ノ旨申請スヘシ (昭和十一年省令第十三號改正)
- 附 則

第四條 本令ハ地種變更免租年期ニ關スル法律施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

北海道土地賃貸價格調査ニ關スル件 (大正七年一月二十一日)

改正 昭和五年三月十一日大藏省令第四號
昭和六年四月一日同令第七號
昭和八年八月二十一日同令第二十號

第一條 稅務署長ハ左ニ掲ケタル土地ニシテ地租ヲ課スルニ至リ賃貸價格ヲ設定セムトスルトキハ當分ノ内之ヲ賃貸價格調査會ニ諮問スヘシ

- 一 明治八年開拒使布達第三號山林荒蕪地拂下規則第二條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 二 明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條但書ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 三 明治二十二年法律第十八號ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 四 明治二十三年法律第七十九號屯田兵土地給與規則第三條及第八條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地
 - 五 明治三十年法律第二十六號北海道國有未開地處分法第十八條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 六 明治三十二年法律第二十七號北海道舊土人保護法第二條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 七 明治四十一年法律第五十七號北海道國有未開地處分法第十九條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 八 大正七年法律第四十三號地種變更免租年期ニ關スル法律第一條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
 - 九 昭和二年法律第十八號御料地拂下地ノ地租及登錄稅免除ニ關スル法律第一條ニ依リ地租ヲ課セサル土地
- 第二條 各稅務署所轄内ニ賃貸價格調査會ヲ置ク
- 第三條 賃貸價格調査會ハ賃貸價格設定ニ關シ稅務署長ノ諮問シタル事項ヲ調査ス
- 第四條 稅務署長ハ賃貸價格調査書ヲ作製シ之ヲ調査會ニ送付スヘシ
- 第五條 調査委員ノ定數ハ九人トシ左ノ如ク之ヲ定ム
- 一 北海道廳長官ノ指名シタル稅務署所轄内北海道廳所管ノ官吏及公吏三人
 - 二 稅務署所轄内市町村長ノ推薦シタル調査委員候補者ノ互選シタル者六人

前項第二號ノ互選ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ爲ス

特別ノ事由ニ因リ第一項第二號ノ定數ヲ増減スルトキハ別ニ之ヲ告示ス

第六條 前條ニ依リ調査委員定マリタルトキハ稅務署長ハ其ノ氏名ヲ公示スヘシ

第七條 各稅務署所轄内市町村長ハ調査委員任期滿了ノトキ又ハ新ニ賃貸價格調査會ヲ設置セラレタルトキハ其ノ市町村内ニ土地ヲ所有スル者ノ中ヨリ各市町村ニ付一人ノ調査委員候補者ヲ推薦シ其ノ住所氏名ヲ調査委員任期滿了ノトキハ其ノ翌年四月三十日迄ニ、新ニ賃貸價格調査會ヲ設置セラレタルトキハ其ノ翌月中ニ所轄稅務署長ニ報告スヘシ (昭和六年省令第七號、同八年同第二十號改正)

第八條 調査委員ノ任期ハ第六條ノ公示アリタル年ヨリ二年トス

稅務署ノ管轄區域ニ變更アリタル場合ニ於テ其ノ區域外ト爲リタル市町村長ノ推薦ニ係ル調査委員候補者及同調査委員候補者中ヨリ選出セラレタル調査委員アルトキハ調査委員候補者ハ其ノ資格ヲ失ヒ調査委員ハ其ノ職ヲ失フ

第九條 調査委員ニ關員ヲ生シタルトキハ官吏又ハ公吏ニ在リテハ第五條ノ規定ニ準シ北海道廳長官ノ指名ニ依リ其ノ他ノモノニ在リテハ調査委員候補者中年長者ヨリ順次之ヲ補充シ年齢同シキ者アルトキハ抽籤ニ依リ之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テハ第六條ノ規定ヲ準用ス

第十條 補闕ニ因リ調査委員ト爲リタル者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十一條 調査會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第十二條 調査委員ハ開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ定ムヘシ

第十三條 調査會第四條ニ依リ賃貸價格調査書ノ送付ヲ受ケタルトキハ二十日以内ニ之ヲ調査シ其ノ結果ヲ會長ヨリ稅務署長ニ報告スヘシ

第十四條 調査委員ニハ手當及旅費ヲ支給ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和五年省令第四號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和六年省令第七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則 (昭和八年命令第二十號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

御料地拂下地ノ地租及登録稅免除ニ關スル法律 (昭和二年三月三十日 法律第十八號)

第一條 北海道ニ於ケル御料地ニ屬スル未開地ヲ開拓シテ拂下ヲ受ケ又ハ之ヲ開拓シ若ハ素地ノ儘使用スルノ目的ヲ以テ拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ民有ト爲リタル年ノ翌年ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ賦課セス

第二條 前條ノ拂下地ニ付テノ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ニハ登録稅ヲ免除ス但シ所有權取得後六月内ニ登記ノ囑託ヲ請求セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ハ本法施行前拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ地價ノ設定ヲ爲ササルモノニモ亦之ヲ適用ス

第二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ該當スル土地ニシテ本法施行ノ際未タ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ヲ受ケサルモノニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ六月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

水道條例 (抄錄) (明治二十三年二月十三日法律第九號)

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應ジ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源地、貯水池、濾水場、水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第五條 水道用地ハ國稅其他ノ公課ヲ免除ス

砂防法 (抄錄) (明治三十年三月三十一日法律第二十九號)

第一條 此ノ法律ニ於テ砂防設備ト稱スルハ主務大臣ノ指定シタル土地ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノヲ謂ヒ砂防工事ト稱スルハ砂防設備ノ爲ニ施行スル作業ヲ謂フ

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此ノ法律ニ依リ治水上砂防ノ爲一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第三條 此ノ法律ニ規定シタル事項ハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ主務大臣ノ指定シタル土地ノ範圍外ニ於テ治水上砂防ノ爲施設スルモノニ準用スルコトヲ得

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

砂防法施行規程 (抄錄) (明治三十年十月二十六日勅令第三百八十二號)

第一條 內務大臣ニ於テ砂防法第二條ニ依リ指定スル土地ハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

航空法 (抄錄) (大正十年四月九日法律第五十四號)

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモ

ノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國立公園法（抄録）（昭和六年四月一日法律第三十六號）

- 第一條 國立公園ハ國立公園委員會ノ意見ヲ聽キ區域ヲ定メ主務大臣之ヲ指定ス
- 第八條 主務大臣ハ國立公園ノ風致維持ノ爲メ國立公園計畫ニ基キ其ノ區域内ニ特別地域ヲ指定スルコトヲ得
- 特別地域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲サントスル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セ
- スト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 一 工作物ノ新築、改築又ハ増築
 - 二 水面ノ埋立又ハ干拓
 - 三 礦物ノ試掘若ハ採掘、砂鑛ノ採取又ハ土石ノ採掘
 - 四 木竹ノ伐採
 - 五 廣告物看板其ノ他之ニ關スル物件ノ設置
- 特別地域内ノ山林ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ地租其ノ他ノ公課ヲ免除スルコトヲ得
- 附 則
- 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ之ヲ定ム

沖繩縣土地整理法（抄録）（明治三十二年三月十一日法律第五十九號）

第二十三條 地租條例及國稅徵收法ハ勅令ヲ以テ期日ヲ定メ漸次沖繩縣ニ施行ス但シ社寺地拜所ハ地租ヲ免除ス

森林法（抄録）（明治四十年四月二十三日法律第四十三號）

第三條 本法ニ於テ開墾ト稱スルハ地租條例ニ規定スルモノノ外燒畑、切替畑其ノ他土地ノ形質ヲ變更スル行爲ヲ謂フ

第十二條 本法施行以前ヨリ荒廢ニ屬シタル森林ニ付新ニ造林シタルトキハ其ノ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ造林シタル部

分ニ限リ三十年以内地租ヲ免スルコトヲ得

前項ノ規定ハ原野、山岳又ハ荒蕪地ニ新ニ造林シタル場合ニ之ヲ準用ス

府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前二項ニ依リ地租ヲ免セラレタル土地ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ左ニ掲クル場合ニ於テ森林ヲ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂ノ崩壞、流出ノ防備ノ爲メ必要ナルトキ
 - 二 飛砂ノ防備ノ爲メ必要ナルトキ
 - 三 水害、風害、潮害ノ防備ノ爲メ必要ナルトキ
 - 四 類雪又ハ墜石ニ因ル危險ノ防止ノ爲メ必要ナルトキ
 - 五 水源涵養ノ爲メ必要ナルトキ
 - 六 魚附ノ爲メ必要ナルトキ
 - 七 航行ノ目標ノ爲メ必要ナルトキ
 - 八 公衆ノ衛生ノ爲メ必要ナルトキ
 - 九 社寺、名所又ハ舊跡ノ風致ノ爲メ必要ナルトキ
- 第十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキ又ハ保安林トシテ存置スルノ必要ナシト認ムルトキハ保安林ヲ解除スルコトヲ得
- 第二十二條 主務大臣ニ於テ保安林ノ編入解除ニ關スル處分ヲ爲シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示シ地方長官ヲシテ其ノ森林所有者ニ其ノ旨ヲ通知シ且所在ノ市町村役場ニ揭示セシムヘシ
- 第三十二條 主務大臣國土保安上必要アリト認ムルトキハ保安林以外ノ森林ニ付區域又ハ箇所ヲ定メテ開墾ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得
- 第三十六條 主務大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ原野、山岳其ノ他ノ土地ニシテ第十四條第一號乃至第五號ノ場合ニ該當スルモノニ付本章ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

北海道國有未開地處分法（抄録）（明治四十一年四月十五日法律第五十七號）

- 第一條 北海道國有未開地ノ處分ハ本法ニ依リ北海道廳長官之ヲ行フ
- 第二條 土地ノ賣拂ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ期間内ニ其ノ土地ニ關スル事業ヲ成功スヘキ者又ハ素地ノ儘使用セムトスル者ニ對シ之ヲ行フ
- 第三條 自ラ耕作ヲ爲サムトスル者ノ爲土地ノ區域ヲ限リ特定地ヲ設置ス
特定地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ無償ニテ貸付シ成功ノ後之ヲ付與ス
- 第四條 公用又ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供セムトスル土地ハ之ヲ付與シ又ハ有償若ハ無償ニテ貸付スルコトヲ得
- 第五條 賣拂ヒ又ハ貸付スヘキ地積ノ制限並賣拂及貸付ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 民有地トノ交換ハ價額稍相均シキモノニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七條 賣拂ヲ爲ス土地ニ關スル事業ノ成功期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得
- 第八條 前二條ノ期間ハ植樹又ハ泥炭地ノ使用ニ限リ特ニ二十年迄之ヲ延長スルコトヲ得
- 第九條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ豫定ノ期間内ニ事業ヲ成功スルコト能ハサル者ニ對シテハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得
- 第十條 前項ノ延長期間ハ通シテ豫定期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得
- 第十一條 民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ事業成功期間滿了ノ翌年ヨリ起算シ十年ノ後ニ非サレハ之ヲ賦課セス但シ素地ノ儘使用スル土地又ハ交換若ハ第四條ニ依リ付與シタル土地ニ對シテハ民有ト爲リタル翌年ヨリ起算ス

北海道舊土人保護法 (抄錄) (明治三十二年三月二日法律第二十七號)

改正 昭和十二年三月三十一日法律第二十一號

- 第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ従事スル者又ハ従事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以内ヲ限リ無償下付スルコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノトス
 - 一 相續ニ因ルノ外讓渡スコトヲ得ス
 - 二 質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス

- 三 北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得
- 四 留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ
- 第三條ノ規定ニ依リ沒收ヲ受クルコトナキニ至リタル土地ニ付テハ前項ノ規定ハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テ讓渡又ハ物權ノ設定行爲ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セス但シ相續以外ノ原因ニ因ル所有權ノ移轉アリタル後ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
- 第二條ノ二 第一條ノ規定ニ依リ下付セラレタル土地ニハ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ三十年ヲ經過シタル後ニ非サレハ地租ヲ課セス又地方稅ヲ課スルコトヲ得
- 但シ相續以外ノ原因ニ因リ所有權ノ移轉アリタル土地、登記シタル質權ノ目的タル土地又ハ登記シタル百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

耕地整理法 (抄錄) (明治四十二年四月十三日法律第三十號)

- 第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ土地ノ農業上ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ本法ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行フヲ謂フ
 - 一 土地ノ交換、分合、開墾、地目變換其ノ他區劃形質ノ變更、湖海ノ埋立、干拓若ハ道路、堤塘、畦畔、溝渠、溜池等ノ變更廢置又ハ之ニ伴フ灌溉排水ニ關スル設備若ハ工事
 - 二 前號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設備又ハ其ノ維持管理
 - 三 開墾又ハ湖海ノ埋立若ハ干拓ニ依ル耕地整理ニ附隨シテ行フ整理施行地ノ利用ニ關スル必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ施設
 - 四 前三號ノ事項ニ關シ必要アルトキ國、道府縣、市町村其ノ他公共團體ノ認許ヲ得テ行フ營造物ノ修繕
- 第三條ノ二 市ノ區域内ノ土地及主務大臣ノ指定スル地域内ノ土地ハ之ヲ整理施行地區ニ編入スルコトヲ得
- 但シ市ノ區域内ノ土地ニシテ主務大臣ノ指定スル地域内ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 耕地整理施行者ハ耕地整理組合設立ノ認可ヲ申請セムトスル者又ハ整理施行者ハ整理施行地ヲ管轄スル登記所、漁業ニ關スル登録官廳、土地臺帳所管廳、市役所又ハ町村役場ニ就キ無償ニテ耕地整理ニ關シ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得
- 但シ登記所、漁業ニ關スル登録官廳又ハ土地臺帳所管廳ハ必要アリト認ムルトキハ耕地整理組合若ハ耕

地整理組合聯合會ノ組合長組合副長若ハ聯合會會長聯合會副會長又ハ臨理代理者以外ノ者ニ付其ノ資格ニ關スル市町村長ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス

第十一條 耕地整理施行スル爲國有ニ屬スル道路、堤塘、溝渠、溜池等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ依リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ整理施行地ノ所有者ニ交付ス耕地整理ノ施行ニ依リ開設シタル道路、堤塘、溝渠、溜池等ニシテ前項廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十二條 耕地整理ノ施行ニ依ル土地ノ異動ニ關シテハ地租法第十五條、第十七條第二項、第十九條、第二十條、第二十二條、第二十四條、第二十六條第一項、第二十九條乃至第三十三條、第三十五條、第三十六條、第三十八條、第四十條乃至第四十三條、第四十五條、第四十六條、第四十八條及第五十條乃至第五十三條ノ規定ヲ適用セス

第十三條 耕地整理ヲ施行シタル土地ニ付テハ稅務署長ハ一筆毎ニ地番ヲ附シ其ノ地目、地積及賃賃價格ヲ定ム
前項ノ賃賃價格ハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ其ノ耕地整理ノ施行ニ依リ第十四條ノ四ノ有租地ト爲リタルモノヲ除クノ外整理施行地區内ノ土地ノ現賃賃價格ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム但シ第十一條第二項ノ規定ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ地積カ同條第一項ノ規定ニ依リ交付シタル土地ノ地積ヨリ多キ場合ニ於テハ其ノ地積ノ差數ヲ整理施行地區内ノ土地ノ現賃賃價格ノ平均額ニ乗シタル額ヲ現賃賃價格ノ合計額ヨリ控除シタル額ヲ以テ現賃賃價格ノ合計額トス

規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ其ノ各區ヲ以テ前項ノ整理施行地區ト看做ス

第十三條ノ二 前條第二項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦ヲ爲シタル土地ニ付テハ其ノ配賦ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ配賦シタル賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス
前項ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收スル年ノ前年分迄ハ整理施行地ノ地租ハ原地(工事著手前ノ土地)相當ノ賃賃價格ニ依リ之ヲ徵收ス

第十三條ノ三 第十三條第二項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦ヲ爲シタル土地ハ工事著手ノ年ノ翌年ヨリ起算シ七十年ノ耕地整理減租年期ヲ有ス
地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃賃價格ヲ改訂スル場合ニ於テハ耕地整理減租年期地ノ賃賃價格ハ其ノ改訂ニ依リ定メラルヘキ賃賃價格ニ相當スル額ニ第三項ノ規定ニ依リ定メタル假賃賃價格ノ合計額ヲ以テ第十三條第二項ノ現賃賃

價格ノ合計額ヲ除シテ得タル比率ヲ乘シタル額ニ之ヲ改訂ス

第十三條第二項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦ヲ爲シタル土地ニ付テハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ假賃賃價格ヲ定ム

稅務署長ハ假賃賃價格ヲ定メタルトキハ整理施行者ニ之ヲ通知スヘシ

第十三條ノ四 耕地整理減租年期地ニ付地目變換、地類變換又ハ開墾ヲ爲シタルトキハ其ノ耕地整理減租年期ハ消滅ス

第十三條ノ五 地租法第五十九條第一項ノ規定ハ耕地整理減租年期地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條ノ六 耕地整理減租年期地ニ付テハ其ノ年期ノ滿了スル年ニ於テ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ修正シ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十四條 耕地整理ノ施行ニ依リ開墾又ハ第一類地中ノ地目變換ヲ爲シタル土地ノ地積カ整理施行地區内ノ有租地ノ總地積ノ五分ノ一ヲ超ユル場合ニ於テハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ修正シ修正賃賃價格ノ合計額ト之ニ對スル從前ノ賃賃價格ノ合計額トノ差額ノ平均額ニ開墾又ハ變換シタル土地ノ總地積ト整理施行地區内ノ有租地ノ總地積ノ五分ノ一ニ相當スル地積トノ差數ヲ乘シタル額ヲ開墾又ハ變換シタル土地ノ從前ノ賃賃價格ノ合計額ニ加ヘタルモノヲ以テ其ノ土地ノ第十三條第二項ノ現賃賃價格トス

前項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正ヲ爲シタル土地ニ付テハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ開墾シタルモノニ在リテハ工事著手ノ年ノ翌年ヨリ起算シ四十年(四十年ヲ經過スルモ尙地味成熟スルニ至ラスト認ムルモノニ付テハ四十年以上五十年以内)ノ耕地整理開墾減租年期ヲ、變換シタルモノニ在リテハ工事完了ノ年及其ノ翌年ヨリ六年ノ耕地整理地目變換減租年期ヲ許可ス

前二項ノ場合ニ於テ二十年以内ニ成功シ能ハサル地目變換ハ之ヲ開墾ト看做ス

第十四條ノ二 無租地ヲ整理施行地區ニ編入シ有租地ト爲シタルトキハ第十一條第一項ノ規定ニ依リ交付シタル土地ヲ除クノ外稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事完了ノトキ從前ノ地域ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃賃價格ヲ設定シ賃賃價格ヲ以テ其ノ土地ノ第十三條第二項ノ現賃賃價格トス

第十四條ノ三 第十四條第一項又ハ前條ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正又ハ設定ヲ爲シタル後賃賃價格配賦前ニ於テ地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃賃價格ヲ改訂スル場合ニ於テハ修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格ハ工事完了ノトキノ現況

ニ依リ之ヲ改訂ス

第十四條ノ四 國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂又ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ耕地整理ノ施行ニ依ル開拓ノ事業成功ニ因リ賣拂又ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノニ付テハ稅務署長ハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ耕地整理開拓免租年期ヲ許可ス

國有財産法第二十一條ノ規定ニ依リ賣拂若ハ讓與ノ豫約ヲ爲シタル土地ニシテ耕地整理ノ施行ニ依ル埋立(干拓ヲ含ム)ノ事業成功ニ因リ賣拂若ハ讓與ヲ受ケ有租地ト爲リタルモノ又ハ耕地整理ヲ施行シ公有水面埋立法ニ依ル埋立ヲ爲シ同法第二十四條若ハ第五十條ノ規定ニ依リ埋立地ノ所有權ヲ取得シ有租地ト爲リタルモノニ付テハ稅務署長ハ土地所有者ノ申請ニ依リ有租地ト爲リタル年及其ノ翌年ヨリ二十年ノ耕地整理埋立免租年期ヲ許可ス

前二項ノ場合ニ於テ整理施行者ハ土地所有者ニ代リテ其ノ申請ヲ爲スコトヲ得
第一項又ハ第二項ノ年期限滿了スルモ尙地味成熟セサル土地ニ付テハ稅務署長ハ土地所有者ノ申請ニ依リ更ニ十年以内ノ年期限長ヲ許可スルコトヲ得

第十五條 整理施行地區内ニ開墾減租年期、地目變換減租年期、開拓減租年期、埋立免租年期、耕地整理減租年期、耕地整理開拓免租年期又ハ耕地整理埋立免租年期ヲ有スル土地アル場合ニ於テハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事著手ノトキ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ修正又ハ設定シ修正賃貸價格又ハ設定賃貸價格ヲ以テ其ノ土地ノ第十三條第二項ノ現賃貸價格トス

前項ノ土地ニ第十四條第一項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ前項ノ修正賃貸價格又ハ設定賃貸價格ヲ以テ其ノ土地ノ第十四條第一項ノ從前ノ賃貸價格トス

整理施行地區内ニ工事完了ノトキニ於テ荒地免租年期地(震災ニ因リ一定ノ期間地租ノ免除ヲ受クル土地ヲ含ム)アル場合ニ於テハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ工事完了ノトキ從前ノ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ設定シ設定賃貸價格ヲ以テ其ノ土地ノ第十三條第二項ノ現賃貸價格トス

第十五條ノ二 前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ修正又ハ設定シ賃貸價格トス後賃貸價格配賦前ニ於テ地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃貸價格ヲ改訂スル場合ニ於テハ前條第一項ノ修正賃貸價格又ハ設定賃貸價格ハ工事著手ノトキノ現況ニ依リ、前條第三項ノ設定賃貸價格ハ工事完了ノトキノ現況ニ依リ之ヲ改訂ス

第十五條ノ三 第十五條第一項又ハ第三項ノ土地ニ付テハ其ノ年期力賃貸價格配賦前ニ滿了スル場合ニ於テハ其ノ滿了スル

年ノ翌年分ヨリ賃貸價格配賦ノ年ノ分迄修正賃貸價格又ハ設定賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十六條 整理施行地區内ニ賃貸價格配賦ノトキニ於テ第十五條第一項若ハ第三項ニ掲クル年期、耕地整理開墾減租年期又ハ耕地整理地目變換減租年期ヲ有スル土地アル場合ニ於テハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ左ノ各號ノ金額ヲ整理施行地區内ノ全部又ハ一部ノ土地ニ配當ス命令ヲ以テ定ムル期間内ニ其ノ申請ナキトキハ稅務署長ハ職權ヲ以テ其ノ配當ヲ行フ

一 第十五條第一項ニ掲クル減租年期地ノ同項ノ修正賃貸價格ヨリ之ニ對スル從前ノ賃貸價格ヲ控除シタル金額

二 第十五條第一項又ハ第三項ニ掲クル免租年期地ノ同條第一項又ハ第三項ノ設定賃貸價格ニ相當スル金額

三 耕地整理開墾減租年期又ハ耕地整理地目變換減租年期ヲ有スル土地ノ第十四條第一項ノ現賃貸價格ヨリ之ニ對スル從前ノ賃貸價格ヲ控除シタル金額

第十六條ノ二 地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃貸價格ヲ改訂スル場合ニ於テハ配當金額ハ整理施行地區内ノ耕地整理減租年期地ニ付第十三條ノ三第二項ノ規定ニ依リ改訂セラルヘキ賃貸價格ノ合計額ヲ之ニ對スル改訂前ノ賃貸價格(配當金額ヲ控除セサルモノ)ノ合計額ヲ以テ除シテ得タル比率ヲ改訂前ノ配當金額ニ乗シタル額ニ之ヲ改訂ス

第十六條ノ三 第十六條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付テハ同條ノ年期ノ殘年期間中第十三條第二項ノ規定ニ依リ配賦ヲ爲シタル賃貸價格(第十三條ノ三第二項ノ規定ニ依リ改訂シタル場合ニ於テハ其ノ賃貸價格)ヨリ配當金額ヲ控除シタル額ヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第十六條ノ四 第十六條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付同條ノ年期ノ殘年期間中土地ノ異動ニ因リ賃貸價格ヲ修正スル場合ニ於テハ修正賃貸價格ヨリ配當金額ヲ控除シタル額ヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第十六條ノ五 前二條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル土地ニ付テハ賃貸價格ヲ定メタル年ノ翌年分ヨリ其ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十六條ノ六 第十六條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付テハ同條ノ年期ノ殘年期間ノ滿了スル年ニ於テ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ修正シ其ノ修正ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ修正賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十六條ノ七 地租法第五十九條第一項ノ規定ハ第十六條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付荒地免租年期ヲ許可シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ荒地免租年期ノ殘年期間ニ付第十六條ノ規定ニ依リ配當ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條ノ八 第十三條第三項ノ規定ハ第十四條第一項、第十四條ノ二、第十五條第一項、第三項、第十六條及第十六條ノ二ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 換地ハ別ニ規定アル場合ヲ除クノ外第三十條第四項ノ告示ノ日ヨリ之ヲ從前ノ土地ト看做ス

第三十條 換地ハ從前ノ土地ノ地目、地積、等位等ヲ標準トシテ之ヲ交付スヘシ但シ地目、地積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル部分ニ關シテハ金錢ヲ以テ之ヲ清算スヘシ

特別ノ事情ノ爲前項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ規約ノ定ムル所ニ依ル

前二項ノ規定ニ依ル處分ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官前項ノ認可ヲ與ヘタルトキハ之ヲ告示シ直ニ其ノ旨ヲ管轄登記所ニ通知スヘシ

第三十一條 前條ノ規定ニ依ル處分ハ整理施行地ノ全部ニ付工事完了シタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ規約ニ別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 市制第六條ノ市ニ於テハ第三十八條及第五十三條第一項第五號ノ市ニ關スル規定ハ區ニモ之ヲ適用ス

市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市長ニ關スル規定ハ區長ニモ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニモ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ、町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

第四十二條ノ二 耕地整理施行ノ爲土地ヲ分筆スルノ必要アル場合ニ於テハ組合ハ其ノ所有者ニ代リ之ニ關スル手續ヲ爲スコトヲ得

第八十六條ノ二 第十三條ノ三第三項ノ假貸賃價格ノ決定ニ對シ不服アル整理施行者ハ同條第四項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ訴願スルコトヲ得

附 則

第一條 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヨリ之ヲ施行ス

第二條 昭和九年三月三十一日迄第三十四條第二項、第五十條第一項及第六十五條第二項ノ改正規定ニ依リ難キ事項ニ關シテハ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三條 大正十五年四月一日以後地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區内ノ土地ノ賃賃價格ハ稅務署長ハ整理施行者ノ申請ニ依リ其ノ地區内從前ノ土地ニ付土地賃賃價格調査法ニ依リ調査シタル賃賃價格(以下調査賃賃價格ト稱ス)ノ合計額ヲ工事完了ノトキノ現況ニ依リ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム

命令ノ定ムル期間内ニ前項ノ申請ナキトキハ第三項ノ規定ニ依リ定メタル賃賃價格ヲ以テ前項ノ土地ノ賃賃價格トス

第一項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦ヲ爲ス迄ハ其ノ土地ノ賃賃價格ハ調査賃賃價格ノ合計額ヲ從前ノ地價ニ依リ算出シタル地租額ノ地租額ニ按分シテ之ヲ定ム

第一項及前項ノ場合ニ於テ調査賃賃價格ニ百分ノ三・八ヲ乘シタル金額カ從前ノ地價ニ依リ算出シタル地租額ノ地租額ノ三倍八割ヲ超ユル土地アルトキハ地租額ノ三倍八割ニ相當スル金額ヲ百分ノ三・八ヲ以テ除シタル金額ヲ以テ其ノ土地ノ調査賃賃價格トス

第十三條第二項但書ノ改正規定ハ第一項及第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦ヲ爲シ又ハ之ヲ定メタル土地ハ耕地整理減租年期ヲ有ス但シ地價配賦後地目變換、地類變換又ハ開墾ヲ爲シタル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條ノ三第二項、第三項及第八十六條ノ二ノ改正規定ハ前條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦ヲ爲シ又ハ之ヲ定メタル土地ニ之ヲ準用ス

第五條 附則第三條第一項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦ヲ爲シタル土地ニ付テハ其ノ配賦ヲ爲シタル年ノ翌年分ヨリ配賦シタル賃賃價格ニ依リ、同條第三項ノ規定ニ依リ賃賃價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ同條第一項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦ヲ爲ス年ノ分迄其ノ定メタル賃賃價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

附則第三條第一項ノ規定ニ依リ昭和六年ニ賃賃價格ノ配賦ヲ爲シタル土地ノ昭和六年分ノ地租ハ附則第三條第三項ノ規定ニ準シ算出シタル賃賃價格ニ依リ之ヲ徵收ス

第六條 大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區内ノ土地ノ賃賃價格ハ其ノ土地ノ屬スル郡又ハ市ニ於ケル土地(大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲シタル土地ヲ除ク)ノ地目別ノ大正十五年四月一日現在ノ地價ノ合計額ヲ以テ之ニ對スル地租法第九十二條ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ合計額ヲ除シテ得タル比率ヲ地目別ニ每筆ノ地價ニ乘

シタル額トス前項ノ場合ニ於テ其ノ土地ノ屬スル郡又ハ市ニ於ケル當該地目ノ土地ノ大正十五年四月一日現在ノ總地積ノ二分ノ一以上カ其ノ前日迄ニ地價配賦ヲ爲シタルモノナルトキハ同項ノ郡又ハ市ハ之ヲ府縣トス

第一項ノ場合ニ於テ附則第十六條第一項但書ノ規定ニ依ル宅地ノ賃貸價格ハ其ノ土地ノ屬スル府縣ニ於ケル宅地(大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲シタル宅地ヲ除ク)ノ大正十五年四月一日現在ノ地價ノ合計額ヲ以テ之ニ對スル地租法第九十二條ノ規定ニ依ル賃貸價格ノ合計額ヲ除シテ得タル比率ヲ其ノ每筆ノ地價ニ乘シタル額トス

第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ル賃貸價格カ地租法第九十二條ノ規定ニ依ル賃貸價格ヲ超ユル土地ニ付テハ同條ノ規定ニ依ル賃貸價格ヲ以テ其ノ賃貸價格トス

第七條 前條ノ規定ハ地價配賦後地目變換地類變換又ハ開墾ヲ爲シタル土地ニ之ヲ適用セス

前條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル土地ニ付テハ昭和六年分ヨリ其ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

前條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ定メタル土地ハ耕地整理減租年額ヲ有ス

第八條 地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃貸價格ヲ改訂スル場合ニ於テハ前條第三項ノ年額ヲ有スル土地ノ賃貸價格ハ其ノ改訂ニ依リ定メラルヘキ賃貸價格ニ相當スル額ニ附則第六條ノ規定ニ依リ定メタル賃貸價格ノ合計額ヲ之ニ對スル地租法第九十二條ノ規定ニ依ル賃貸價格ニ相當スル額ノ合計額ヲ以テ除シテ得タル比率ヲ乘シタル額ニ之ヲ改訂ス

第九條 第十四條及第十四條ノ二ノ改正規定ハ大正十五年四月一日以後地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區内ノ土地ニシテ從前ノ第十四條ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタルモノニ付附則第三條ノ調査賃貸價格ヲ算定スル場合ニ之ヲ準用ス但シ附則第三條第三項ニ規定スル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ヲ要セス

第十條 第十四條及第十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際未タ地價配賦ヲ爲ササル整理施行地區内ノ土地ニシテ從前ノ第十四條ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタルモノニ付現賃貸價格ヲ算定スル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 本法施行前耕地整理地價据置年額若ハ其ノ年額延長又ハ耕地整理新開免租年額ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ其ノ年額ノ滿了セサルモノハ左ノ區分ニ從ヒ本法ニ依リ減租年額又ハ免租年額ヲ許可セラレタルモノト看做ス

一 耕地整理地價据置年額又ハ其ノ年額延長ハ開墾シタル土地ニ付許可セラレタルモノニ在リテハ耕地整理開墾減租年額

ニ 地目變換ヲ爲シタル土地ニ付許可セラレタルモノニ在リテハ耕地整理地目變換減租年額トシ

付許可セラレタルモノニ在リテハ耕地整理開墾免租年額トス

前項ノ年額ハ本法施行前許可セラレタル年額ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年ニ於テ滿了ス

第十二條 第十五條ノ改正規定ハ大正十五年四月一日以後地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區内ノ土地ニシテ從前ノ第十五條ノ規定ニ依リ地價修正又ハ設定ヲ爲シタルモノニ付附則第三條ノ調査賃貸價格ヲ算定スル場合ニ之ヲ準用ス但シ附則第三條第三項ニ規定スル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ヲ要セス

第十三條 第十五條ノ改正規定ハ本法施行ノ際未タ地價配賦ヲ爲ササル整理施行地區内ノ土地ニシテ從前ノ第十五條ノ規定ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタルモノニ付現賃貸價格ヲ定ムル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條 第十五條ノ改正規定ハ前項ノ土地ニ付賃貸價格配賦前ニ於テ地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃貸價格ヲ改訂スル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 三ノ改正規定ハ第一項ノ土地ニ付其ノ年額カ賃貸價格配賦前ニ滿了スル場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 第十六條乃至第十六條ノ七ノ改正規定ハ附則第三條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ノ配賦ヲ爲シ又ハ之ヲ定ムルトキニ於テ整理施行地區内ニ從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ利益ヲ有スル土地アル場合ニ之ヲ準用ス但シ附則第三條第三項ニ規定スル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ヲ要セス

第十七條 大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲シタル整理施行地區内ノ土地ニシテ從前ノ第十六條ノ規定ニ依リ利益ヲ有スルモノニ付テハ同條ノ殘年期間ノ經過スル年ノ翌年迄ハ附則第六條ノ規定ニ依ル其ノ土地ノ賃貸價格ヨリ第二項ノ規定ニ依リ算出スル額ヲ控除シタル額ヲ以テ其ノ賃貸價格トス

前項ノ規定ニ依リ控除スヘキ額ハ從前ノ第十六條ノ規定ニ依ル利益ニ相當スル地租額ノ地租額ノ地租條例第一條ニ規定スル其ノ土地ノ稅率ヲ以テ除シタル額ニ其ノ土地ノ從前ノ地價ヲ以テ附則第六條ノ規定ニ依ル賃貸價格ヲ除シテ得タル比率ヲ乘シタル額トス

第十八條 第十六條ノ四乃至第十六條ノ七ノ改正規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 附則第六條ノ規定ハ市ノ區域内ノ宅地及主務大臣ノ指定スル地域内ノ宅地ニハ之ヲ適用セス但シ市ノ區域内ノ宅地ニシテ主務大臣ノ指定スル地域内ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス大正十五年三月三十一日迄ニ地價配賦ヲ爲ササリシ整

理施行地區内ノ宅地ニシテ市ノ區域内又ハ主務大臣ノ指定スル地域内ノモノ（市ノ區域内ノ宅地ニシテ主務大臣ノ指定スル地域内ノモノヲ除ク）ハ耕地整理減租年額ヲ有セス

第十七條 第十二條乃至第十六條ノ七ノ改正規定及前條ノ規定ハ第九十四條ノ規定ニ拘ラス明治三十二年法律第八十二號耕地整理法ニ依リ耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニシテ第九十六條ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲ラス且未タ地價配賦ヲ爲ササルモノニ之ヲ準用ス附則第十二條乃至前條ノ規定ハ第九十四條ノ規定ニ拘ラス明治三十二年法律第八十二號耕地整理法ニ依リ耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニシテ第九十六條ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲ラス且既ニ地價配賦ヲ爲シタルモノニ之ヲ準用ス

第十八條 第十三條第三項ノ改正規定ハ附則第三條第一項、第三項、第六條第一項、第九條、第十條、第十二條、第十四條第十五條及前條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 附則第十七條ノ規定ハ第九十二條第二項但書ニ規定スル者ニ之ヲ準用ス

耕地整理法施行規則（抄録）（明治四十二年十月十三日農商務省令第三十九號）

改正 昭和六年三月三十一日農林省令第七號

第三條ノ二 主務大臣耕地整理法第三條ノ二ノ規定ニ依リ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第五條 耕地整理法第三十四條第二項、第五十條第一項、第五十五條第二項、第五十六條第二項、第六十五條第二項又ハ第六十八條第二項ノ規定ニ依リ土地ノ賃賃價格ヲ計算スル場合ニ於テ耕地整理法第十一條ノ國有地以外ノ無租地同法第十五條第一項若ハ第三項ノ土地又ハ一筆ノ土地ノ一部アルトキハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ其ノ現況ニ依リ整理施行地區内ノ土地ノ賃賃價格ヲ參酌シテ相當ノ準賃賃價格ヲ附スヘシ埋立ノ免許ヲ受ケタル水面ニ付亦同シ

地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ一般ニ賃賃價格ノ改訂アリタルトキハ耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立ノ認可申請者又ハ整理施行者ハ遲滞ナク前項ノ準賃賃價格ヲ改訂スヘシ

耕地整理法第十五條第一項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正又ハ設定アリタル土地ニ付テハ其ノ修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格（耕地整理法第十五條ノ二ノ規定ニ依リ改訂シタル場合ニ於テハ其ノ改訂シタルモノ）ヲ以テ第一項ノ準賃賃價格ト看

做ス

第八條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ第五號、第六號、第九號及第十號ノ事項ハ各區毎ニ之ヲ記載スヘシ

一 整理施行地ノ現況及工事施行ノ目的

二 工事其ノ他ノ事業ノ計畫説明

三 削除

四 主要工事ノ仕様

五 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及地積ノ地目別合計ノ豫定

六 工事施行ニ依リテ得ヘキ利益

七 整理施行地及之ニ隣接スル土地、水面ノ現形圖

八 整理豫定圖

九 工事ノ著手及完了ノ豫定期期

十 維持管理ニ要スルモノヲ除ク外工事費其ノ他一切ノ費用及夫役現品ノ豫算

第十條 耕地整理施行又ハ耕地整理組合設立ノ認可アリタルトキハ整理施行者ハ工事ニ著手スル前第八條第七號ノ圖面ヲ添附シテ左ノ事項ヲ所轄稅務署長ニ申告スヘシ其ノ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

一 整理施行地ノ屬セル郡市町村並土地ノ字、地番及水面ノ位置、地積

二 耕地整理施行若ハ耕地整理組合設立又ハ整理施行地區變更ノ認可ノ年月日

三 工事施行後ニ於ケル土地ノ筆數及地積ノ地目別合計ノ豫定

四 工事ノ著手及完了ノ豫定期期

第十條ノ二 整理施行地區内ニ一筆ノ一部ヲ編入シタル土地アルトキハ前條ノ申告ト共ニ分筆ノ手續ヲ爲スヘシ

第十條ノ三 耕地整理法第十五條第一項ノ規定ニ依ル賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ハ工事著手前申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請書ニハ耕地整理法第十五條第一項ノ土地ノ字、地番、地目（土地臺帳ノ地目ガ土地ノ現況ト異ナルトキハ土地臺帳ノ地目及現況ニ依ル地目）地積及修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格ノ見積額ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十條ノ四 整理施行者ハ工事著手前整理施行地區内ノ土地及水面ノ等位ヲ評定スヘシ

第十一條 工事ニ著手シ又ハ工事完了シタルトキハ整理施行者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官及所轄稅務署長ニ届出ツヘシ

第十二條 規約ヲ以テ整理施行地區ヲ數區ニ分チタル場合ニ於テハ、各區毎ニ第十條乃至第十條ノ三及前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條ノ二 耕地整理法第十四條第一項、第十四條ノ二及第十五條、第三項ノ規定ニ依ル賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ハ工事完了ノ届出ト共ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請書ニハ從前ノ土地ノ字、地番、地目及地積、之ニ對スル工事完了後ノ地目及地積並ニ修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格ノ見積額ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ書面ニハ從前ノ土地及工事完了後ノ土地ノ各筆ノ區域ヲ表示シタル圖面ヲ添附スヘシ

第十二條ノ三 耕地整理開墾減租年期、耕地整理地目變換減租年期、耕地整理開拓免租年期又ハ耕地整理埋立免租年期ノ許可ノ申請ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後三十日以内ニ、耕地整理開拓免租年期又ハ耕地整理埋立免租年期延長ノ許可ノ申請ハ年期ノ滿了スル年ノ六月三十日迄ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ耕地整理開拓免租年期若ハ耕地整理埋立免租年期ノ許可又ハ其年期延長ノ許可ノ申請書ニハ其ノ土地ノ字、地番、地目及地積並ニ土地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十三條 整理施行者ハ工事完了ノ届出ヲ爲シタル後遲滞ナク換地説明書、整理確定圖及賃賃價格配賦案ヲ作成スヘシ

賃賃價格配賦案ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理施行地區内ノ土地ノ現賃賃價格ノ合計額及其ノ算出ノ基礎

二 豫定地番、地目、地積及配賦賃賃價格

三 耕地整理法第十三條ノ三第三項ノ規定ニ依ル假賃賃價格ノ見積額

四 耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ニ依リ所有者タルヘキ者ノ氏名又ハ名稱及住所

前項第二號乃至第四號ノ事項ハ工事完了後ノ土地ノ各筆ニ付之ヲ記載スヘシ

賃賃價格配賦案ハ耕地整理組合ニ在リテハ耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル處分ノ議決ヲ爲ス總會又ハ總會會議ニ於テ、共同施行ニ依ル耕地整理ニ在リテハ規約ニ定ムル會議ニ於テ其ノ承認ヲ經ヘシ

第十六條 耕地整理法第十三條第二項ノ規定ニ依ル賃賃價格配賦ノ申請ハ同法第三十條第三項ノ認可アリタル後遲滞ナク申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請書ニハ賃賃價格配賦案耕地整理法第三十條第三項ノ認可書ノ謄本、換地説明書及整理確定圖ヲ添附スヘシ

耕地整理法第十三條ノ三第三項ノ規定ニ依ル假賃賃價格決定ノ申請ハ第一項ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條ノ二 耕地整理法第十三條ノ三第二項又ハ第十六條ノ二ノ規定ニ依リ算出シタル比率ニ千分ノ一未滿ノ端數アル場合ニ於テハ其ノ端數ハ之ヲ切捨ツ

第十七條 耕地整理法第十六條ノ規定ニ依ル配當ノ申請ハ賃賃價格ノ配賦アリタル後六十日以内ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請書ニハ配當ヲ受クヘキ土地ノ字及地番並ニ之ニ配當スヘキ金額、年期ノ種別及其ノ殘年期間ヲ記載シタル配當案ヲ添附スヘシ

第十七條ノ二 左ノ事項ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理組合ニ在リテハ評議員會ニ於テ、共同施行ニ依ル耕地整理ニ在リテハ規約ニ定ムル會議ニ於テ其ノ承認ヲ經ヘシ

一 第十條ノ三第二項及第十二條ノ二第二項ノ修正賃賃價格又ハ設定賃賃價格ノ見積額

二 前條第二項ノ配當案

第十七條ノ三 所轄稅務署長耕地整理法ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦、修正若ハ設定、配當又ハ年期若ハ年期延長ノ許可ヲ爲シタルトキハ申請者又ハ整理施行者ニ之ヲ通知スヘシ

第二十七條 市制第六條ノ市ニ於テハ第六條、第二十四條及第三十八條ノ市ニ關スル規定ハ區ニモ之ヲ適用ス

市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本則中市長ニ關スル規定ハ區長ニモ、市役所ニ關スル規定ハ區役所ニモ之ヲ適用ス

町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本則中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ町村役場ニ關スル規定ハ町村役場ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附 則 (昭和六年農林省令第七號)

第一條 本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條 昭和六年法律第二十九號附則第三條第一項ノ規定ニ依ル賃賃價格配賦ノ申請ハ昭和九年三月三十一日迄ニ申請書及

賃賃價格配賦案ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第十三條第二項、第三項及第十七條ノ二ノ改正規定ハ前項ノ賃賃價格配賦案ニ之ヲ準用ス

昭和六年法律第二十九號附則第四條第二項ノ規定ニ依リ假賃賃價格決定ノ申請ハ第一項ノ申請ト共ニ之ヲ爲スヘシ

第五條 昭和六年法律第二十九號附則第四條第二項ノ規定ニ依リ假賃賃價格決定ノ申請書ニハ前條第三項ノ規定ニ依リ申請

ヲ爲ス場合ヲ除クノ外整理施行地區内ノ土地ノ字、地番、地目、地積及假賃賃價格ノ見積額ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第十七條ノ二ノ改正規定ハ前項ノ假賃賃價格ノ見積額ニ之ヲ準用ス

第六條 昭和十年三月三十一日迄ニ昭和六年法律第二十九號附則第四條第二項ノ規定ニ依リ假賃賃價格決定ノ申請ナキトキ

ハ所轄稅務署長ハ職權ヲ以テ假賃賃價格ヲ定ムヘシ

第七條 昭和六年法律第二十九號附則第九條又ハ第十條第一項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ハ昭和八年三月

三十一日迄ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第十二條ノ二第二項及第十七條ノ二ノ改正規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第八條 從前ノ第十五條ノ二ノ規定ニ依リ申請ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ第十二條ノ三ノ改正規

定ニ依リ申請ト看做ス

一 耕地整理地價据置年期ノ申請ハ開墾シタル土地ニ付爲シタルモノニ在リテハ耕地整理開墾減租年期ノ申請、地目變換

ヲ爲シタル土地ニ付爲シタルモノニ在リテハ耕地整理地目變換減租年期ノ申請トス

二 耕地整理新開免租年期ノ申請ハ埋立地又ハ干拓地ニ付爲シタルモノニ在リテハ耕地整理埋立免租年期ノ申請、其ノ他

ノ土地ニ付爲シタルモノニ在リテハ耕地整理開拓免租年期ノ申請トス

第九條 昭和六年法律第二十九號附則第十二條又ハ第十三條第一項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ハ昭和八年

三月三十一日迄ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

耕地整理法第十五條第一項ノ土地ニ付前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第十條ノ三第二項及第十七條ノ二ノ改正規定ヲ、耕

地整理法第十五條第三項ノ土地ニ付前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ第十二條ノ二第二項及第十七條ノ二ノ改正規定ヲ準用ス

第十條 昭和六年法律第二十九號附則第十四條ノ規定ニ依リ配當ノ申請ハ同法附則第三條ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ配賦アリ

タル後六十日以内ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

第十七條第二項及第十七條ノ二ノ改正規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 從前ノ第十三條第二項ノ規定ニ依リ地價配賦案ノ承認ヲ得未タ地價配賦ヲ爲ササル整理施行地區内ノ土地ニ付テ

ハ整理施行者ハ第十三條第二項及第三項ノ改正規定ニ準シ賃賃價格配賦案ヲ作成スヘシ

第十七條ノ二ノ改正規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條 第十六條ノ二ノ改正規定ハ昭和六年法律第二十九號附則第四條第二項、第六條第一項若ハ第三項、第八條、第十

四條又ハ第十五條第二項若ハ第三項ノ規定ニ依リ比率ヲ算出スル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 主務大臣昭和六年法律第二十九號附則第十六條ノ規定ニ依リ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス

第十四條 第五條及第十條乃至第十七條ノ二ノ改正規定並ニ附則第九條、第十一條及前條ノ規定ハ第七十一條ノ規定ニ拘ラ

ス明治三十二年法律第八十二號耕地整理法ニ依リ耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニシテ耕地整理法第九十

六條ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲ラス且未タ地價配賦ヲ爲ササルモノニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ該當スル整理施行地區ニシテ從前ノ規定ニ依リ工事を完了ノ届出ヲ爲シタルモノニ耕地整理法第十四條第一項

第十四條ノ二又ハ第十五條第三項ノ規定ニ依リ賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ヲ爲スヘキ土地アル場合ニ於テハ整理施行

者ハ昭和八年三月三十一日迄ニ第十二條ノ二ノ改正規定ニ依リ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ第十

二條ノ三ノ改正規定ニ依リ年期許可ノ申請ハ其ノ賃賃價格ノ修正又ハ設定ノ申請ヲ爲シタル後三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第十五條 第五條ノ改正規定並ニ附則第四條乃至第六條、第九條、第十條、第十二條及第十三條ノ規定ハ第七十一條ノ規定

ニ拘ラス明治三十二年法律第八十二號耕地整理法ニ依リ耕地整理ニ關シ發起又ハ施行ノ認可ヲ得タル者ニシテ耕地整理法

第九十六條ノ規定ニ依リ耕地整理組合ト爲ラス且既ニ地價配賦ヲ爲シタルモノニ準用ス

第十六條 附則第三條ノ規定ハ昭和九年三月三十一日迄前二條ノ規定ニ該當スル耕地整理ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 第十七條ノ三ノ改正規定ハ昭和六年法律第二十九號附則第三條第一項、第九條、第十條第一項、第十二條、第十

三條第一項、第十四條及第十七條第二項ノ規定ニ依リ處分ニ之ヲ準用ス

第十八條 前四條ノ規定ハ耕地整理法第九十二條第二項但書ニ規定スル者ニ之ヲ準用ス

都市計畫法 (抄録) (大正八年四月五日法律第三十六號)

改正 昭和六年三月三十日法律第十五號 (抵當證券法)

昭和六年三月三十一日法律第三十號

昭和八年三月二十九日法律第十二號

昭和十五年三月三十日法律第七十六號

第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、防空、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市若ハ主務大臣ノ指定スル町村ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ互リ執行スヘキモノヲ謂フ (昭和十五年法律第七十六號改正)

第二條 都市計畫區域ハ市又ハ前條ノ町村ノ區域ニ依リ主務大臣之ヲ決定ス

主務大臣必要ト認ムルトキハ關係市町村及都市計畫委員會ノ意見ヲ聞キ前項ノ區域ニ拘ラス都市計畫區域ヲ決定スルコトヲ得 (同上)

第十二條 都市計畫地域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ増進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

第十三條 都市計畫トシテ内閣ノ認可ヲ受ケタル土地縣劃整理ハ認可後一年内ニ其ノ施行ニ著手スル者ナキ場合ニ於テハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條 地方長官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃貸價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム

第十五條ノ二 土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス建物アル宅地又ハ墳墓地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得 (昭和十五年法律第七十六號改正)

第二十一條 第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ處分及管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號並之ニ基キテ發シタル命令ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第百八十四號ニ依リ下付ヲ受ケタル官有ノ河岸地

ハ其ノ下付ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スルコトヲ得ス第一項ノ河岸地ノ下付ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ此ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

都市計畫法施行令 (抄録) (大正八年十一月二十八日勅令第四百八十二號)

改正 昭和六年四月一日勅令第四十五號

昭和十年五月八日勅令第百一十一號

第十九條 第十五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テノ耕地整理法ノ準用ニ關シテハ同法第四十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ土地區劃整理ヲ施行スル公共團體トシ同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ土地區劃整理ノ地區トス

第二十條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃貸價格ニ間シテハ耕地整理法第十二條乃至第十三條ノ二、第十四條第二項、

第三項、第十四條ノ二乃至第十六條及第十六條ノ三乃至第十六條ノ八ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ大正七年法律第四

十三號ノ規定ニ依リ地租變更免租年期ヲ有スル土地及同法第一條第一項各號ニ掲タル地土ハ之ヲ耕地整理法第十五條第一

項ニ提クル免租年期ヲ有スル土地ト看做ス

土地區劃整理ノ施行ニ依リ開墾、地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地

ニ對シ從前ノ地域ニヨリ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ修正シ修正賃貸價格ヲ以テ耕地整理法第十三條

第二項ノ現賃貸價格トス

第一項ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ耕地整理法第十四條第二項、第三項及第十四條ノ三、第十五條、第十六條、第十六條

ノ八中ノ同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

第二十一條 鐵道、軌道、運河、飛行場、水道、下水道、土地區劃整理、運動場、一團地ノ住宅經營、市場、屠場、墓地、火葬場、塵埃燒却場及防風、防火、防水、防砂又ハ防潮ノ施設ハ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ指定ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年法律第二十九號附則第三條、第五條、第九條乃至第十四條及第十八條ノ規定ハ土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃貸價格ニ付之ヲ準用ス

前項ノ場合ニ於テハ第二十條第二項ノ改正規定ヲ耕地整理法附則第九條、第十條及第十八條中ノ同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

附 則

第二十條第一項ノ改正規定ハ本令施行前土地區劃整理ノ工事ニ著手シタル土地ニモ亦之ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ耕地整理法第十五條第一項ノ規定ノ準用ニ付テハ同項中工事著手ノ時トアルハ工事著手ノ時ノ現況ニ依リトス

特別都市計畫法（抄錄）（大正十一年十二月二十四日法律第五十三號）

第一條 本法ニ於テ特別都市計畫ト稱スルハ東京及横濱ニ於ケル都市計畫ヲ謂フ

第三條 土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得

土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第三十一條ノ規定ニ拘ラス換地處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 土地區劃整理ヲ施行スル爲メ土地區劃整理組合設立セムトスル場合ニ於テ土地所有者同意ヲ爲スニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ借地法ニ謂フ借地權者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

前項ノ借地權者ハ登記ナキモ耕地整理法第二條ノ二ノ規定ニ依リ前項ノ組合ノ組合員ト爲ルコトヲ得

第五條 行政廳又ハ公共團體カ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ設計、換地處分及第八條第一項ノ補償金ノ配當ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ土地所有者及借地法ニ謂フ借地權者ヲ以テ組織スル土地區劃整理委員會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム

第七條 第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ道路、廣場、運河其ノ他ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ハ其ノ施行ニ要スル費用ヲ負擔スル國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入ス

前項ニ規定スル土地ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ編入ニ關シテモ亦同シ

第九條 都市計畫法第十三條第二項ノ規定ハ第五條ノ土地區劃整理ニ之ヲ準用ス

特別都市計畫法施行令（抄錄）（大正十三年三月十七日勅令第四十九號）

改正 昭和六年四月一日勅令第四十六號

第五條 行政廳又ハ公共團體カ特別都市計畫法第五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テハ其ノ整理施行地區ヲ告示スヘシ

第二十五條 特別都市計畫法第七條第一項ノ公共ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地トハ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ因リ新設又ハ擴張シタル道路、廣場、堤塘、溝渠、運河、河川、公園又ハ公共物揚場ノ用ニ供スヘキモノト爲リタル土地ヲ謂フ

第二十六條 前條ノ土地ハ國ニ於テ土地區劃整理施行ニ要スル費用ヲ負擔スル場合ニ在リテハ國ノ所有地、公共團體ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スル場合（特別都市計畫法第二條ノ規定ニ依リ費用ノ一部ヲ負擔スル場合ヲ除ク）ニ在リテハ其ノ公共團體ノ所有地ニ編入ス

第二十七條 特別都市計畫法第八條第二項ノ公共ノ用ニ供スル土地トハ地目ノ如何ニ拘ハラス道路、廣場、堤塘、溝渠、運河、河川、公園又ハ公共物揚場ノ用ニ供セラルル土地ヲ謂フ

第三十三條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ行政官廳第三十七條若ハ耕地整理法第三十條第一項ノ規定ニ依ル處分ヲ爲シ又ハ内務大臣之ニ關シ前條ノ認可ヲ與ヘタルトキハ遲滞ナク之ヲ告示シ且行政官廳處分ヲ爲シタル場合ニ在リテハ既登記ノ土地及建物ニ付登記ヲ囑託シ、内務大臣認可ヲ與ヘタル場合ニ在リテハ其ノ旨管轄登記所ニ通知スヘシ

第三十四條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於ケル耕地整理法ノ準用ニ付テハ同法第二十九條ノ告示ハ第五條ノ告示、同法第三十條第三項ノ認可ハ第三十二條ノ認可、同法第三十條第四項ノ告示ハ前條ノ告示、同法第四

十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ整理施行者タル行政廳又ハ公共團體、同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ整理施行地區トス

第三十六條 耕地整理法第三十三條ノ規定ハ從前ノ土地ノ全部又ハ一部ニ付未登記ノ所有權以外ノ權利アル土地ニ對スル換地ノ交付ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス但シ特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ニ付テハ第五條ノ告示、都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付テハ都市計畫法施行令第十七條第一項ノ告示、其ノ他土地區劃整理ニ付テハ整理施行ノ認可若ハ整理施行地區變更ノ認可又ハ整理組合ノ設立若ハ組合地區變更ノ認可ノ告示アリタル日ヨリ起算シ十日以内ニ權利者權利ヲ讓スヘキ書類ヲ添附シ整理施行者ニ權利ノ種別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ届出テサル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ特別ノ事情ノ爲耕地整理法第三十條第一項ノ規定ニ依ルコト能ハサルモノノ處分ニ關シテハ行政廳又ハ公共團體整理委員會ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムルコトヲ得

第三十八條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理施行ノ土地ノ賃賃價格ニ關シ都市計畫法施行令第二十條ノ規定ニ依ル耕地整理法第十三條ノ規定ノ準用ニ付テハ同條中第十一條第二項ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ地積トアルハ特別都市計畫法第七條第一項ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入シタル土地ノ地積トス

第三十九條 特別都市計畫法第五條ノ土地區劃整理ヲ施行スル場合ニ於テ第三十七條又ハ耕地整理法第三十條第一項但書ノ規定ニ依リ支拂フヘキ金錢ヲ滯納スルトキハ整理施行者ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ行政官廳ニ於テ徵收スル場合ニアリテハ國ノ徵收金ニ公共團體ヲ統轄スル行政廳又ハ公共團體ニ於テ徵收スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體ノ徵收金ニ次ク

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年勅令第四十五號附則第二項及昭和六年法律第二十九號附則第三條第五項ノ規定ニ依ル耕地整理法第十三條第二項ノ改正規定ノ準用ニ付テハ同改正規定中第十一條第二項ノ規定ニ依リ國有地ニ編入シタル土地ノ地積トアルハ特別都市計畫法第七條第一項ノ規定ニ依リ國又ハ公共團體ノ所有地ニ編入シタル土地ノ地積トス

宗教團體法 (抄録) (昭和十四年四月八日法律第七十七號)

第二十二條 宗教團體ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ課セス

寺院ノ境内地及教會ノ構内地ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ免除ス但シ有料借地ナルトキハ此ノ限ニ在ラス
北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ宗教團體ノ所得ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

第二十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (昭和十四年勅令第八五五號)

宗教團體法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

土地賃貸價格改訂法

(昭和十一年六月一日法律第三十六號)

- 第一條 政府ハ地租法第九條第一項ノ規定ニ依リ昭和十三年一月一日ニ於テ土地ノ賃貸價格ヲ改訂シ昭和十三年分ヨリ改訂賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス
- 第二條 改訂賃貸價格ハ各地目毎ニ昭和十一年四月一日ニ於テ土地ノ情況類似スル區域内ニ於ケル標準ト爲ルヘキ土地ノ賃貸價格(標準賃貸價格)ニ依ル
- 前項ニ定ムルモノノ外賃貸價格ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第三條 昭和十一年四月一日後昭和十二年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ賃貸價格ヲ設定シ又ハ修正シタル土地ノ改訂賃貸價格ハ地租法第九條第三項ノ例ニ準シ之ヲ定ム
- 昭和十一年四月一日後昭和十二年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ分筆又ハ合筆ヲ爲シタル土地ノ改訂賃貸價格ハ其ノ分筆又ハ合筆前ノ土地ニ付前條ノ規定ニ依リ定メラルヘキ賃貸價格ヲ地租法第三十三條ノ例ニ準シ配分又ハ合算シテ之ヲ定ム
- 第四條 改訂賃貸價格ニ依ル各土地ノ地租額カ従前ノ賃貸價格ニ依ル地租額ノ四倍ヲ超ユルトキハ其ノ四倍ヲ超ユル金額ニ相當スル地租ハ昭和十五年分迄之ヲ免除ス
- 第五條 第二條第一項ノ區域及標準賃貸價格ハ賃貸價格調査委員會ノ議ニ付シ政府ニ於テ之ヲ定ム
- 第六條 稅務署長ハ第二條第一項ノ區域及標準賃貸價格ノ調査書ヲ作成シ之ヲ賃貸價格調査委員會ニ提出スヘシ
- 第七條 各稅務署所轄内ニ賃貸價格調査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ命令ヲ以テ特ニ賃貸價格調査委員會ヲ置クコトヲ得
- 第八條 賃貸價格調査委員會ハ之ヲ置クヘキ區域内ノ各市町村ニ於テ地租納稅義務者ノ選舉シタル調査委員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 各市町村ニ於テ選舉スヘキ調査委員ノ數ハ市ニ在リテハ十人、町村ニ在リテハ一人トス但シ市町村ノ情況ニ依リ命令ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得
- 第九條 選舉期日前十五日ノ現在ニ於テ地租名寄帳ニ納稅義務者トシテ記載セラレタル個人(地租法第七十條又ハ第七十三條第一項但書ノ規定ニ依リ地租ヲ免除セララル者又ハ地租ヲ徵收セラレサル者ヲ含ム)ハ當該市町村内ニ於テ調査委員ヲ選舉シ又ハ調査委員ニ選舉セララルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 無能力者
- 二 破産者ニシテ復権ヲ得サルモノ
- 三 國稅滯納處分ヲ受ケタル後一年ヲ經サル者
- 四 六年ノ懲役若ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者
- 五 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノモノ
- 六 地租法第八十三條又ハ第八十六條第二項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル後五年ヲ經サル者
- 法人ニシテ地租ノ納稅義務ヲ有スル者ハ前項ノ規定ニ準シ調査委員ヲ選舉スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ選舉ニ關スル代表者ヲ定メ當該市町村長ニ申告スヘシ
- 第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ前項ノ規定ニ依ル法人ノ代表者タルコトヲ得ス
- 第十條 投票及開票ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ擔任シ其ノ他ノ選舉ニ關スル事務ハ稅務署長之ヲ擔任ス
- 第十一條 稅務署長ハ調査委員ノ選舉期日ヲ定メ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ
- 市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ少クトモ選舉期日七日前ニ之ヲ公示スヘシ
- 前項ノ公示ニハ投票及開票ノ日時及場所ヲ記載スヘシ
- 第十二條 調査委員ノ選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
- 投票ハ一人一票ニ限ル
- 選舉人ハ選舉ノ當日投票時間内ニ自ラ投票所ニ到リ被選舉人一人ノ氏名ヲ投票用紙ニ記載シテ投票スヘシ
- 投票用紙ハ選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人ニ交付スヘシ
- 第十三條 市町村長ハ當該市町村内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ノ内ヨリ二人ノ立會人ヲ選任シ投票及開票ニ立會ハシムヘシ
- 立會人ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ手當ヲ支給ス
- 第十四條 投票ノ效力ハ立會人ノ意見ヲ聽キ市町村長之ヲ決定スヘシ
- 第十五條 市町村長ハ投票ヲ調査シ直ニ左ノ事項ヲ稅務署長ニ通知スヘシ
 - 一 投票人及投票ノ數並ニ有効投票及無効投票ノ數
 - 二 投票ヲ無効ト決定シタル事由
 - 三 被選舉人ノ住所、氏名生年月日及其ノ得票數

- 第十六條 稅務署長前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ當選人ヲ決定スヘシ
- 第十七條 投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス得票數同シキトキハ年齢多キ者ヲ取り年齢モ亦同シキトキハ稅務署長抽籤シテ之ヲ定ム
- 第十八條 稅務署長當選人ヲ決定シタルトキハ其ノ氏名ヲ公示シ且之ヲ當選人及市町村長ニ通知スヘシ
- 市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ當選人ノ氏名ヲ公示スヘシ
- 第十九條 調査委員ニ當選シタル者ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルコトヲ得ス
- 第二十條 調査委員第九條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ
- 第二十一條 調査委員ニ缺員ヲ生シタルトキハ當選人ト爲ラザリシ者ノ中票數多キ者ヨリ順次之ヲ補充ス其ノ得票數同シキトキハ第十七條ノ規定ヲ準用ス
- 第十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十二條 調査委員ノ選舉ニ於テ選舉人ノ數カ定數ニ達セサルトキ又ハ調査委員ニ缺員ヲ生シ前條ノ規定ニ依リ補充スヘキ者ナキトキハ補缺選舉ヲ行フ但シ賃貸價格調査委員會開會後缺員ヲ生シタル場合ニ於テハ之ヲ行ハサルコトヲ得
- 第二十三條 賃貸價格調査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク其ノ開會日數ハ三十日以内トス
- 第二十四條 賃貸價格調格委員會ハ開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ
- 會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年齢多キ者會長ノ職務ヲ代理ス
- 第二十五條 賃貸價格調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス
- 議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル
- 第二十六條 賃貸價格調査委員會ノ決議ハ會長之ヲ稅務署長ニ通知スヘシ
- 第二十七條 昭和十二年九月三十日迄ニ賃貸價格調査委員會成立セサルトキハ稅務署長ニ於テ第二條第一項ノ區域及標準賃貸價格ヲ定ム
- 賃貸價格調査委員會開會ノ日ヨリ第二十三條ノ期間内又ハ昭和十二年九月三十日迄ニ決議終了セサルトキハ稅務署長ニ於テ第二條第一項ノ區域及標準賃貸價格ヲ定ム
- 第二十八條 稅務署長ハ賃貸價格調査委員會ノ決議ヲ不當ト認ムルトキハ十日以内ノ期間ヲ定メ再議ニ付ス仍其ノ決議ヲ不當ト認ムルキト又ハ再議期間内ニ決議終了セサルトキハ稅務署長ニ於テ第二條第一項ノ區域及標準賃貸價格ヲ定ム

- 第二十九條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ貸賃價格調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得
- 第三十條 調査委員ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ支給ス
- 第三十一條 第二條第一項ノ區域及標準貸賃價格ヲ定メタルトキハ稅務署長ハ之ヲ市町村長ニ通知スヘシ
市町村長前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ二十日間關係者ノ縱覽ニ供スヘシ縱覽期間ハ豫メ之ヲ公示スヘシ
- 第三十二條 自己ノ納稅義務ヲ有スル土地ニ適用セラルヘキ標準貸賃價格ニ關シテ異議アル者ハ前條ノ縱覽期間満了ノ日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
前項ノ申立アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セス
- 第三十三條 前條第一項ノ申立アリタルトキハ稅務監督局長ハ之ヲ審査決定シ異議申立人ニ通知スヘシ
- 第三十四條 前條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴訟ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第三十五條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ土地ノ所有者、質權者地上權者其ノ他利害關係人ニ對シ貸賃價格ノ調査上必要ナル事項ヲ質問スルコトヲ得
- 第三十六條 貸賃價格ノ調査又ハ決議ニ從事シタル者ハ其ノ調査又ハ決議ニ關シ知リタル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ他ニ漏洩スルコトヲ得ス
- 第三十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス
市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ於テハ本法中市ニ關スル規定ハ區ニ、市長ニ關スル規定ハ區長ニ之ヲ適用ス
町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準スヘキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準スヘキモノニ之ヲ適用ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
地租法第七十一條第一項ニ規定スル申請期間ハ昭和十三年分地租ニ限り命令ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得

土地賃賃價格改訂法施行規則

(昭和十一年六月一日大藏省令第十五號)

- 第一條 土地賃賃價格改訂法第二條ノ規定ニ依ル標準賃賃價格ハ田畑及鹽田ニ付テハ昭和十年以前五年ノ平均賃賃價格ニ依リ、其ノ他ノ土地ニ付テハ昭和十一年四月一日現在ノ賃賃價格ヲ基礎トシテ算出シタル一年分ノ金額ニ依リ之ヲ算定ス
前項ノ規定ニ依リ標準賃賃價格ヲ算定スルコト能ハサルトキ又ハ之ヲ不適當トスルトキハ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ算定ス
- 第二條 前條ノ規定ニ依リ標準賃賃價格ヲ算定スル場合ニ於ケル米其ノ他ノ物ノ價格ハ昭和十年以前五年ノ平均價格ニ依ル
- 第三條 稅務署長ハ土地賃賃價格改訂法第六條ノ規定ニ依リ土地賃賃價格調査書正副二通ヲ作成シ之ヲ賃賃價格調査委員會ニ提出スヘシ
- 第四條 土地賃賃價格改訂法第七條ノ規定ニ依リ特ニ賃賃價格調査委員會ヲ置クヘキ市區ハ別ニ之ヲ定ム
- 第五條 土地賃賃價格改訂法第八條第二項ノ規定ニ依リ調査委員ノ數ヲ増減スヘキ市區町村及其ノ調査委員ノ數ハ別ニ之ヲ定ム
- 第六條 土地賃賃改訂法第九條第二項ノ規定ニ依ル法人ノ代表者ノ申告ハ選舉期日ノ前日迄ニ之ヲ爲スヘシ
- 第七條 調査委員ニハ手當五拾圓ヲ支給ス但シ調査委員會ニ全ク出席セサル者ニハ之ヲ支給セス
調査委員ニハ前項手當ノ外往復旅費ヲ支給ス
- 前二項ノ手當及旅費ノ支給ニ關シテハ大正二年大藏省令第二十五號第二條第四條及第五條ノ規定ヲ準用ス
- 第八條 調査委員ノ選舉ニ關スル立會人ニハ國庫ヨリ日當二圓ヲ支給ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

土地賃貸價格改訂法施行ニ伴フ耕地整理法ノ特

例ニ關スル法律

(昭和十一年六月一日法律第三十七號)

第一條 昭和十一年四月十日以後昭和十二年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ耕地整理法第十三條第二項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦シタル整理施行地區内ノ土地ノ賃貸價格ハ稅務署長整理施行者ノ申請ニ依リ其ノ地區内ノ從前ノ土地ニ付土地賃貸價格改訂法ニ依リ調査シタル賃貸價格(以下調査賃貸價格ト稱ス)ノ合計額ヲ工事完了ノトキノ現況ニ依リ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム

命令ノ定ムル期間内ニ前項ノ申請ヲキトキハ第三項ノ規定ニ依リ定メタル賃貸價格ヲ以テ前項ノ土地ノ賃貸價格トス
第一項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦スル迄ハ其ノ土地ノ賃貸價格ハ調査賃貸價格ノ合計額ヲ耕地整理法第十三條第二項ノ規定ニ依リ配賦シタル賃貸價格ニ按分シテ之ヲ定ム

第二條 耕地整理法第十四條、第十四條ノ二及第十五條ノ規定ハ昭和十一年四月一日以後昭和十二年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ同法第十三條第二項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦シタル整理施行地區内ノ土地ニシテ同法第十四條、第十四條ノ二

及第十五條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ修正シ又ハ設定シタルモノニ付前條ノ調査賃貸價格ヲ算出スル場合ニ之ヲ準用ス但シ前條第三項ノ規定スル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ヲ要セス

第三條 第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦シ又ハ按分シタル土地ニシテ現ニ耕地整理減租年期ヲ有セサルモノアルトキハ其ノ賃貸價格ハ之ヲ配賦シ又ハ按分セザリシモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ土地賃貸價格改訂法第三條第一項ノ規定ヲ適用ス

第四條 第一條第一項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦シタル土地ニ付テハ配賦シタル年ノ翌年分ヨリ配賦シタル賃貸價格ニ依リ、同條第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ按分シタル土地ニ付テハ昭和十三年分ヨリ同條第一項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦スル年ノ分迄其ノ按分シタル賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス

第五條 耕地整理法第十六條、第十六條ノ三、第十六條ノ四、第十六條ノ六第十六條ノ七ノ規定ハ第一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦シ又ハ按分シタルトキニ於テ整理施行地區内ニ同法第十六條ノ三又ハ第十六條ノ四ノ規定ノ

適用ヲ受クル土地アル場合ニ之ヲ準用ス但シ第一條第三項ニ規定スル場合ニ於テハ整理施行者ノ申請ヲ要セス
 第六條 前條ノ規定ニ依リ耕地整理法第十六條ノ三又ハ第十六條ノ四ノ規定ヲ準用シテ賃貸價格ヲ定メタル土地ニ付テハ賃貸價格ヲ定メタル年ノ翌年分ヨリ其ノ賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス但シ第一條第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ按分シタル土地ニ付テハ昭和十三年分ヨリ同法第十六條ノ三又ハ第十六條ノ四ノ規定ヲ準用シテ定メタル賃貸價格ニ依リ地租ヲ徵收ス
 第七條 昭和十一年四月一日以後昭和十二年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ耕地整理法第十三條第二項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦シタル整理施行地區内ニ從前ノ土地ノ調査賃貸價格ニ依ル地租額カ從前ノ賃貸價格ニ依ル地租額ノ四倍ヲ超ユル土地アルトキハ其ノ四倍ヲ超ユル金額ニ相當スル地租ハ整理施行地區内ノ全部又ハ一部ノ土地ニ配分シテ昭和十五年分迄之ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地及金額ハ稅務署長整理施行者ノ申請ニ依リ之ヲ定ム命令ノ定ムル期間内ニ其ノ申請ヲキトキハ稅務署長職權ヲ以テ之ヲ定ム

第八條 昭和十三年一月一日以後耕地整理法第十三條第二項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦スルトキニ於テ整理施行地區内ニ土地賃貸價格改訂法第四條ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地アル場合ハ其ノ殘期間免除額ニ相當スル地租ハ整理施行地區内ノ全部又ハ一部ノ土地ニ配分シテ之ヲ免除ス
 前項ノ規定ニ依リ地租ノ免除ヲ受クヘキ土地及金額ハ稅務署長整理施行者ノ申請ニ依リ之ヲ定ム命令ノ定ムル期間内ニ其ノ申請ヲキトキハ稅務署長職權ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 昭和十一年三月三十一日迄ニ耕地整理法第十三條第二項並ニ昭和六年法律第二十九號附則第三條第一項第三項、第六條第一項、第十七條第一項及第十九條ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ配賦シ、按分シ又ハ定メタル土地ニシテ耕地整理法第十六條ノ三、第十六條ノ四又ハ昭和六年法律第二十九號附則第十五條ノ規定ヲ適用シ又ハ準用シタルモノニ對スル土地賃貸價格改訂法第四條中ノ賃貸價格ハ耕地整理法第十六條ノ三、第十六條ノ四又ハ昭和六年法律第二十九號附則第十五條ノ規定ヲ適用シ又ハ準用セザル額トス

第十條 耕地整理法第十三條第三項ノ規定ハ第一條第一項第三項、第二條、第五條、第七條第一項及第八條第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 昭和十五年十二月三十一日迄ハ耕地整理法第三十四條第二項、第五十條第一項及第六十五條第二項ノ規定中賃貸價格ニ關シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

昭和十一年法律第三十七號施行規則

(昭和十二年八月十日農林省令第三十四號)

第一條 昭和十一年法律第三十七號第一條第一項ノ規定ニ依ル賃貸價格配賦ノ申請ハ昭和十五年十二月三十一日迄ニ申請書及賃貸價格配賦案ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

賃貸價格配賦案ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理施行地區内ノ土地ノ調査賃貸價格ノ合計額及其ノ算出ノ基礎

二 字、地番、地目、地積及配賦スヘキ賃貸價格

第二條 昭和十一年法律第三十七號第二條ノ場合ニ於ケル賃貸價格ノ修正又ハ設定ノ申請ハ昭和十四年十二月三十一日迄ニ申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

一 耕地整理法第十四條第一項、第十四條ノ二及第十五條第三項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ修正又ハ設定シタル土地ニ付テハ其ノ從前ノ字、地番、地目及地積、之ニ對スル工事を完了後ノ地目及地積並ニ修正又ハ設定スヘキ賃貸價格

二 耕地整理法第十五條第一項ノ規定ニ依リ賃貸價格ヲ修正又ハ設定シタル土地ニ付テハ工事著手ノトキニ於ケル字、地番、地目(工事著手ノトキニ於ケル土地臺帳ノ地目カ其ノ時ニ於ケル土地ノ現況ト異ナルトキハ土地臺帳ノ地目及其ノ現況ニ依ル地目)地積及修正又ハ設定スヘキ賃貸價格

第三條 昭和十一年法律第三十七號第五條ノ場合ニ於ケル耕地整理法第十六條ノ規定ニ依ル配當ノ申請ハ賃貸價格ノ配賦アリタル後六十日以内ニ申請書及配當案ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ配當案ニハ配當ヲ受クヘキ土地ノ字、地番、之ニ配當スヘキ金額、年期ノ種別及其ノ殘年期間ヲ記載スヘシ

第四條 昭和十一年法律第三十七號第七條第二項ノ規定ニ依ル地租免除額配分ノ申請ハ昭和十三年二月二十八日迄ニ申請書及配分案ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

昭和十一年法律第三十七號第八條第二項ノ規定ニ依ル地租免除額配分ノ申請ハ耕地整理法第十三條第二項ノ規定ニ依ル賃

賃價格ノ配賦アリタル後六十日以内ニ申請書及配分案ヲ所轄稅務署長ニ提出シテ之ヲ爲スヘシ

前二項ノ配分案ニハ地租免除額ノ配分ヲ受クヘキ土地ノ字、地番、之ニ配分スヘキ金額ヲ記載スヘシ

第五條 耕地整理法施行規則第十三條第四項ノ規定ニ依リ賃價格配賦案ノ承認ヲ得タルモ昭和十三年一月一日前ニ賃價格ノ配賦ナキ整理施行地區内ノ土地ニ付テハ整理施行者ハ遲滞ナク同條第二項及第三項ノ規定ニ準シ改訂賃價格ニ依リ賃價格配賦案ヲ作成シ之ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ

第六條 左ノ事項ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理組合ニ在リテハ評議員會ニ於テ、共同施行ニ依ル耕地整理ニ在リテハ規約ニ定ムル會議ニ於テ其ノ承認ヲ經ヘシ

一 第一條第一項及第五條ノ賃價格配賦案

二 第二條第二項各號ノ修正又ハ設定スヘキ賃價格

三 第三條第一項ノ配分案

四 第四條第一項、第二項ノ配分案

第七條 所轄稅務署長昭和十一年法律第三十七號ニ依リ賃價格ノ配賦、按分、修正若ハ設定、配當又ハ地租免除額ノ配分ヲ爲シタルトキハ整理施行者ニ之ヲ通知スヘシ

第八條 耕地整理法第三十四條第二項、第五十條第一項、第五十五條第二項、第五十六條第二項、第六十五條第二項又ハ第六十八條第二項ノ規定ニ依ル土地ノ賃價格ノ計算ニ付テハ昭和十五年十二月三十一日迄ハ左ノ賃價格又ハ準賃價格ニ依ルコトヲ得

一 土地賃價格改訂法ニ依ル改訂前ノ賃價格

二 土地賃價格改訂法ニ依ル改訂前耕地整理法施行規則第五條ノ規定ニ依リ附シタル準賃價格

三 土地賃價格改訂法ニ依ル改訂後耕地整理法施行規則第五條ノ土地ニ付改訂前ノ土地ノ賃價格ニ比準シテ附シタル準賃價格

四 土地賃價格改訂法ニ依ル改訂後土地ノ異動ニ因リ賃價格ノ修正又ハ設定アリタル土地ニ付改訂前ノ賃價格ニ比準シテ附シタル準賃價格

第九條 前條ノ場合ニ於テ耕地整理法施行規則第二十八條第一項第四號、第三十二條第一號、第二號、第三十三條第一號、第三號、第四十條、第四十一條、第四十四條第一項第一號、同條第二項第一號、第六十二條第二項又ハ第六十五條第四項

ノ規定ニ依リ記載スヘキ土地ノ賃價格又ハ準賃價格ハ前條ノ賃價格又ハ準賃價格トシテ
附 則
本令ハ昭和十一年法律第三十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

土地賃價格改訂法施行ニ伴フ都市計畫法施行令ノ 特例ニ關スル件

(昭和十二年十二月一日勅令第六百九十九號)

昭和十一年法律第三十七號ハ同法第三條ノ規定ヲ除クノ外土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃價格ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ都市計畫法施行令第二條第二十項ノ規定ヲ昭和十一年法律第三十七號第二條中ノ耕地整理法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

前項ノ規定ニ依リ賃價格ヲ配賦シ又ハ按分シタル土地ニシテ開墾、地目變換又ハ地類變換ニ因リ賃價格ヲ修正シタルモノアルトキハ前項ノ規定ニ依ル賃價格ノ配賦又ハ按分ハ之ヲ爲ササリシモノト看做ス此ノ場合ニ於テハ土地賃價格改訂法第三條第一項ノ規定ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十二年勅令第六百九十九號ノ施行關ニスル件

(昭和十二年十二月一日內務省令第五十一號)

昭和十二年勅令第六百九十九號ノ施行ニ關シテハ昭和十二年農林省令第三十四號昭和十一年法律第三十七號施行規則ヲ準用ス
本令ハ昭和十三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

相續稅法

(明治三十八年一月一日法律第十號)

改正

明治四十三年三月二十五日法律第四號

大正三十一年三月三十一日法律第二十二號

大正三十一年四月十八日法律第四十八號

大正十五年三月二十七日法律第十三號

昭和十三年三月三十一日法律第四十七號

昭和十五年三月二十九日法律第二十九號

第一條 相續開始シタル場合ニ於テ被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキ又ハ本法施行地ニ相續財産アルトキハ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス(昭和十三年法律第四十七號改正)

第二條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續財産ノ全部ニ對シ相續稅ヲ課ス(同上)

被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ本法施行地ニ在ル相續財産ニ付テノミ相續稅ヲ課ス

第二條ノニ 財産ノ所在ハ動産、不動産及不動産ノ上ニ存スル權利ニ付テハ當該動産又ハ不動産ノ所在ニ依ル但シ船舶ノ所在ハ船籍ノ所在ニ依ル(同上)

前項ニ掲クルモノ以外ノ財産ノ所在ハ權利者ノ住所ニ依ル

第三條 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有スルトキハ相續稅ヲ課スヘキ相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ爲ルタシ贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス(昭和十三年法律第四十七號改正)

一 公課

二 被相續人ノ葬式費用

三 債務

第三條ノニ 被相續人カ本法施行地ニ住所ヲ有セサルトキハ相續稅ヲ課スヘキ相續財産ノ價額ニ相續開始前一年内ニ被相續人カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ノ價額ヲ加ヘ其ノ中ヨリ左ノ金額ヲ控除シタルモノヲ以テ課稅價格トス(同上)

一 其ノ財産ニ係ル公課

二 其ノ財産ヲ目的トスル留置權、特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ以テ擔保セララルル債務

三 其ノ財産ニ關スル贈與ノ義務

第三條ノ三 被相続人ノ死亡ニ因リ相続人ノ受取ル生命保險ノ保險金ニシテ被相続人カ保險契約者タル保險契約ニ基クモノハ之ヲ相続財産ト看做ス但シ相続人ノ受取ル保險金ノ合計額中五千圓迄ノ金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(昭和十三年法律第四十七號改正)保險契約者カ被相続人以外ノ者ナル場合ト雖被相続人カ現實ニ保險料ノ支拂ヲ爲スモノナルトキハ被相続人ヲ保險契約者ト看做シ前項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第三條ノ四 退職手當、功勞金及此等ノ性質ヲ有スル給與ニシテ被相続人ニ支給セララルヘキモノカ被相続人死亡シタル爲其ノ相続人其ノ他ノ者ニ支給セララルトキハ之ヲ相続財産ト看做ス但シ給與ノ合計額中五千圓迄ノ金額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(同上)前項ノ給與カ相続人以外ノ者ニ支給セララルトキハ遺贈アリタルモノト看做ス

第三條ノ五 公共團體又ハ慈善其ノ他ノ公益事業ニ對シ爲シタル贈與及遺贈ハ相続稅ノ課稅價格ニ算入セス(同上)

第四條 相続財産ノ價額、相続財産ノ價額ニ加算スヘキ贈與ノ價額並ニ相続財産ノ價額中ヨリ控除スヘキ公課及債務金額ハ相続開始當時ノ現況ニ依ル(昭和十三年法律第四十七號改正)

地上權、永小作權及定期金ニ付テハ政府ハ左ノ方法ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス(大正十五年法律第十三號改正)

一 地上權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス

殘存期間十年以下ナルモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 二倍

殘存期間三十年以下ナルモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 三倍

殘存期間五十年以下ナルモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 五倍

殘存期間百年以下ナルモノ 地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 七倍

永小作權ニ付テハ左ノ金額ヲ以テ其ノ價額トス 地上權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 十二倍

殘存期間十年以下ナルモノ 永小作權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 二倍

殘存期間三十年以下ナルモノ 永小作權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 三倍

殘存期間五十年以下ナルモノ 永小作權ノ目的タル土地ノ賃賃價格 五倍

三 有定期金ハ其ノ殘存期間ニ於ケル總金額ヲ以テ其ノ價額トス但シ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ超ユルコトヲ得ス

四 無定期金ハ其ノ一年ノ定期金ノ二十倍ヲ以テ其ノ價額トス

五 終身定期金ハ目的トセラレタル人ノ年齢ニ依リ左ノ期間ニ於ケル定期金ノ總額ヲ以テ其ノ價額トス

二十歳未満ノ者 十年

三十歳未満ノ者 八年

四十歳未満ノ者 六年

五十歳未満ノ者 四年

六十歳未満ノ者 二年

六十歳以上ノ者 一年

前項ニ於テ土地ノ賃賃價格ト稱スルハ貸主カ公課、修繕費、保險料其ノ他土地ノ維持ニ必要ナル經費ヲ負擔スル條件ヲ以テ之ヲ賃賃スル場合ニ於テ貸主ノ取得スヘキ金額ヲ謂フ

第五條 條件附權利、存續期間ノ不確定ナル權利、信託ノ利益ヲ受クヘキ權利又ハ訴訟中ノ權利ニ付テハ政府ノ認ムル所ニ依リ其ノ價格ヲ評定ス(大正十一年法律第四十八號改正)

第三條又ハ第三條ノ二ノ規定ニ依リ控除スヘキ債務金額ハ政府カ確實ト認メタルモノニ限ル(昭和十三年法律第四十七號改正)

第五條ノ二 本法施行地ニ住所ヲ有スル者ノ死亡ニ因ル家督相続ニシテ其ノ課稅價格五萬圓以下ノモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ課稅價格ヨリ課稅價格ヨリ相続開始當時ノ被相続人ノ同居家族中年齡十八歳未満若ハ六十歳以上又ハ不具廢疾ノ者一人ニ付千圓ヲ控除ス(昭和十五年法律第二十九號改正)

本法施行地ニ住所ヲ有スル者ノ死亡ニ因ル遺產相続ニシテ其ノ課稅價格三萬圓以下ノモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ課稅價格ヨリ相続開始當時被相続人ノ親權ニ服シ且被相続人ト同居スル子ノ中年齡十八歳未満又ハ不具廢疾ノ者一人ニ付千圓ヲ控除ス(同上)

前二項ノ規定ニ依リ控除スヘキ金額ハ課稅價格ヨリ遺贈ノ價額及第三條ノ規定ニ依リ相続財産ノ價額ニ加ヘタル贈與ノ價額ヲ控除シタル殘額ニ相當スル金額ヲ超ユルコトナシ(同上)

第一項及第二項ニ規定スル不具廢疾者ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム(同上)

第六條 課稅價格カ家督相續ニ在リテハ五千圓、遺產相續ニ在リテハ千圓ニ滿タサルトキハ相續稅ヲ課セス前條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲シタル爲課稅價格カ家督相續ニ在リテハ五千圓、遺產相續ニ在リテハ千圓ニ滿タサルニ至リタルトキ亦同シ

(大正十五年法律第二十九號改正)

第七條 軍人、軍屬ノ戰死又ハ戰爭ノ爲受ケタル傷痍疾病ニ起因シタル死亡ニ因リ相續開始シタルトキハ相續稅ヲ課セス但シ傷痍者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 相續稅ハ課稅價格ヲ左ノ各級ニ區分シ其ノ各區分ニ對シ相續人ノ種類ニ從ヒ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ課ス

(大正十五年法律第十三號改正)

(昭和十五年法律第二十九號改正)

課稅價格	家督相續	
	稅	率
一萬圓以下ノ金額	相續人カ被相續人ノ家族タル直系卑屬ナルトキ	相續人カ被相續人ノ指定シタル者、民法第九百八十五條ノ規定ニ依リ選定セラルタル直系卑屬又ハ入夫ナルトキ
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ十五	千分ノ二十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二十五	千分ノ三十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十五	千分ノ四十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十五	千分ノ五十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十五	千分ノ六十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十五	千分ノ八十
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十五	千分ノ九十
十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百十五	千分ノ百

課稅價格	遺產相續	
	稅	率
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百三十	千分ノ二百
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百五十	千分ノ二百二十
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百七十	千分ノ二百四十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百九十	千分ノ二百六十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百十	千分ノ二百八十
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百四十	千分ノ三百
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百七十	千分ノ三百二十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百	千分ノ三百四十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百三十	千分ノ三百五十

課稅價格	遺產相續		
	相續人カ直系	相續人カ配偶者又ハ直系尊屬ナルトキ	相續人カ其ノ他
五千圓以下ノ金額	千分ノ二十	千分ノ三十	千分ノ四十
一萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三十	千分ノ四十	千分ノ五十
二萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四十	千分ノ五十	千分ノ六十
三萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五十	千分ノ六十	千分ノ七十
四萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ六十	千分ノ七十	千分ノ八十
五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ七十	千分ノ八十	千分ノ九十
七萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ八十	千分ノ九十	千分ノ百
十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ九十	千分ノ百	千分ノ百二十

十五萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ百八十	千分ノ二百四十	千分ノ二百四十
二十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百四十	千分ノ二百七十	千分ノ二百七十
三十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ二百七十	千分ノ三百	千分ノ三百
四十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百	千分ノ三百三十	千分ノ三百三十
五十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百三十	千分ノ三百六十	千分ノ三百六十
七十萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ三百六十	千分ノ四百	千分ノ四百
百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四百	千分ノ四百四十	千分ノ四百四十
二百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四百四十	千分ノ四百八十	千分ノ四百八十
三百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ四百八十	千分ノ五百二十	千分ノ五百二十
五百萬圓ヲ超ユル金額	千分ノ五百二十	千分ノ五百五十	千分ノ五百五十

外國ノ法律ニ依リ開始シタル相続ニ關シテハ遺產相続ニ關スル稅率ヲ準用ス但シ相続人二人以上アル場合ニ於テ其ノ適用スヘキ稅率相異ルトキハ最低キ稅率ヲ適用ス

第九條 相続人ノ廢除若ハ其ノ取消ニ關スル裁判ノ確定前又ハ相続ノ承認若ハ拋棄前ト雖政府ハ必要ニ依リ其ノ推定家督相続人又ハ推定遺產相続人ニ對スル稅率ヲ適用シ相続稅ヲ課スルコトヲ得

相続人アルコト分明ナラサルトキハ稅率ノ最高キ相続人ニ對スル稅率ヲ適用シテ相続稅ヲ課ス

前二項ニ依リ課稅シタル後相続人確定シタルトキハ稅率ノ適用ヲ改訂シ税金ノ差額ヲ追徴シ又ハ還付ス

第十條 相続稅ヲ課セラルヘキ相続開始シタル後七年以内ニ於テ更ニ相続開始シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前ノ相続額ニ對スル相続稅ニ相當スル相続稅ヲ免除ス(昭和十三年法律第四十七號改正)

相続稅ヲ課セラルヘキ相続開始シタル後十年以内ニ於テ更ニ相続開始シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前ノ相続額ニ對スル相続稅ノ半額ニ相當スル相続稅ヲ免除ス(同上)

第十條ノ二 第二條第一項ノ場合ニ於テ外國ニ在ル相続財產ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ相続稅ヲ課セラレタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ財產ノ價額ニ對スル相続稅ヲ免除ス(昭和十三年法律第四十七號改正)

書ヲ發シ現金ヲ以テ登錄稅ヲ徵收ス(明治三十八年勅令第七十七號追加同年第六十八號施行ノ日ヨリ施行昭和四年勅令第九十號改正)

第五條ノ六 左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登錄稅法第十九條第八號、第十五號、第十六號又ハ第十七號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス(昭和十二年勅令第七百號改正)

一 負債整理組合(農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヲ含ム以下同シ)ノ農村負債整理組合法第十一條第二項ノ規定ニ依ル負債整理ノ爲メ資金ノ貸付ニシテ第五條第二號ニ掲グル事項ニ付同條第一號ノ場合ト同一ノ條件ヲ以テ行フモノニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

二 市町村、産業組合中央金庫、信用組合、日本勸行銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行又ハ負債整理組合ノ負債整理ノ爲メ資金貸付ノ場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記

三 負債整理ノ爲メ資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、産業組合中央金庫、信用組合又ハ負債整理組合ノ所有權ノ取得ノ登記

四 負債整理組合ノ農村負債整理組合法第七條第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土地所有權ノ取得ノ登記

第五條ノ七 寺院又ハ教會カ寺院ノ境内地又ハ教會ノ構内地ニ關シテ受クル登記ニシテ當該境内地又ハ構内地カ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登錄稅法第十九條第二號ノ二ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス(昭和十五年七月勅令第四六一號)

一 本堂、庫裡、會堂其ノ他寺院又ハ教會カ教養ノ宣布若ハ儀式ノ執行又ハ之ニ附隨スル行爲ヲ爲スニ必要ナル建物又ハ工作物(附屬建物及附屬工作物ヲ含ム)ノ敷地(同上)

二 宗教上ノ儀式又ハ行事ヲ行フ爲メ必要ナル土地(同上)

三 參道(同上)

四 庭園(同上)

五 寺院又ハ教會ノ風致ヲ維持スル爲メ必要ナル土地(同上)

六 寺院又ハ教會ノ災害ヲ防止スル爲メ必要ナル土地(同上)

寺院又ハ教會カ其ノ用ニ供スル建物ニ關シテ受クル登記ニシテ當該建物カ本堂、庫裡、會堂其ノ他寺院又ハ教會カ教義ノ宣布若ハ儀式ノ執行又ハ之ニ附隨スル行爲ヲ爲スニ必要ナル建物(附屬建物ヲ含ム)ナルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登録稅法第十九條等ニ號ノ二ノ規定ニ依リ登録稅ヲ免除ス(同上)

第六條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ(昭和四年勅令第一九三號改正)

第七條 登録稅法第十九條ノ十二ニ依ル評價人ノ旅費ハ別表ニ依ル其ノ支給ニ付テハ内國旅費規則ヲ準用ス(昭和四年勅令第一九三號改正)

第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録稅法第十九條ノ十二ニ依ル評價人ノ手當ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日三圓以上十圓以下ノ範圍内ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ定ム(同上)

附 則 (大正三年勅令第二百二十五號)
本令ハ大正十三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十年勅令第四百十七號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和二年勅令第四十六號)
本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ爲シタル土地臺帳ノ登録ニ對スル登録稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (昭和四年勅令第九十三號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和八年勅令第一百五十五號)
本令ハ昭和八年法律第四十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和八年法律第四十四號ハ同年五月二十日ヨリ施行)

附 則 (昭和八年勅令第二百六號)
本令ハ農村負債整理組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(農村負債整理組合法ハ昭和八年勅令第二百六號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

附 則 (昭和十二年勅令第七百號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十三年勅令第四百三號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十三年勅令第五百二十八號)
本令ハ農地調整法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十三年八月一日ヨリ施行)

附 則 (昭和十四年勅令第八十六號)
本令ハ昭和十四年法律第四十五號施行ノ日ヨリ施行ス

附 則 (昭和十五年七月十日勅令第四百六十二號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十四年法律第七十八號第一條第一項ノ規定ニ依リ讓與セラルル寺院ノ境内地又ハ教會ノ構内地ノ所有權ノ取得ノ登記ニ付テハ登録稅法施行規則第五條ノ七第一項中地方長官トアルハ稅務署長トス

(別表) (大正十五年十月勅令第四百十七號ヲ以テ別表トス)

旅費額		車馬賃		宿泊料		日當		鐵道賃		船賃	
七十五錢	五圓五十錢	三圓	圓	二里	一夜	一日	一日	二里	一夜	一日	一日

備考 鐵道賃船賃ニハ通行稅、解賃、棧橋賃及普通急行料金を含ム但シ急行料金を鐵道五十哩未滿水路五十哩未滿ノ旅行及急行料金を徴セサル旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

相續税ヲ課スヘキ相續財産ノ價額中不動産及不動産ノ上ニ在スル權利並ニ信託財産タル不動産ノ元本ノ利益ヲ受クヘキ權利ノ價額ノ合計額カ相續財産ノ價額ノ二分ノ一ヲ超ユルトキハ前項但書ノ期間ハ之ヲ十年以内トス(昭和十五年法律第二十九號改正)
納税義務者前二項ノ規定ニ依リ年賦延納ヲ求メムトスルトキハ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ申請スヘシ但シ連帶納付ノ責アル納税義務者ニ在リテハ其ノ一人ヨリ申請スルヲ以テ足ル(同上)
納税義務者帝國内ニ住所ヲ有セザルトキハ前項ノ期間ハ之ヲ三月トス(同上)

第十七條ノ二 相續税ヲ課スヘキ相續財産ノ價額中不動産ノ價額カ相續財産ノ價額ノ二分ノ一ヲ超ユル場合ニ於テ相續税額カ千圓以上ナルトキハ納税義務者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ相續財産タル不動産ニ依ル相續税ノ物納ヲ求ムルコトヲ得但シ本法施行地ニ住所ヲ有セザル者ニ付開始シタル相續ニ對スル相續税ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(昭一六、三法律第七十九號)
納税義務者前項ノ規定ニ依リ相續税ノ物納ヲ求メムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ第十三條ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ政府ニ申請スヘシ但シ連帶納付ノ責アル納税義務者ニ在リテハ其ノ一人ヨリ申請スルヲ以テ足ル(同上)
政府ハ納税義務者ノ物納ニ充テムトスル不動産カ管理又ハ處分ヲ爲スニ不適當ト認ムルトキハ相續税審査委員會ノ諮問ヲ經テ其ノ變換ヲ命シ又ハ物納ヲ許可セザルコトヲ得(同上)
政府ハ相續財産ノ狀況ニ依リ税金ノ納付カ容易ニシテ物納ヲ許可スルノ必要ナシト認ムルトキハ相續税審査委員會ノ諮問ヲ經テ之ヲ許可セザルコトヲ得(同上)
納税義務者相續税ノ物納ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ物納ニ充テムトスル不動産ノ變換ヲ命セラレタルトキ又ハ物納ヲ許可セラレザルトキハ當該相續税ニ付テハ前條第三項ノ規定ニ拘ラス其ノ旨ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ年賦延納ノ申請ヲ爲スコトヲ得(同上)

前條第四項ノ規定ハ第二項及前項ノ場合ニ之ヲ準用ス(同上)

第十八條 審査ヲ求メ訴訟又ハ行政訴訟ヲ爲シタル場合ト雖納税義務者ハ通知ヲ受ケタル金額ニ依リ税金ヲ納付スヘシ(同上)

第十九條 除(昭和十五年法律第二十九號)

第二十條 除(同上)

第二十一條 相續税ノ審査ニ參與シタル者ハ其ノ審査ニ關スル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條 相續人期限内ニ第十一條ニ依ル書類ヲ提出セザルトキハ政府ハ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得(昭和十三年法律第四十七號改正)
相續人二人以上ナル場合ニ於テハ政府ハ其ノ一人ニ對シテ前項ノ催告ヲナスコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テ相続人其ノ期間内ニ書類ヲ提出セザルトキハ政府ノ認ムル所ニ依リ課税價格ヲ決定シ催告ニ關スル費用及税金ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ相続人ヨリ徴收スルコトヲ得

第三項ノ金額ノ徴收ニ關シテハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第二十三條 左ニ掲クル場合ニ於テ贈與ノ價額カ千圓以上ナルトキハ遺產相續開始シタルモノト看做シ其ノ財産ノ價額ヲ課税價格トシテ本法ニ依リ相續稅ヲ課ス但シ本法施行地ニ住所ヲ有セザル者ノ爲シタル贈與ニ在リテハ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタルモノニ限ル (昭和十三年法律第四十七號改正)

一 親族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

二 分家ヲ爲スニ際シ若ハ分家ヲ爲シタル後本家ノ戸主又ハ家族カ分家ノ戸主又ハ家族ニ贈與ヲ爲シタルトキ

不動產又ハ船舶ノ贈與ニ付登錄稅ヲ納付シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ登錄稅額カ相續ニ因ル所有權ノ取得ニ付テノ登錄稅額ヲ超過スル金額ヲ第一項又ハ前項ノ相續稅額ヨリ控除ス (昭和十五年法律第二十九號改正)

第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ相續稅ヲ課スル場合ニ於テハ第十條及第十七條ノ二ノ規定ヲ適用セス (同上) (昭和一六、三法律第七十九號改正)

第二十三條ノ二 信託ニ因リ委託者カ他人ニ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ左ニ掲クル時ニ於テ信託ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ贈與シタルモノト看做ス此ノ場合ニ於テ不動產又ハ船舶ノ信託ニ因ル所有權取得ノ登記ハ前條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ贈與ニ因ル所有權取得ノ登記ト看做ス (同上)

一 元本ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ受益者カ其ノ元本ヲ受ケタル時但シ數回ニ之ヲ受ケタルトキハ最初ニ其ノ一部ヲ受ケタル時

二 收益ノ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セシメタルトキハ受益者カ其ノ收益ヲ受ケタル時但シ數回ニ之ヲ受ケタルトキハ最初ニ其ノ一部ヲ受ケタル時

前項ノ場合ニ於テ受益者不特定ナルトキ又ハ未タ存在セザルトキハ委託者又ハ其ノ相續人ヲ受益者ト看做シ受益者特定シ又ハ存在スルニ至リタル時ニ於テ新ニ信託アリタルモノト看做ス

元本又ハ收益ノ受益者カ其ノ元本又ハ收益ノ全部又ハ一部ヲ受ケタル迄ハ元本又ハ收益ノ利益ヲ受クヘキ權利ハ委託者又ハ其ノ相續人之ヲ有スルモノト看做ス

信託ノ利益ヲ受ケタル時ノ委託者ト受益者トノ身分關係カ信託ノ時ノ身分關係ト異ルトキハ其ノ身分關係ハ第一項ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ信託ノ利益ヲ受ケタル迄存續スルモノト看做ス

第二十三條ノ三 生命保險契約ニシテ保險金受取人カ保險契約者以外ノ者ナルトキハ保險事故ノ生シタル時ニ於テ保險契約者カ保險金額ニ相當スル金額ヲ保險金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ保險契約者ノ同一ナル保險契約ニ基キ同一事

故ニ因リ同一人ノ受取ル保險金ノ合計額カ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ依ル (昭和十三年法律第四十七號改正)

前項ノ規定ハ第三條ノ三ノ規定ニ依リ保險金ヲ相續財產ト看做ス場合ニ付テハ之ヲ適用セシ保險契約者以外ノ者カ現實ニ保險料ノ支拂ヲ爲スモノナルトキハ其ノ者ヲ保險契約者ト看做シ第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

前條第四條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條ノ四 郵便年金契約ニシテ年金受取人カ年金契約者以外ノ者ナルトキハ年金支拂ノ事由發生シタル時ニ於テ年金契約者カ當該郵便年金ノ價額ニ相當スル金額ヲ年金受取人ニ贈與シタルモノト看做ス但シ年金契約者ノ同一ナル年金契約ニ基キ同一事由ニ因リ同一人ノ受取ル年金ノ價額ノ合計額カ五千圓ヲ超ユル場合ニ於ケル其ノ超過額ニ相當スル金額ニ限ル (同上)

第二十三條ノ二 第四項及前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條ノ五 死亡ニ因ル相續開始後一年内ニ於テ相續人カ相續財產ニ付爲シタル贈與ニ付テハ第二十三條ノ規定ヲ適用セス但シ自己ノ直系卑屬ニ贈與ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス (同上)

第二十四條 第十一條ニ依リ提出シタル書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ相續稅ノ逋脱ヲ圖リ又ハ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱シ又ハ逋脱セムトシタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ税金ヲ徴收シ其ノ罪ヲ問ハス (明治四十三年法律第四號改正)

第二十四條ノ二 正當ノ事由ナクシテ第十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ政府ニ提出スヘキ支拂調書ヲ提出セス又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス (昭和十三年法律第四十七號改正)

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付第十二條ノ二第二項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セス

第二十四條ノ三 第十二條ノ四ノ規定ニ依ル稅務署長又ハ其ノ代理官ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス (昭和十五年法律第二十九號改正)

第二十五條 第二十一條ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ依リ處罰セラレタル者ハ其ノ職ヲ失フ

第二十六條 府縣市町村其ノ地ノ公共團體ハ相續稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

第二十七條 被相續人カ朝鮮臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ其ノ地ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルトキハ本法施行地ニ相續財產アルモ相續稅ヲ課セス (昭和十三年法律第四十七號)

第二十八條 朝鮮臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ相續稅ヲ課セラルヘキ相續力其ノ地ニ於テ開始シタル後五年又ハ七年以

内ニ於テ更ニ本法施行地ニ於テ相續開始シタルトキハ第十條ノ規定ヲ準用ス (同上)
第二十九條 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者カ本法施行地ニ在ル財産ニ付爲シタル贈與ニハ第二十三條ノ規定ヲ適用セス (同上)
第三十條 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ死亡ニ因リ相續開始シタル後一年内ニ本法施行地ニ住所ヲ有スル相續人カ相續財産ニ付爲シタル贈與ニ付テハ第二十三條ノ五ノ規定ヲ準用ス (同上)

附 則 本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治四十三年法律第四號)

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附 則 (大正三年法律第二十二號)

本法ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍舊法ヲ適用ス

附 則 (大正十一年法律第四十八號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十二年一月一日ヨリ施行)

附 則 (大正十五年法律第十三號)

本法ハ大正十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (昭和十三年法律第四十七號)

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (昭和十五年法律第二十九號)

永代借地權ハ當分ノ内相續稅ノ課稅價格ニ算入セス

附 則 (昭和十六年法律第七十九號)

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前開始シタル相續ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル但シ第八條ノ改正規定ハ隱居ニ因リ開始シタル家督相續ニ在リテハ昭和十五年一月一日以後ニ開始シタルモノ、第二十三條第一項ニ規定スル贈與ニ在リテハ同日以後ニ爲シタルモノニ付之ヲ適用シ第二十三條ノ改正規定ハ同日以後ニ爲シタル贈與ニ付之ヲ適用ス

附 則 (昭和十六年法律第七十九號)

本法ハ昭和十六年四月一日以後開始シタル相續ニ付之ヲ適用ス

附 則 國有財産整理資金特別會計法第二條但書中「國有林野」ノ上ニ「相續稅物納財産」ヲ加フ

相續稅法施行規則

(明治三十八年三月二十三日勅令第六十八號)

改正

昭和九年六月三十日勅令第二百十三號

昭和十二年三月三十一日勅令第六十五號

昭和十三年四月三十一日勅令第九十五號

昭和十五年三月三十一日勅令第三百三十九號

第一條 相續開始地ノ稅務署ヲ以テ相續稅ノ所轄稅務署トス

相續開始地カ相續稅法施行地ニ在ラサルトキハ同法施行地ニ在ル相續財産所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス相續財産カ二箇以上ノ稅務署管内ニ在ルトキハ其ノ主タル財産ノ所在地ノ稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條 相續開始シタルトキハ相續人ハ相續稅法第十一條第一項ニ定メタル期間内ニ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ニ相續財産目錄及相續財産ノ價格中ヨリ控除セラルヘキ金額ノ明細書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ相續人二人以上ナル場合ニ於テ其ノ一人ヨリ本條ニ依ル書類ヲ提出シタルトキハ他ノ相續人ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス (昭和十三年勅令第九十五號改正)

一 被相續人ノ氏名

二 相續開始地

三 相續開始ノ日

四 家督相續、遺産相續ノ區別

五 被相續人カ相續開始前一年内ニ贈與ヲ爲シタルトキ (被相續人カ相續稅法施行地ニ住所ヲ有セサル場合ニ於テハ相續稅法施行地ニ在ル財産ニ付贈與ヲ爲シタル場合ニ限ル) ハ其ノ財産ノ價額及受贈者ノ住所氏名

六 相續人ノ住所氏名

七 相續人ト被相續人トノ續柄

前項ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テ相續人確定セサルトキハ前項第六號及第七號ノ代リニ相續人ノ確定セサル理由ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ相續人確定シタルトキハ相續人ハ第一項第六號及第七號ニ掲クル事項ヲ記載シタル書面ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

相続税法第二十三條ニ依リ遺産相続ノ開始ト看做サルヘキ場合ニ於テハ第一項第一號乃至第三號第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ提出スルヲ以テ足ル

第二條ノ二 相続人アルコト分明ナラサルトキ又ハ相続人カ相続財産ニ付全ク處分ノ權能ナキトキハ本令中相続人ニ關スル規定ハ之ヲ相続財産管理人又ハ遺言執行者ニ適用ス(昭和十三年勅令第九十五號改正)

第二條ノ三 相続税法第五條ノ二ニ規定スル不具癡疾者ハ心神喪失ノ常況ニ在ル者聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷痍ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ(昭和十五年勅令第三十九號改正)

第二條ノ四 相続税法第五條ノ二第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムトスル者ハ相続税ノ課税價格決定前其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請スヘシ(同上)

前項ノ申請書ニハ年齢十八歳未滿若ハ六十歳以上又ハ不具癡疾ノ者ノ氏名、生年月日、職業、被相続人トノ續柄不具癡疾ノ事實及控除金額ヲ記載スヘシ(同上)

稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命スルコトヲ得(同上)

第二條ノ五 相続税ヲ課セラルヘキ相続開始シタル後七年又ハ十年以内ニ於テ更ニ相続開始シタルトキハ相続開始カ五年以内ナル場合ハ相続税額中前ノ相続税額ニ對スル前ノ相続税ニ相當スル金額ヲ、七年以内ナル場合ハ其ノ半額ヲ免除ス但シ前ノ相続額カ後ノ相続ニ於ケル課税價格ヲ超ユルトキハ相続開始カ五年以内ナル場合ハ其ノ超過額ニ對スル前ノ相続税ニ相當スル金額、七年以内ナル場合ハ其ノ半額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(同上)

前項ノ場合ニ於テ後ノ相続カ財産ヲ留保シテ隱居又ハ入夫婚姻ヲ爲シタル者ニ付開始シタルモノナルトキハ前ノ相続額ヨリ其ノ隱居又ハ入夫婚姻ニ因リ開始シタル家督相続ニ於ケル課税價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ前ノ相続額トス

第二條ノ六 外國ニ在ル相続財産ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ相続税ヲ課セラレタルトキハ相続税法第十條ノ二ノ規定ニ依リ其ノ財産ノ價額ニ對スル分ノ相続税ヲ免除ス但シ外國ニ在ル相続財産ノ價額ニ對スル分ノ相続税額カ當該財産ニ付其ノ國ノ法令ニ依リ課セラレタル相続税額ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ニ付テハ此ノ限ニ在ラス(同上)

前項ノ規定ニ依ル免除ヲ受ケムトスル者ハ相続税ノ課税價格決定前其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請スヘシ(同上)

前項ノ申請書ニハ外國ノ法令ニ依リ課セラレタル相続税額及課税ノ日ヲ記載シ其ノ事實ヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第二條ノ七 相続税法第二十三條第三項ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケムルトスル者ハ相続税ノ課税價格決定前其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申請スヘシ(同上)

署ニ申請スヘシ(同上)

前項ノ申請書ニハ贈與ノ登記ニ付登録税ヲ納付シタル不動産又ハ船舶ノ表示、納付シタル登録税額及登記ノ日並ニ其ノ登記所名ヲ記載スヘシ

第三條 稅務署長ハ相続財産ノ價額ヲ評定シテ課税價格ヲ決定シ之ヲ納税義務者ニ通知スヘシ(昭和十三年勅令第九十五號改正)

納税義務者ハ前項ノ決定ニ對シ其ノ説明ヲ求ムルコトヲ得(同上)

第三條ノ二 相続税法第十三條第三項ノ公告ハ納税義務者ノ氏名及課税價格ヲ官報ニ掲載シテ之ヲ爲スヘシ(同上)

第四條 課税價格ノ決定ニ對シ異議アル者審査ヲ求メムトスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シ相続税法第十四條ニ定メタル期間内ニ所轄稅務署長ニ申出ツヘシ(同上)

第五條 稅務署長審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ相続税審査委員會ノ諮問ヲ經テ課税價格ヲ決定シ之ヲ異議申立人ニ通知スヘシ(同上)

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六條 各稅務署所轄内ニ相続税審査委員會ヲ置ク但シ稅務署所轄内ニ在ル市ニ付テハ大藏大臣ハ特ニ審査委員會ヲ置クコトヲ得(昭和十三年勅令第九十五號改正)

第七條 審査委員會ハ大藏大臣ノ命シタル收稅官吏二名及直接國稅百圓以上ヲ納ムル者三名ヲ以テ之ヲ組織ス

第八條 審査委員會ハ稅務署長ノ通知ニ依リ之ヲ開ク

第九條 審査委員會ハ毎年最初ノ開會ノ時ニ於テ審査委員中ヨリ會長ヲ選舉スヘシ

第十條 審査委員會ノ會長出席セサルトキハ出席シタル審査委員中ノ年長者之ヲ代理スヘシ

第十一條 審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非サレハ決議スルコトヲ得ス

議事ハ出席員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十二條 審査委員ハ自己又ハ自己ノ親族ノ相続ニ關スル審査ノ議事ニ與ルコトヲ得ス

第十三條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ審査委員會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

請スヘシ

第十六條 擔保ノ種類ハ左ニ掲クルモノニ限ル

- 一 稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券
- 二 土地
- 三 建物

四 稅務署長ニ於テ納稅保證ニ堪フル資力アリト認ムル保證人

第十七條 擔保トシテ有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ擔保トシテ土地建物ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第十八條 稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ資力納稅保證ニ堪ヘサルニ至リタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ變換セシムルコトヲ得

第十九條 年賦延納金額ハ相續稅金額ヲ延納年間ニ平分シテ之ヲ定ム

第二十條 增擔保ヲ提供スヘキ場合ニ於テ之ヲ提供セス又ハ保證人ヲ變換スヘキ場合ニ於テ之ヲ變換セサルトキハ稅務署長ハ年賦延納ノ許可ヲ取消シ稅金ヲ一時ニ徵收スヘシ年賦延納金滯納ノ場合ニ於テモ亦同シ

第二十一條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ滯納シタルトキハ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ其ノ稅金ニ充テ保證人アルトキハ保證人ニ通知シテ其ノ稅金ヲ納メシム

擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツヘキ場合ニ於テハ之ヲ公賣ニ付シ相續稅及公賣ノ費用ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘餘アルトキハ之ヲ還付ス

保證人ニ於テ稅金ヲ完納セサルトキハ納稅者ニ對シ滯納處分ヲ行ヒ仍稅金ニ不足アルトキハ保證人ニ對シ滯納處分ヲ行フ

第二十二條 年賦延納ノ許可ヲ受ケタル者相續稅ヲ完納シタルトキハ稅務署長ハ擔保解除ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條 相續稅法第十七條ノ二ノ規定ニ依リ物納ヲ求ムルコトヲ得ヘキ相續稅額ハ當該相續財產タル不動産ノ價額ニ對スル分ノ相續稅額ヲ超ユルコトヲ得ス (昭和十六年勅令第四一〇號)

相續財產タル不動産中ニ前項ノ相續稅額ヲ納付スルニ適當ナル價額ノモノナキトキハ稅務署長ハ當該稅額ヲ超ユル相續稅額ニ付テモ物納ヲ許可スルコトヲ得 (同上)

第二十二條ノ三 相續稅法第十七條ノ二ノ規定ニ依リ相續稅ノ物納ニ充ツルコトヲ得ヘキ不動産ハ相續稅法施行地ニ在ルモノニ限ル (同上)

第二十二條ノ四 相續稅法第十七條ノ二ノ規定ニ依リ物納ニ充ツル場合ニ於ケル不動産ノ收納價額ハ相續開始當時ノ現況ニ依ル相續開始後不動産ノ情況ニ著シキ變化ヲ生シタルトキハ稅務署長ハ收納ノ時ノ現況ニ依リ其ノ價額ヲ定ムルコトヲ得 (同上)

第二十二條ノ五 相續稅ノ物納ヲ求メムトスル者ハ物納スヘキ相續稅額及物納ニ充テムトスル不動産ヲ記シ相續稅法第十七條ノ二第二項ノ期間内ニ所轄稅務署ニ申請スヘシ (同上)

第二十二條ノ六 稅務署長相續稅法第十七條ノ二第三項又ハ第四項ノ規定ニ依リ納稅義務者ノ物納ニ充テムトスル不動産ノ變換ヲ命シ又ハ物納ヲ許可セザリシトキハ其ノ旨ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ (同上)

納稅義務者物納ニ充テムトスル不動産ノ變換ヲ命セラレタル場合ニ於テ他ノ不動産ヲ以テ物納ニ充テムスルトキハ當該不動産ヲ記シ前項ノ通知ヲ受ケタル後二十日以内ニ所轄稅務署ニ申出ツヘシ (同上)

納稅義務者前項ノ期間内ニ前項ノ申出ヲ爲サザリシトキハ物納ノ申請ハ其ノ效力ヲ失フ (同上)

第二十二條ノ七 相續稅法第十七條ノ二ノ規定ニ依リ物納ノ許可ヲ受ケタル相續稅額ハ物納ニ充ツヘキ不動産ノ所有權移轉ノ登記ヲ完了シタル時ニ於テ納付アリタルモノトス (同上)

第二十二條ノ八 相續稅法第二十二條ノ二第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ毎月支拂ヒタル生命保險 (徵兵保險ヲ含ム)ノ保險金ニ付翌月十五日限支拂調書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ (同上)

前項ノ支拂調書ニハ各保險契約ニ付左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 保險ノ種類
- 二 保險金額
- 三 保險金受取ノ住所氏名
- 四 保險契約者ノ住所氏名
- 五 被保險者ノ住所氏名
- 六 保險事故及其ノ生シタル日

第二十二條ノ九 前條ニ規定スル支拂調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ依リ一契約毎ニ一錢ノ割合ニ依リ計算シタル金額ヲ交付ス (同上)

配當利子特別税法

(昭和十五年三月二十九日法律第二十七號)

- 第一條 本法施行地ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者及本法施行地ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ配當利子特別税ヲ課ス
- 第二條 配當利子特別税ハ利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付之ヲ賦課ス
- 第三條 利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ハ其ノ支拂ヲ受クヘキ金額ニ依ル
- 第四條 左ニ掲クル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニハ配當利子特別税ヲ課セス
- 一 所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレサル者ノ受クル利益ノ配當又ハ其ノ所有ニ屬スル公債若ハ社債ノ利子
- 二 配當率年一割以下ノ利益ノ配當
- 三 利率年四分以下ノ國債ノ利子又ハ利率年四分五厘以下ノ國債以外ノ公債若ハ社債ノ利子
- 四 外貨債特別税法第一條第二項ニ規定スル外貨債ノ利子
- 第五條 配當利子特別税ノ税率左ノ如シ
- 一 利益ノ配當
- 配當金中配當率年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五
- 二 公債又ハ社債ノ利子
- 甲 國債
- 利子金額中利率年四分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五
- 乙 國債以外ノ公債又ハ社債
- 利子金額中利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五
- 第六條 配當利子特別税ハ配當又ハ利子支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ
- 第七條 前條ノ規定ニ依リ徵收スヘキ配當利子特別税ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ配當又ハ利子ノ支拂者ヨリ之ヲ徵收ス
- 第八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ

爲スト認ムル者ニ對シ質問スルコトヲ得

第九條 所得稅法第八十六條ノ規定ハ配當利子特別稅ニ付之ヲ準用ス

第十條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ配當利子特別稅ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料

ニ處ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

第十一條 配當又ハ利子ノ支拂ヲ爲スト認ムル者第八條ノ規定ニ依ル稅務署長又ハ其ノ代理官ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス又

ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十二條 第十條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八

條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス

第十三條 配當利子特別稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當

金額又ハ利子金額ヨリ配當利子特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

附 則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變特別稅法ニ依リ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ課スル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付テハ當該利益配

當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ配當利子特別稅ト看做シ第十三條ノ規定ヲ適用ス

配當利子特別稅法施行規則

(昭和十五年三月三十一日勅令第三百三十七號)

第一條 配當利子特別稅法第四條第一號ノ規定ニ依リ配當利子特別稅ヲ課セラレサル者無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ、讓

渡シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱者ニ通知スヘシ但シ所得稅法施行規則第九

十八條ノ規定ニ依リ通知ヲ爲シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二條 配當又ハ利子ノ支拂者配當利子特別稅法第六條ノ規定ニ依リ配當利子特別稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込

書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ

附 則

本令ハ配當利子特別稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙適宜輪廓 縱四寸五分 横三寸三分)

配當利子特別稅拂込書

第 何 號	何 年 度	大 藏 省 主 管	
租 稅	配 當 利 子 特 別 稅	配 當 利 子 特 別 稅	何 稅 務 署
Y		円	
頭書ノ金額拂込候也			
何縣何郡何町何番地			
何會社 代表者 何		某國	
(其ノ他之ニ準ズ)			
日本銀行何店宛			
昭和何年何月何日			

備 考

本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スベシ

配當利子特別稅法施行細則

(昭和十五年四月一日大藏省令第十一號)

第一條 配當利子特別稅法施行規則第二條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スベシ
 第二條 日本銀行ニ於テ配當利子特別稅ノ拂込ヲ受タルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スベシ
 第三條 配當利子特別稅ノ過誤納アリタル爲之ガ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スベシ

附 則
 本令ハ配當利子特別稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

通知書

第三號書式(用紙適宜輪廓四寸五分二枚授紙)

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	配當利子稅	何稅務署
何縣何郡何町何番地	何會社 代表者 何	某納
(其ノ他之ニ準テ)		
Y 円		
昭利何年何月何日領收		
日本銀行何店 圓		
何稅務署長官氏名殿		

領收證書

備考 日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

第何號	何年度	配當利子特別稅
何縣何郡何町何番地		
何會社 代表者 何 某納		
(其ノ他之ニ準テ)		
Y 円		
昭利何年何月何日領收		
日本銀行何店 圓		

昭和何年何月何日 配當利子特別稅徵收高計算書

區分	支拂ノキ金額	支拂濟金額		未拂濟金額	稅額	稅額	摘要
		配當利子	非配當利子				
何公債利子							
何社債利子							
配當							
計							

備考

一、支拂ノキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フベキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未濟金額トノ合計ヲ掲グルモノトス

二、非課稅ノ分ニ付テハ一人別細明書ヲ添付スルモノトス

何縣、何市町村又ハ何會社

外貨債特別税法

(昭和十二年三月三十日法律第五號)

改正

昭和十三年三月三十一日法律第四十四號

昭和十五年三月二十九日法律第二十八號

第一條

本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本法ニ依リ外貨債特別税ヲ課ス
本法ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條

外貨債特別税ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス
所得税法第六條(第一項但書ヲ除ク)ノ規定ハ信託財産タル外貨債ノ利子ニ付之ヲ準用ス(昭和十五年法律第二十八號改正)

第三條

外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依ル被相続人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ハ之ヲ相続人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ト看做ス
外貨債ニ付元本ノ所有者ニ非サル者カ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ元本ノ所有者カ支拂ヲ受クルモノト看做ス但シ利子ノ生
スル期間中ニ元本ノ所有者ニ異動アリタルトキハ最後ノ所有者ヲ以テ利子ノ支拂ヲ受クル者ト看做ス

第四條

左ニ掲クル利子ニハ外貨債特別税ヲ課セス(昭和十五年法律第二十八號改正)

一 所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレサル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子

二 利率年四分以下ノ外貨債ノ利子

三 利率年四分五厘以下ノ外貨債以外ノ外貨債ノ利子

四 起債者カ外貨債利子ニ對スル租税ヲ負擔スヘキ旨ノ約款アル外貨債ノ利子但シ其ノ約款カ昭和十二年一月一日前定メ
ラレタルモノニ限ル

第五條

外貨債特別税ハ外貨債利子金額中外貨債ニ在リテハ利率年四分、外貨債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年四分五
厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘シタル金額ヲ以テ其ノ税額トス(同七)

第六條

外貨債特別税ニ付納税義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スヘシ

第七條

外貨債利子金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ
之ヲ決定ス

第八條 前條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ
第九條 外貨債特別稅ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分 其ノ年七月三十一日限
七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分 翌年一月三十一日限

納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サスシテ本法施行地外ニ住所ヲ移ストキ又ハ法人解散シ清算結了セントスルト
キハ前項ノ納期ニ拘ラス直ニ其ノ外貨債特別稅ヲ徵收スルコトヲ得

第十條 收稅官吏ハ調査上必要アルトキハ外貨債ノ利子ノ支拂ヲ受ケ若ハ支拂ヲ爲スト認ムル者又ハ外貨債ノ利札ノ賣却若
ハ買入ヲ爲スト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 前條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ
千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ外貨債特別稅ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料
ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

第十三條 外貨債特別稅ノ調査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シ
タルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第十二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十
八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス

第十五條 所得稅法第八十四條第一項及第八十五條並ニ法人稅法第十條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付之ヲ準用ス(昭和十五年法律第二十八號改正)

第十六條 法人稅法第十條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人カ朝鮮、臺灣、關東
州、樺太又ハ法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ
合併ニ依リテ設立シタル法人カ法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル場合ニ付之ヲ準用ス(同上)

第十七條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ外貨債特別稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十八條 外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別稅相當額
ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス(昭和十五年法律第二十八號改正)

附 則

本法ハ支拂期カ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

附 則 (昭和十三年法律第四十四號)

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(第二項、第三項略)

外貨債特別稅法第十六條第一項(中略)ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則 (昭和十五年法律第二十八號)

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

但シ第二條、第四條及第五條ノ改正規定ハ支拂期カ昭和十五年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

外貨債特別税法施行規則

(昭和十二年三月三十一日勅令第五十五號)

改正 昭和十五年三月三十一日勅令第三百三十八號

第一條 外貨債特別税ニ付納稅義務アル者ハ其ノ所有スル外貨債ノ各銘柄ニ付其ノ名稱、額面總額、利率、利子支拂期日、證券所在地、收入利子金額及收入シタル年月日ヲ明記シ一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ七月十五日、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

外貨債特別税法第九條第二項ニ該當スルトキハ前項ノ規定ニ準シ直ニ申告スヘシ

第二條 稅務署長外貨債特別税法第七條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第三條 收稅官吏外貨債特別税法第十條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帯スヘシ

第四條 所得稅法施行規則第九十九條及第一百二條乃至第一百四條ノ規定ハ外貨債特別税ニ付之ヲ準用ス

第五條 朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ住所ヲ有スル者又ハ外貨債特別税法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セスシテ朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル者ノ外貨債利子ニ付テハ左ニ掲クル場合ヲ除クノ外外貨債特別税ヲ課

セス

一 外貨債特別税法施行地ニ住所ヲ有スル者外貨債利子金額決定後朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル外貨債利子金額決定

前外貨債特別税法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 外貨債特別税法施行地朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ

準スヘキ事由ノ生シタルトキ

附 則

本令ハ支拂期カ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

附 則 (昭和十五年勅令第三百三十八號)

本令ハ昭和十五年法律第二十八號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

有價證券移轉税法

(昭和十二年三月三十日法律第七號)

改正 昭和十四年四月一日法律第五十五號

第一條 有價證券ノ賣買、交換、贈與、遺贈其ノ他ノ原因ニ因ル移轉アリタルトキハ本法ニ依リ有價證券移轉税ヲ課ス
第二條 本法ニ於テ有價證券トハ國債證券、地方債證券、社債券、産業債券、商工債券及株券並ニ外國又ハ外國法人ノ發行スル此等ノ性質ヲ有スル證券ヲ謂フ

第三條 甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テノ名義變更及會社ノ社員ノ持分ノ移轉ハ之ヲ有價證券ノ移轉ト看做ス
第四條 有價證券移轉税ハ有價證券ノ取得者之ヲ納ムヘシ
第五條 有價證券移轉税ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ

第一種 有價證券仲買人ヲ買受人トスル賣買取引ニ因ル移轉
國債證券
取得價額 萬分ノ一
取得價額 萬分ノ二
其ノ他ノ有價證券

第二種 第一種以外ノ移轉
甲 取引所ノ實物市場ニ於ケル賣買取引ニ因ル移轉
國債證券
取得價額 萬分ノ二
取得價額 萬分ノ四
其ノ他ノ有價證券
乙 其ノ他
國債證券
取得價額 萬分ノ四
取得價額 萬分ノ八
其ノ他ノ有價證券

第六條 前條ノ取得價額ハ賣買ニ因ル移轉ニ付テハ賣買價額ニ依リ其ノ他ノ原因ニ因ルモノニ付テハ移轉ノ時ノ價格ニ依ル
第七條 有價證券移轉税ハ總テ一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
第八條 營利ヲ目的トセサル法人ニシテ所得税法其ノ他ノ法律ニ依リ所得税ヲ課セラレサル者ハ有價證券移轉税ヲ納ムルコトヲ要セス

- 第九條 左ニ掲クル有價證券ニ付テハ有價證券移轉稅ヲ納ムルコトヲ要セス
 - 一 一年内ノ期限ヲ以テ發行スル國債證券
 - 二 國債證券、地方債證券、勸業債券及命令ヲ以テ指定スル社債券ニシテ額面金額二十圓以下ノモノ
- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル有價證券ノ移轉ニ付テハ有價證券移轉稅ヲ納ムルコトヲ要セス
 - 一 相續、法人ノ合併又ハ保險業法第十三條ノ五ノ規定ニ依ル保險契約ノ全部ノ移轉ニ因ル有價證券ノ移轉
 - 二 日本銀行ヲ賣買ノ當事者トスル國債證券ノ移轉
 - 三 信託ノ場合ニ於ケル委託者ヨリ受託者ヘノ有價證券ノ移轉
 - 四 信託終了ノ場合ニ於ケル受託者ヨリ委託者又ハ其ノ相續人ヘノ有價證券ノ移轉
 - 五 消費貸借及其ノ終了ノ場合ニ於ケル無記名有價證券ノ移轉
 - 六 短期清算取引ニ於ケル受渡調節ノ爲メノ賣買取引ヲ業トスル會員又ハ取引員ノ代引ニ因ル有價證券ノ移轉
 - 七 第一號及第三號ノ場合ノ外會社カ自己ノ株式ヲ取得スル場合ニ於ケル有價證券ノ移轉
 - 八 賣出ノ方法ニ依リ發行スル場合ノ有價證券ノ移轉
- 第十一條 國債、地方債又ハ社債ノ總額ヲ契約ニ依リ引受ケタル者又ハ募集ノ委託ヲ受ケ自ラ其ノ一部ヲ引受ケタル者ヨリノ引受ケタル有價證券ノ移轉ニ付テハ發行ノ日ヨリ一年内ニ限り有價證券移轉稅ヲ納ムルコトヲ要セス下引受ヲ爲シタル者ヨリノ下引受ヲ爲シタル有價證券ノ移轉ニ付亦同シ
- 第十二條 有價證券移轉稅ハ有價證券ノ移轉毎ニ移轉當事者カ命令ノ定ムル所ニ依リ作成スル有價證券移轉書ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ
- 第十三條 有價證券仲買人ノ取扱ニ依ル有價證券ノ移轉ニ付テハ前項ノ規定ニ依ラス移轉ノ際有價證券仲買人其ノ税金ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムヘシ有價證券仲買人ヲ移轉當事者トスル有價證券ノ移轉ニ付亦同シ
- 第十四條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スヘキ有價證券移轉稅ヲ徵收セサルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セサルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ有價證券仲買人ヨリ徵收ス
- 第十五條 本法ニ於テ有價證券仲買人トハ有價證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者ヲ謂フ
- 第十六條 有價證券仲買人ノ業ヲ營マントスル者ハ每營業所ニ付豫メ政府ニ申告スヘシ其ノ營業ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

- 第十六條 有價證券仲買人ハ營業ニ關スル帳簿ヲ備ヘ命令ノ定ムル事項ヲ之ニ記載スヘシ
- 第十七條 納稅義務者ハ有價證券移轉書ニ印紙ヲ貼用スルトキハ移轉書ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ自己ノ印章又ハ署名ヲ以テ判明ニ之ニ消スヘシ
- 第十八條 第十二條第一項ニ規定スル有價證券移轉書ニ付テハ印紙稅法ニ依ル印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
- 第十九條 收稅官吏ハ有價證券仲買人ニ對シ有價證券ノ移轉ニ關スル事項ニ付質問シ又ハ其ノ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得
- 第二十條 有價證券移轉書ニ有價證券ノ取得價額ニ應スル相當印紙ヲ貼用セサル者ハ其ノ稅額高五倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ科料額カ三圓ニ滿タサルトキハ之ヲ三圓トス
- 第二十一條 有價證券移轉書ヲ作成セス因テ有價證券移轉稅ヲ逃脫シタル者亦前項ニ同シ
- 第二十二條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ有價證券移轉稅ヲ逃脫シタル有價證券仲買人ハ其ノ稅額高五倍ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ有價證券移轉稅ヲ徵收ス但シ罰金額カ二十圓ニ滿タサルトキハ之ヲ二十圓トス
- 第二十三條 第十五條ノ規定ニ違反シ政府ニ申告セスシテ有價證券仲買人ノ業ヲ營ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十四條 第十七條ノ規定ニ違反シ有價證券移轉書ニ貼用シタル印紙ヲ消ササル者ハ有價證券移轉書毎ニ消ササル貼用印紙額ノ二倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ科料額カ一圓ニ滿タサルトキハ之ヲ一圓トス
- 第二十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
 - 一 第十六條ノ規定ニ違反シ帳簿ヲ備ヘス又ハ之ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者
 - 二 第十九條ノ規定ニ依ル收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者
- 第二十六條 第二十條又ハ第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第一項ノ規定ヲ適用セス
- 第二十七條 第二十一條又ハ第二十三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス
- 第二十八條 有價證券ノ移轉當事者又ハ有價證券仲買人ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ有價證券ノ移轉ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ有價證券ノ移轉當事者又ハ有價證券仲買人ヲ處罰ス

附 則
 本法ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前ヨリ引續キ有價證券ノ賣買又ハ其ノ媒介ヲ爲スヲ業トスル者本法施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ
本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ申告シタルモノト看做ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

有價證券移轉稅法施行規則

(昭和十二年三月三十一日勅令第五十七號)
改正 昭和十五年五月十八日勅令第三百三十三號

- 第一條 有價證券移轉稅法第九條第二號ノ規定ニ依リ左ノ有價證券ヲ指定ス
 - 一 農工債券、興業債券、北海道拓殖債券、貯蓄債券、復興貯蓄債券、報國債券（昭和十五年勅令第三百三十三號改正）
 - 二 朝鮮殖産債券、鮮滿拓殖債券
- 第二條 有價證券移轉稅法第十二條第一項ニ規定スル有價證券移轉書ハ有價證券ノ移轉當事者移轉ノ際之ヲ作成シ記名捺印スヘシ
- 第三條 有價證券移轉書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 有價證券ノ種類、名稱、記號、番號及數
 - 二 有價證券ノ額面金額、株券ニ在リテハ拂込金額
 - 三 有價證券ノ取得價額
 - 四 有價證券移轉稅額
 - 五 移轉ノ原因及年月日
 - 六 移轉當事者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 有價證券移轉稅法第三條ニ規定スル甲種國債登錄簿ニ登錄シタル國債ニ付テノ名義變更及會社ノ社員ノ持分ノ移轉ニ關スル有價證券移轉書ニ在リテハ前項各號ニ準スル事項ヲ記載スヘシ
- 第四條 有價證券移轉稅法第十二條第二項ノ規定ニ依リ有價證券仲買人有價證券移轉稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムヘシ
- 第五條 有價證券仲買人ノ業ヲ營マントスル者ハ每營業所ニ付豫メ其ノ所在地、住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄稅務署ニ提出スヘシ
其ノ營業ヲ廢止セントスルトキ亦同シ
- 第六條 有價證券仲買人營業所ヲ移轉セントスルトキハ其ノ營業所ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 有價證券仲買人ノ業ヲ相續又ハ合併ニ因リ承繼シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條 有價證券仲買人ハ賣買又ハ其ノ媒介ヲ爲シタル有價證券ノ移轉ニ付少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 有價證券ノ種類、名稱、記號、番號及數

二 有價證券ノ額面金額、株券ニ在リテハ拂込金額

三 有價證券ノ賣買價額

四 有價證券移轉稅額

五 移轉ノ年月日

六 委託ヲ受ケタル年月日

七 移轉當事者ノ住所氏名又ハ名稱

第九條 收稅官吏有價證券移轉稅法第十九條ノ規定ニ依リ帳簿書類ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帯スヘシ

附 則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

有價證券移轉稅法附則第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ每營業所ニ付第五條ノ規定ニ準シテ作成シタル申告書ニ同法施行前ヨリ引續キ有價證券仲買人ノ業ヲ營ムコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ營業所所轄稅務署ニ提出スヘシ

附 則 (昭和十五年勅令第三百三十三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

有價證券移轉稅法施行細則

昭和十二年四月 日大藏省令第七號

第一條 有價證券移轉稅法施行規則第四條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スヘシ

第二條 日本銀行ニ於テ有價證券移轉稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添付シ之ヲ歳入徵收官ニ送付スヘシ

第三條 有價證券移轉稅ノ過誤納アリタル爲之カ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ有價證券移轉稅ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

通知書

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	有價證券移轉稅	有價證券移轉稅
何稅務署	何	其納
何縣何郡何町何番地		
(其ノ他之ニ準ズ)		
Y 圓		
昭和何年何月何日領收		
日本銀行何店 印		
何稅務署長官氏名殿		

第三號書式 (用紙適宜輪廓四寸五分 橫三寸三分 二枚接續)

一 本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スシ

備考

有價證券移轉稅拂込書

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	有價證券移轉稅	有價證券移轉稅
何稅務署	何	其納
何縣何郡何町何番地		
(其ノ他之ニ準ズ)		
日本銀行何店宛		
昭和何年何月何日		

頭書ノ金額拂込候也

Y 圓

第一號書式 (用紙適宜輪廓四寸五分 橫三寸三分)

備考

一 買價額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ取扱ヒタル全部ノ有價證券ノ買價額ヲ掲グル
 二 非課稅ノ分ニハ有價證券移轉稅法第八條乃至第十一條ノ規定ニ依リ課稅セラレ
 三 ザル有價證券ノ移轉ノ分ヲ掲グ其ノ明細書ヲ添付スルモトス
 四 券ノ移轉ノ分ヲ分ラシムルモトス仲買人ニ於テ有價證券移轉稅ヲ徵收スベキ有價證
 票稅シタル件數ヲ稅率區別ニ摘要欄ニ記載スルモトス

昭和何年何月何日 有價證券移轉稅徵收高計算書

區分	買價額	內			稅額	摘要
		課稅	非課稅	其ノ他		
第一種 國債證券 其ノ他證券 其有價證券						
第二種甲 國債證券 其ノ他證券 其有價證券						
第二種乙 國債證券 其ノ他證券 其有價證券						
合計						

昭和何年何月何日 何某又ハ何會社

備考

領收證書

第何號	何年度	有價證券移轉稅
何縣何郡何町何番地		
何 其納		
(其ノ他之ニ準ズ)		
Y 圓		
昭和何年何月何日領收		
日本銀行何店 印		

- 昭和十三年四月二日法律第七十號 (硫酸アンモニア増産及配給統制法) (昭和十三年七月十一日施行)
- 昭和十三年四月三十日法律第八十一號 (北支那開發株式會社法) (公布ノ日施行)
- 昭和十四年三月三十日法律第四十五號 (工業組合法中改正法律) (昭和十四年四月一日施行)
- 昭和十四年四月四日法律第六十五號 (海運組合法) (昭和十四年四月一日施行)
- 昭和十四年四月五日法律第六十九號 (造船事業法) (昭和十四年四月一日施行)
- 昭和十四年四月五日法律第七十號 (帝國鑛業開發株式會社法) (昭和十四年五月十日施行)
- 昭和十四年四月十二日法律第八十五號

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第二條 不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ (昭和二年法律第六號改正)

- 一 相続ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ五
- 二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ四十 (昭和十三年法律第四六號改正)
- 但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ニ依リ設立シタル法人カ無償名義又ハ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ千分ノ二十三 (同上)
- 三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 不動産價格 千分ノ三十 (同上)
- 四 所有權ノ保存 不動産價格 千分ノ五
- 五 共有物ノ分割 分割ニ因リテ受クル不動産ノ價格 千分ノ五
- 六 地上權、永小作權又ハ賃借權ノ取得 不動産價格 千分ノ一
- 存續期間十年以下ノモノ 千分ノ二
- 同二十年以下ノモノ 千分ノ二
- 同三十年以下ノモノ 千分ノ四
- 同五十年以下ノモノ 千分ノ七
- 同七十年以下ノモノ 千分ノ十
- 同百年以下ノモノ 千分ノ十五

- 同百年ヲ超ユルモノ 不動産價格 千分ノ二十
- 存續期間ノ定メナキモノ 不動産價格 千分ノ一
- 存續期間ノ定メナキモノニシテ民法第二百六十八條若ハ第二百七十八條ノ規定ノ適用アルモノ又ハ借地法第二條第一項ノ適用アルモノ 不動産價格 千分ノ四
- 相続ニ因ル取得ニシテ存續期間三十年ヲ超ユルモノ 不動産價格 千分ノ五
- 權利移轉ニ因ル取得ノ場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期間ヲ以テ存續期間ト看做ス
- 七 地役權ノ取得 要役地價格 千分ノ一
- 華族世襲財産ノ設定 先取特權ノ保存又ハ取得 不動産價格 千分ノ二十五
- 九 質權、抵當權ノ取得 債權金額又ハ不動産工事費用豫算金額 千分ノ五・五
- 十一 信託ノ登記 債權金額 千分ノ五・五
- 所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ四
- 所有權以外ノ權利ニ付テハ 不動産價格 千分ノ二
- 十二 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ五・五
- 十三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四
- 十四 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ五・五
- 十五 相続財産ノ分離 所有權ニ付テハ 不動産價格 千分ノ五・五
- 所有權以外ノ權利ニ付テハ 不動産價格 千分ノ一
- 十六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ 債權金額 千分ノ四
- 十七 抹消シタル登記ノ回復 不動産每一箇 金四十錢
- 十八 假登記 不動産每一箇 金四十錢
- 十九 附記登記 不動産每一箇 金二十錢

但シ一件ニ付税額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス
 登記ノ更正、變更又ハ抹消
 但シ一件ニ付税額金二圓ヲ超ユルトキハ二圓トス
 不動産每一箇 金二十錢

第三條 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(昭和二年法律第六號改正)

- 一 相續ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三
- 二 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ依ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ三十五
- 三 前各號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 船舶價格 千分ノ二十三
- 四 委付 船舶價格 千分ノ三
- 五 所有權ノ保存 船舶價格 千分ノ三
- 六 賃借權ノ取得 船舶價格 千分ノ一
- 七 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ五・五
- 八 信託ノ登記 債權金額 千分ノ五・五
- 九 所有權ニ付テハ 船舶價格 千分ノ三
- 十 競賣ノ申立 船舶價格 千分ノ一
- 十一 假差押、假處分 債權金額 千分ノ五・五
- 十二 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ四
- 十三 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ 債權金額 千分ノ五・五
- 十四 登記證書ヲ提出セスシテ受ケタル特別登記簿ノ登記ヲ登記簿ニ移ス場合ニ於ケル登記 債權金額 千分ノ四
- 十五 抹消シタル登記ノ回復 船舶每一箇 金一圓
- 十六 假登記 船舶每一箇 金四十錢
- 十七 附記登記 船舶每一箇 金二十錢

十七 登記ノ更正、變更又ハ抹消 船舶每一箇 金二十錢

前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二 信託財産タル不動産又ハ船舶ヲ受託者ヨリ受益者ニ移ス場合ニ於ケル所有權取得ノ登記ニ付テハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(昭和十三年法律第四十六號改正)

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人カ受益者ナルトキハ千分ノ二十三

- 第三條ノ三 鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(同上)
 - 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
 - 二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一
 - 三 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一
 - 四 登錄ノ更正、變更又ハ抹消 債權金額 千分ノ一
- 第三條ノ四 工場財團登記簿、鑛業財團登記簿、漁業財團登記簿又ハ自動車交通事業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(昭和二年法律第六號昭和六年法律五二號昭和十三年法律四十六號改正)
 - 一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一
 - 二 信託ノ登記 債權金額 千分ノ一
 - 三 競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一
 - 四 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一
 - 五 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ一
 - 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ 債權金額 千分ノ一
 - 七 抹消シタル登記ノ回復 債權金額 千分ノ一
 - 八 假登記 每一件 金二圓
 - 九 附記登記 每一件 金二圓

- 十 登記ノ更正、變更又ハ抹消
 - 第三條ノ五 農業用動産ノ抵當權ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(昭和十三年法律第四十六號改正)
 - 一 低當權ノ取得 債權金額 千分ノ二
 - 二 但シ稅額金二十錢未滿ナルトキハ二十錢トス
 - 三 抹消シタル登記ノ回復
 - 四 假登記
 - 五 附記登記
 - 但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス
 - 但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス
 - 六 登記ノ更正變更又ハ抹消
 - 但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス
 - 但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス
 - 第四條 船籍ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録
 - 轉籍 每十噸 金五十錢
 - 除籍 每十噸 金十錢
 - 登録ノ變更 船舶每一箇 金十錢
 - 二 船籍ノ變更
 - 船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
 - 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス
 - 第五條 農地開發營團カ農地開發債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ(昭和十六年法律第六十五號附則)
 - 一 農地開發債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込 每回拂込金額 千分ノ二
 - 二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金十圓
 - 第六條 商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額二十圓未滿ナルトキハ二十圓トス(昭和二年法律第六號改正)
 - 一 合名會社、合資會社設立 財產ヲ目的トスル出資ノ價格 千分ノ五
 - 二 合名會社、合資會社出資増加 財產ヲ目的トスル増出資ノ價格 千分ノ五
 - 三 株式會社設立 拂込株金額 千分ノ五
 - 四 株式會社資本増加 増資拂込株金額 千分ノ五

- 但シ社債ノ轉換ニ因ル資本増加ノ場合ニ於テハ其社債ニ付第十一號ノ規定ニ依リ納メタル登録稅額ヲ控除ス
- 五 株式會社第二回以後ノ株金拂込
 - 每回拂込株金額 千分ノ五(同上)
- 六 株式合資會社設立
 - 拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ五(同上)
- 七 株式合資會社資本増加
 - 増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ五(同上)
- 八 株式合資會社第二回以後ノ株金拂込
 - 但シ社債ノ轉換ニ因ル資本増加ノ場合ニ於テハ其ノ社債ニ付第十一號ノ規定ニ依リ納メタル登録稅額ヲ控除ス
 - 每回拂込株金額 千分ノ五(同上)
 - 出資ノ價格 千分ノ五(昭和十四年法律第四十五號改正)
 - 増出資ノ價格 千分ノ五(同上)
- 八ノ二 有限會社設立
 - 出資ノ價格 千分ノ五(同上)
 - 増出資ノ價格 千分ノ五(同上)
- 八ノ三 有限會社資本増加
 - 拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一(明治四十三年法律第十一號及昭和二年法律第六號改正)
- 九 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立
 - 但シ合併ニ因リ消滅シタル會社又ハ組織變更ヲ爲シタル會社ノ合併當時又ハ組織變更當時ノ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ 千分ノ五
 - 合併ニ因ル會社資本ノ増加 増資拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格 千分ノ一(同上)
 - 但シ合併ニ因リ消滅シタル會社ノ合併當時ノ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ 千分ノ五
- 十 合併ニ因リ消滅シタル會社ノ合併當時ノ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ヲ超過スル金額ニ付テハ 千分ノ五
- 十一 社債又ハ第二回以後ノ社債拂込
 - 大正三年法律第二十二號、昭和二年法律第六號、同十二年法律第五十號、同十四年法律第八十二號改正
 - 商法第三百三條又ハ其ノ準用規定ニ依リ拂込アリタル日 (賣出シノ方法ニ依リ發行シタル場合ニ於テハ賣出滿了ノ日) ヨリ最終ノ償還期限ニ至ル期間一年以下ノモノ 每回拂込金額 千分ノ一(昭和十四年法律第四十五號改正)
 - 同三年以下ノモノ 每回拂込金額 千分ノ二

同三年ヲ超ユルモノ

毎回拂込金額 千分ノ三

但シ産業債券、商工債券、農工債券、北海道拓殖債券、興業債券、勸業債券、臺灣拓殖債券、東洋拓殖債券、北支開發債券、東北興業債券、硫安債券、燃料興業債券、産金振興債券又ハ鑛業開發債券ニ付テハ千分ノ二

- 十二 支店設置 每一箇所 金二十圓 (明治四十三年法律第十一號及昭和二年法律第六號改正)
 - 十三 本店又ハ支店ノ移轉 每一件 金十圓 (同上)
 - 十四 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金十圓 (同上)
 - 十四ノ二 社員ノ業務執行權ノ喪失 每一件 金十圓 (昭和十四年法律(第四十五號改正))
 - 十四ノ三 取締役又ハ監査役ノ職務執行ノ停止 每一件 金十圓 (同上)
 - 十四ノ四 取締役又ハ監査役ノ職務代行者ノ選任 每一件 金十圓 (同上)
 - 十四ノ五 取締役又ハ無限責任社員ノ職務ヲ行フ監査役ノ選任 每一件 金十圓 (同上)
 - 十五 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金十圓
- 但シ商法施行法又ハ商法中改正法律施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス
(昭和十四年法律第四十五號改正)
- 十六 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金十圓
 - 十六ノ二 會社ノ繼續ノ登記 每一件 金十圓 (昭和十四年法律(第四十五號改正))
 - 十六ノ三 合併ヲ無効トスル判決力確定シタル場合ニ於ケル合併ニ因リ消滅シタル會社ニ付テノ回復ノ登記 每一件 金十圓 (同上)
 - 十六ノ四 會社設立ノ無効又ハ取消 每一件 金七圓 (同上)
 - 十七 解散 每一件 金七圓 (昭和二年法律第六號改正)
 - 十八 商法第二百二十三條又ハ其ノ準用規定ニ依ル登記 每一件 金二圓 (昭和十四年法律(第四十五號改正))
 - 十八ノ二 清算人ノ職務執行ノ停止、其ノ取消又ハ變更 每一件 金二圓 (同上)
 - 十八ノ三 清算人ノ職務代行者ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金二圓 (同上)
 - 十八ノ四 清算人ノ職務ヲ行フ監査役ノ選任、解任又ハ變更 每一件 金二圓 (同上)
 - 十九 清算ノ結了 每一件 金二圓 (同上)

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金二圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ朝鮮、臺灣、關東州、樺太若ハ南洋群島ニ於ケル法人又ハ外國會社カ登記ヲ受クルトキ亦同シ

第六條ノ二 恩給金庫カ恩給債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 恩給債券又ハ其ノ第二回以後ノ拂込 毎回拂込金額 千分ノ二
二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金十圓

第六條ノ三 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (昭和十三年法律第五十七號改正)
一 商號ノ新設又ハ取得 每一件 金十圓 (昭和二年法律(第六號改正))
二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金十圓 (同上)

三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 金十圓 (同上)
四 商法第五條第七條ニ依ル登記 每一件 金五圓 (同上)
五 民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記 每一件 金五圓 (昭和十四年法律(第四十五號改正))

六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止 每一件 金五圓 (昭和二年法律(第六號改正))
七 登記ノ更正又ハ抹消 每一件 金二圓 (同上)

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金一圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ (同上)
第七條 左ノ事項ニ付キ辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 新規登録 金二十圓
二 登録換 金十圓
三 取消ノ消求 金一圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
一 新規登録 醫師 金二十圓

醫師 金二十圓

- 藥劑師 金十二圓
- 獸醫 金十二圓
- 蹄鐵工 金五圓
- 假開業醫師 金五圓
- 假免許獸醫 金三圓
- 假免許蹄鐵工 金一圓

二 登錄事項ノ變更

每一件

金五十錢

第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ (明治三十二年法律第八十三號改正)

一 新規登錄

- 甲種船長 金十五圓
- 甲種一等運轉士 金十圓
- 甲種二等運轉士 金六圓
- 乙種船長 金十圓
- 乙種一等運轉士 金四圓
- 乙種二等運轉士 金三圓
- 丙種船長 金六圓
- 丙種運轉士 金二圓
- 機關長 金十五圓
- 一等機關士 金十圓
- 二等機關士 金六圓
- 三等機關士 金三圓
- 水先人 金二十圓

二 登錄事項ノ變更

每一件

金五十錢

第十條 著作權ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ (明治四十二年法律第六十四號改正)

一 著作權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金五圓

二 著作權ヲ目的トスル質權ノ設定

債權金額

千分ノ五・五

三 前號ノ權利ノ移轉

相續

每一件

金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金一圓

無名又ハ變名著作物ノ著作權ノ實名登錄

每一件

金二圓

信託ノ登錄

每一件

金一圓

滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號及第二號ノ權利ノ處分ノ制限

債權金額

千分ノ四

著作年月日ノ登錄

每一件

金一圓

抹消シタル登錄ノ回復

每一件

金五十錢

假登錄

每一件

金五十錢

登錄ノ更正、變更又ハ抹消

每一件

金二十錢

第十條ノ二 出版權ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 出版權ノ設定

每一件

金十圓

二 出版權ノ移轉

相續

每一件

金一圓

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金五圓

出版權ヲ目的トスル質權ノ設定

債權金額

千分ノ五・五

前號ノ權利ノ移轉

相續

每一件

金五十錢

相續以外ノ原因ニ因ル移轉

每一件

金一圓

- 五 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 七 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢
- 八 假登録 每一件 金五十錢
- 九 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 第十一條 特許ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (明治四十二年法律第三十一號改正)
 - 一 特許權ノ移轉 相續 每一件 金一圓
 - 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金十圓
 - 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 金五圓 (昭和二年法律第六號改正)
 - 四 前二號ノ權利ノ移轉 相續 千分五・五 (同上)
 - 五 信託ノ登録 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
 - 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 金二圓 (大正十一年法律第四十六號改正)
 - 七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 千分ノ四
 - 八 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢
 - 九 假登録 每一件 金五十錢
 - 十 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金五十錢

第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (明治四十二年法律第三十一號改正)

- 一 意匠權ノ移轉 相續 每一件 金一圓
- 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金二圓
- 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 金一圓
- 四 前二號ノ權利ノ移轉 相續 千分ノ五・五 (昭和二年法律第六號改正)
- 五 信託ノ登録 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
- 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 金一圓 (大正十一年法律第四十六號改正)
- 七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 千分ノ四
- 八 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢
- 九 假登録 每一件 金五十錢
- 十 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢
- 第十二條ノ二 實用新案ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (明治四十二年法律第三十一號改正)
 - 一 實用新案權ノ移轉 相續 每一件 金一圓
 - 二 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金五圓
 - 三 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 金二圓 (昭和二年法律第六號改正)
 - 四 前二號ノ權利ノ移轉 相續 千分ノ五・五 (同上)

- 五 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 信託ノ登録 每一件 金一圓
- 六 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 七 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金五十錢
- 八 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢
- 九 假登録 每一件 金五十錢
- 十 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢

第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

(昭和二年法律第六號改正)

- 一 商標權ノ移轉 相續 金一圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
 - 二 信託ノ登録 每一件 金一圓
 - 三 代理人ノ選任又ハ代理權ノ登録 每一件 金二十圓 (大正十一年法律第四十六號)
 - 四 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金五十錢 (昭和二年法律第六號改正)
 - 五 假登録 每一件 金五十錢 (同上)
 - 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金五十錢 (同上)
- 第十四條 礦業權ニ關シ礦業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (明治二十八年法律第九號改正)
- 一 試掘權ノ設定 金百圓 (明治四十三法律第十二號改正)
 - 二 試掘權ノ變更 每一件 金四十五圓 (同上)
 - 增區又ハ増減區 每一件 金十圓
 - 減區 每一件 金十圓
 - 三 試掘權ノ移轉 每一件 金十圓

- 四 相續 每一件 金十圓
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金四十五圓 (同上)
- 四 採掘權ノ設定 新規登録 每一件 金二百圓 (同上)
- 礦區合併 每一件 金五十圓
- 礦區分割 每一件 金五十圓
- 五 採掘權ノ變更 設定礦區每一箇 金五十圓
- 礦區訂正 每一件 金五十圓
- 增區又ハ増減區 每一件 金百圓 (同上)
- 減區 每一件 金二十圓
- 六 採掘權ノ移轉 相續 金二十圓
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金百圓 (同上)
- 七 抵當權ノ設定 新規登録 債權金額 千分ノ五・五
- 礦業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定 每一件 金五圓
- 八 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 金十圓
- 九 抵當權ノ移轉 相續 金五圓
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
- 十 信託ノ登録 每一件 金十圓
- 共同礦業權者ノ脱退 每一件 金十圓 (大正十一年第四十六號改正)
- 十一 滯納處分以外ノ原因ニ因ル礦業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 每一件 金五圓
- 十二

- 十三 廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅 債權金額 千分ノ四 金五圓
- 十四 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金四十錢 (昭和二年法律第六號正)
- 十五 假登録 每一件 金四十錢 (同上)
- 十六 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢 (同上)

第十五條

砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (明治四十四年法律第十四號改正)

- 一 砂鑛權ノ設定
 - 新規登録 採取區域 河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄 每一件 金十五圓
 - 砂鑛區合併 每一件 金三圓
 - 砂鑛區分割 設定砂鑛區每一箇 金三圓
- 二 砂鑛權ノ變更
 - 增區 採取區域 河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄 每一件 金十五圓
 - 減區 每一件 金一圓
- 三 砂鑛權ノ移轉
 - 但シ增區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 - 相續 每一件 金五圓
 - 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十五圓
- 四 抵當權ノ設定
 - 新規登録 債權金額 千分ノ五・五
 - 砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定 每一件 金五圓
- 五 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 金十圓
- 六 抵當權ノ移轉

- 相續 每一件 金五圓
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
- 七 信託ノ登録 每一件 金五圓 (大正十一年法律第四十六號改正)
- 八 滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 九 廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅 每一件 金一圓
- 十 抹消シタル登録ノ回復 每一件 金四十錢
- 十一 假登録 每一件 金四十錢
- 十二 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金二十錢

第十五條ノ二

漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ (明治四十三年法律第六十四號改正)

- 一 漁業權ノ移轉 相續 每一件 金一圓
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
- 二 漁業權ノ持分ノ移轉 相續 每一件 金四十錢
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 三 入漁權ノ設定 每一件 金三圓
- 四 入漁權ノ保存 每一件 金五十錢
- 五 入漁權ノ移轉 相續 每一件 金五十錢
- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金二十圓
- 六 入漁權ノ持分ノ移轉 相續 每一件 金二十錢

- 七 相續以外ノ原因ニ因ル移轉
債權ノ取得
每一件 金五十錢
- 八 相續
每一件 金五十錢
- 九 先取特權ノ保存又ハ取得
債權金額又ハ工
事費用豫算金額
千分五・五 (昭和二年法律第六號改正)
- 十 相續以外ノ原因ニ因ル移轉
債權金額
每一件 千分五・五 (同上)
- 十一 信託ノ登録
每一件 金一圓
- 十二 競賣、強制管理ノ申立
每一件 金二圓
- 十三 假差押、假處分
債權金額
千分五・五 (同上)
- 十四 抵當アル債權ノ差押
債權金額
千分ノ四
- 十五 滞納處分以外ノ原因ニ因ル權利ノ處分ノ制限ニシテ特ニ掲ケサルモノ
債權金額
千分ノ五・五 (同上)
- 十六 抹消シタル登録ノ回復
債權金額
千分ノ四 (同上)
- 十七 假登録
每一件 金四十錢 (同上)
- 十八 附記登録
每一件 金二十錢 (同上)
- 十九 登録ノ更正、變更又ハ抹消
每一件 金二十錢 (同上)

第十六條 法人ノ合併ニ因ル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ登録稅ヲ納ムヘシ但シ他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本條ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル (昭和二年法律第六號改正)

前項ノ規定ハ保險業法ノ規定ニ從ヒ會社カ其ノ保險契約全部ノ移轉契約ニ因リテ不動産又ハ船舶ニ關スル權利ヲ移轉シタ

ル場合ニ於テ其ノ權利ノ取得ニ付之ヲ準用ス (昭和十年法律第三號改正)

- 第十六條ノ二 債權金額ニ依リ課稅額ヲ定ル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノ又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做シ先取特權、質權、抵當權又ハ處分ノ制限ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス但シ抵當アル債權ノ差押ヲ登記スル場合ニ於テハ差押ヘラルヘキ債權ノ額又ハ質權若ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ少キトキハ其ノ最少キモノヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十六條ノ三 質權ヲ異ニスル登記所ニ於テ順次ニ不動産登記法第二百二十二條ノ規定ニ依ル登記ヲ受クル場合ニ於テ各登記所ニ於テ受クル登記ニ付テハ債權金額ヨリ既ニ登記ヲ受ケタルモノノ價格ヲ控除シタル殘額ヲ以テ債權金額ト看做ス (同上)
- 第十六條ノ四 同一ノ債權ノ爲ニ先取特權、質權又ハ抵當權ニ關シ種類ヲ異ニスル二以上ノ登記登録ヲ受クル場合ニ於ケル登録稅ニ關シテハ前條ノ規定ニ準シ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十六條ノ五 信託契約ニ依ル物上擔保附社債ニシテ其ノ總額ヲ數回ニ分チ發行スルモノノ抵當權ノ取得ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録稅ヲ課セス擔保附社債信託法第十九條ノ二ノ規定ニ依ル登記又ハ鐵道抵當法第三十條ノ二第二項ノ規定ニ依ル登録ヲ抵當權ノ取得ノ登記又ハ登録ト看做シ其ノ回ノ發行金額ヲ債權金額ト看做シテ登録稅ヲ課ス (昭和八年法律第一號改正)
- 第十七條 登録稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 第十八條 登録稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未満ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス
- 第十九條 左ニ掲ケルモノニハ登録稅ヲ課セス但シ第八號乃至第九號ノ四、第十一號、第十二號及第十四號乃至第十七號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル (昭和二年法律第六號改正)
 - 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ登録
 - 二 社寺若ハ堂宇ノ敷地又ハ墳墓地ニ關スル登記
 - 三 北海道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ニ關スル登記
 - 四 府縣市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録
 - 五 市町村ノ一部ニ屬スル財産ヲ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存ノ登記又ハ登録

- 六 市町村又ハ市町村ノ一部ニ屬スル入會權ニシテ二以上ノ市町村ニ互ルモノヲ消滅セシムル爲市町村又ハ其ノ一部カ其ノ入會財產ニ付爲ス權利ノ取得若ハ財產ノ分割又ハ之カ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記
- 七 恩給金庫、農地開發營團、產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會、庶民金庫、住宅營團、蠶絲共同施設組合、漁業組合、漁業組合聯合會、商工組合中央金庫、工業組合、工業組合聯合會、工業小組合、工業組合中央會、商業組合、商業組合聯合會、商業組合中央會、貿易組合、貿易組合聯合會、貿易組合中央會、造船組合、造船組合聯合會、海運組合、海運組合聯合會又ハ肥料製造組合ニ付恩給金庫法、農地開發法、產業組合法、庶民金庫法、住宅營團法、蠶絲業法、漁業法、商工組合中央金庫法、工業組合法、商業組合法、貿易組合法、造船事業法、海運組合法又ハ重要肥料業統制法ニ基キテ爲ス登記(昭和十六年三月六日法律第四十六號同三月十二日法律第六十五號改正)
- 八 負債整理ノ爲ニスル負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記(昭和八年法律第二十一號同十三年六十七號改正)
- 八ノ二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記(昭和十三年法律第六十七號改正)
- 九 農地調整法第三條若ハ第四條ノ團體又ハ第六條若ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者ニ對シ同法第三條、第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲ス者カ其ノ貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記(同上)
- 九ノ二 農地調整法第三條又ハ第四條ノ團體カ同法第三條又ハ第四條ノ事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得ノ登記(同上)
- 九ノ三 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ事業ヲ行フ者カ自作農創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記(同上)
- 九ノ四 農地調整法第七條又ハ第十九條ノ規定ニ依ル登記(同上)
- 十 北海道府縣市町村、產業組合又ハ住宅組合カ住宅ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
- 十一 住宅又ハ住宅用地ニ付產業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記
- 十二 農地調整法第四條、第六條又ハ第十九條ノ自作農創設維持ノ事業ニ依リ創設又ハ維持セラレタル土地ノ所有者カ其ノ創設又ハ維持ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル事業者ノ土地所有權ノ取得ノ登記(昭和十三年法律第六十七號改正)
- 十三 農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記
- 十四 學校經營ヲ目的トスル法人ノ土地、建物ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記
- 十五 市町村、產業組合中央金庫、信用組合、日本勸業銀行、農行銀行、北海道拓殖銀行、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ負債整理ノ爲ニスル資金貸付ノ場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記

- 十六 市町村、產業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヨリ負債整理ノ爲ニスル資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、產業組合中央金庫、信用組合、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ所有權ノ取得ノ登記(同上)
- 十六ノ二 農地開發營團カ農地開發事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記(昭和十六年三月法律第六十五號改正)
- 十七 負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ同法第七條第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土地所有權ノ取得ノ登記(昭和十二年法律第七十七號改正)
- 十八 庶民金庫又ハ住宅營團ノ事務所ノ用ニ供スル不動産ニ關スル登記(昭和十六年法律第四十六號改正)
- 十九 住宅營團カ住宅營團法第十六條第一號、第三號又ハ第四號ノ業務ノ爲ニスル建物又ハ土地ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記(同上追加)
- 第十九條ノ二 信託ニ因ル財產權取得ノ登記又ハ登録ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ登録稅ヲ課セス(昭和十三年法律第四十六號改正)
 - 一 委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ登記又ハ登録
 - 二 委託者ノミカ信託財產ノ元本ノ受益者タル信託ニ因リ受託者ヨリ受益者ニ信託財產ヲ移ス場合ニ於ケル財產權取得ノ登記又ハ登録
 - 三 受託者ノ更迭ノ場合ニ於ケル新受託者ノ財產權取得ノ登記又ハ登録
- 前項第二號ノ規定ハ委託者ノ相續人ニ信託財產ヲ移ス場合ニ於テハ之ヲ適用セス此ノ場合ニ於テハ當該相續人ノ財產權取得ノ登記又ハ登録ヲ以テ相續ニ因ル財產權取得ノ登記又ハ登録ト看做シ登録稅ヲ課ス
- 第十九條ノ三 會社ノ整理又ハ特別清算ニ關シ裁判所ノ囑託ニ因リテ爲ス登記又ハ登録ニ付テハ登録稅ヲ課セス(昭和十四年法律第四十五號改正)
- 第十九條ノ四 登記又ハ登録ノ抹消又ハ錯誤若ハ遺漏カ當該官吏ノ過誤ニ出テタルトキハ其ノ回復又ハ更正ノ登記又ハ登録ニ付テハ登録稅ヲ課セス
- 第十九條ノ五 外國カ其ノ大使館公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關シテ受クル登記ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ登録稅ヲ免除ス但シ當該國カ帝國ノ大使館、公使館又ハ領事館ノ敷地又ハ建物ニ關スル登記ニ付同様ノ免稅ヲ爲ササル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス(昭和四年法律第六十三號改正)
- 第十九條ノ六 登記所カ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者

ニ告知スヘシ(同上)

第十九條ノ七 前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得

(大正三年法律第二十一號、昭和四年法律第六十三號改正)

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課税標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニヨリ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課税標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ八 前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲ス

コトヲ得(大正三年法律第二十一號、昭和四年法律第六十三號改正)

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十九條ノ九 登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル税額ト認定價格ニ相當スル税額トノ差額

ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ(同上)

第十九條ノ十 當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス(同上)

第十九條ノ十一 評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク(同上)

第十九條ノ十二 評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ヲ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス

(同上)

第十九條ノ十三 評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ(同上)

附 則

第二十條 本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第二十一條 現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手数料等ニシテ本法ニ規定スル登録税ト重複スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附 則

此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

附 則 (明治三十二年法律第八十三號)

此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ第十條ハ著作権法施行ノ日ヨリ施行ス

附

附 則 (明治三十八年法律第九號)

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ鑛業原簿ノ登録ニ付テハ鑛業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ登録税ヲ納メタル者鑛業法ニ依リ其事項ニ付鑛業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ更ニ登録税ヲ納ムルコトヲ要セス

附

附 則 (明治四十二年法律第十四號)

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又ハ届出ヲ爲シ既ニ登録税ヲ納メタル者ハ砂鑛法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登録ニ付更ニ登録税ヲ納ムルコトヲ要セス砂鑛法第二十七條第一項ニ依ル登録ニ付亦同シ

附

附 則 (明治四十二年法律第三十一號)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十二年八月勅令第二百二十二號及同)

附 則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別税法中登録税ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附

附 則 (明治四十三年法律第六十四號)

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十三年六月勅令第二百七十六號、同年八月勅令第三百十五號、同年十一月勅令第四百三十四號ヲ以テ定メラル)

附

附 則 (大正三年法律第二十一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正三年十月勅令第二百二十四號)

附

附 則 (大正七年法律第十四號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附

附 則 (大正十一年法律第四十六號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十一年十二月勅令第五百十二號)

附

附 則 (大正十四年法律第二十一號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ各條別ニ之ヲ定ム(第三條、五ノ規定ハ大正十四年七月勅令第二百四十三號、以テ同年七月六日ヨリ施行) (第一項、第五號ノ改正規定ハ同年八月勅令第二百六十七號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

附 則 (昭和二年法律第六號)

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定中第二項、第三條ノ三及第三條ノ四ノ改正規定ハ信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ所有權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登録稅ヲ課セラレタル不動産又ハ船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

附 則 (昭和四年法律第六十三號)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和十年法律第三號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十年勅令第三十八號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

附 則 (昭和十三年法律第四十六號)

本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ改正規定ハ信託財産ヲ委託者ヨリ受託者ニ移ス場合ニ於ケル受託者ノ財產權取得ニ付從前ノ規定ニ依リ登録稅ヲ課セラレタルモノニ付テハ之ヲ適用セス

附 則 (昭和十四年法律第四十五號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

商法中改正法律施行法第五十五條ニ規定スル社債ノ登記ニ付テハ登録稅法第六條第一項第十一號ノ改正規定ニ拘ラス仍從前ノ例ニ依ル

十七 株券

十八 債券

十九 相互保險會社ノ發スル基金證券

二十 株式申込證

二十一 社債申込證

二十二 地上權、永小作權又ハ地役權ニ關スル證書

二十三 使用貸借、貸貸借、雇傭、寄託又ハ定期金ニ關スル證書

二十四 信託行為ニ關スル證書

二十五 無盡ニ關スル證書

二十六 定款又ハ組合契約書

二十七 權利ノ變更ニ關スル證書

二十八 追認又ハ承認ニ關スル證書

二十九 受取書

三十 質權、抵當權ニ關スル證書

三十一 前各號以外ノ證書

三十二 預金通帳

三十三 前號以外ノ通帳

三十四 判取帳

證書ニ金高記載ナキモ證書面ニ標記シアル價額ノ單位其ノ他ノ記載事項ニ依リ其ノ金高ヲ算出スルコトヲ得ルモノハ其ノ總金額ヲ以テ記載金高ト看做ス

第五條 左ニ掲クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス

一 官廳又ハ公署ヨリ發スル證書、帳簿

- 二 官廳又ハ公署ニ職ヲ奉スル者ノ職務上發スル證書、帳簿
- 三 國庫金ノ取扱ニ關シ發スル證書
- 四 慈善又ハ公共事業ノ爲ニスル寄附ニ關シ官廳又ハ公署ニ提出スル證書
- 四ノ二 小切手 (昭和十六年法律第六十五號農地開闢法ニヨリ)
- 五 農地開發營團ノ發スル出資證券 (同上追加)
- 五ノ二 恩給金庫ノ發スル出資證券又ハ貸付業務ニ關スル證書、帳簿 (昭和十三年法律第五十七號恩給金庫法ニ依リ追加)
- 六 產業組合ノ發スル出資證券若ハ貯金通帳又ハ住宅組合ノ發スル出資證券 (昭和二十一年法律第七號改正)
- 六ノ二 庶民金庫ノ業務ニ關スル證書帳簿及庶民債券 (昭和十三年法律第五十八號庶民債券法ニ依リ追加)
- 七 記載金高十圓未満ノ約束手形及爲替手形
- 八 貯金通帳、積金通帳又ハ積金證書 (貯蓄銀行法第一條ノ貯金又ハ積金ニ付發スルモノニ限ル) (昭和二年法律第七號改正)
- 九 產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ其ノ記載金高十圓未満ノモノ (同上)
- 九ノ二 國民貯蓄組合ノ代表者カ組合ノ業務ニ關シ發スル金錢ノ寄託若ハ信託若ハ信託行爲ニ關スル證書ハ通帳又ハ委任狀 (昭和十六年法律第六十四號附則ニテ)
- 十 記載金高一圓未満ノ物品切手 (昭和二年法律第七號改正)
- 十一 賣買仕切書 (同上)
- 十二 物品又ハ有價證券ノ賣買契約證書 (同上)
- 十三 送狀 (同上)
- 十四 記載金高十圓未満若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書 (大正十二年法律第十二號改正)
- 十五 主タル債務ノ證書ニ併記シタル擔保契約書 (同上)
- 十六 手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタ受取書 (同上)
- 十七 株券又ハ債券ニ記載シタル讓渡ノ證明書 (同上)
- 十八 手形ノ引受及保證 (同上)
- 十九 手形又ハ證券ノ拒絕證書 (同上)
- 二十 手形又ハ證券ノ複本及謄本 (同上)
- 二十一 農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券 (昭和二年法律第七號追加)
- 二十二 質札又ハ質物通帳 (質屋營業者ノ發スルモノニ限ル) (同上)
- 二十三 勤務通帳 (同上)

書ヲ發シ現金ヲ以テ登録稅ヲ徵收スヘシ (明治三十八年勅令第七十七號追加同第六十八號施行ノ日ヨリ施行昭和四年勅令第九十號改正)

第五條ノ六 左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登録稅法第十九條第八號、第十五號、第十六號又ハ十七號ノ規定ニ依リ登録稅ヲ免除ス (昭和十二年勅令第七百號改正)

一 負債整理組合 (農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヲ含ム以下同シ)ノ農村負債整理組

合法第十一條第二項ノ規定ニ依ル負債整理ノ爲ノ資金ノ貸付ニシテ第五條第二號ニ掲クル事項ニ付同條第一號ノ場合ト

同一ノ條件ヲ以テ行フモノニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

二 市町村、產業組合中央金庫、信用組合、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行又ハ負債整理組合ノ負債整理ノ爲

ノ資金貸付ノ場合ニ於ケル抵當權ノ取得ノ登記

三 負債整理ノ爲ノ資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、產業組合中

央金庫、信用組合又ハ負債整理組合ノ所有權ノ取得ノ登記

四 負債整理組合ノ農村負債整理組合法第七條第二項ニ規定スル場合ニ於ケル土地所有權ノ取得ノ登記

第六條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

七條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條 登録稅法第十九條ノ七ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ (昭和四年勅令第

八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

- 附 則 (昭和四年勅令第九十三號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 附 則 (昭和八年勅令第百十五號)
本令ハ昭和八年法律第四十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和八年法律第四十四號ハ同年五月二十日ヨリ施行)
- 附 則 (昭和八年勅令第百六號)
本令ハ農村負債整理組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (農村負債整理組合法ハ昭和八年勅令第百六號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)
- 附 則 (昭和十二年勅令第七百號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 附 則 (昭和十三年勅令第四百三號)
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 附 則 (昭和十三年勅令第五百二十八號)
本令ハ農地調整法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和十三年八月一日ヨリ施行)
- 附 則 (昭和十四年勅令第八百六十七號)
本令ハ昭和十四年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表) (大正十五年十月勅令第四百十七號ヲ以テ別表トス)

旅 費 額		日 當	鐵 道 賃 船 賃
車馬賃	宿泊料		
七十五錢	五圓五十錢	三	圓

備考 鐵道賃船賃ニハ通行税、解賃、棧橋賃及普通急行料金ヲ含ム但シ急行料金ハ鐵道五十哩未滿水路五十哩未滿ノ旅行及急行料金ヲ徴セサル旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

領事官ノ取扱フ登記ノ登録税ニ關スル件

明治三十九年八月十日勅令第二百十九號

改正 大正十二年八月十三日勅令第三百六十四號

- 第一條 領事官ノ取扱フ登記事務ニ關シ本令ニ規定シタルモノニ付テハ登録税法ノ規定ヲ適用セス
 - 第二條 商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納付スヘシ
 - 一 合名會社合資會社設立
財產ヲ目的トスル出資ノ價格
 - 一萬圓未滿 金十圓
 - 一萬五千圓未滿 金十三圓
 - 二萬圓未滿 金十六圓
 - 二萬五千圓未滿 金十九圓
 - 二萬五千圓以上五十萬圓未滿ハ其ノ二萬五千圓ヲ超ユル金額一萬圓毎ニ金一圓ヲ加算シ、五十萬圓以上ハ其ノ五十萬圓ヲ超ユル金額一萬圓毎ニ金五十錢ヲ加算ス
 - 二 合名會社合資會社出資増加
財產ヲ目的トスル出資ノ總額ニ對シ前號ニ依リ納付スヘキ登録税ノ金額ヨリ既ニ納付シタル設立又ハ出資増加ノ登録税ヲ控除シタル金額
 - 三 株式會社株式合資會社設立
拂込株金額又ハ拂込株金額及財產ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格ニ付第一號ニ準ス
 - 四 株式會社株式合資會社資本増加及第二回以後ノ株金拂込第二號ニ準ス
 - 五 前各號ニ該當セサル登記
每一件 金一圓
- 前項ノ規定ノ適用ニ付テハ支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ資本ノ額ヲ定メタル會社ノ財產ヲ目的トスル出資ノ價格又ハ拂込株金額ハ登記ヲ申請スル日ノ相場ニ依リ海關兩一兩ニ相當スル額ヲ日本貨幣二圓ニ換算シテ之ヲ定ム (大正十二年勅令第百三十四號改正)
- 前二項ノ場合ニ於テ新ニ納付スヘキ登録税又ハ既納ノ登録税ト新ニ納付スヘキ登録税トノ合算額カ三百圓ヲ超エルトキハ

之ヲ三百圓ニ減シ既納ノ登録稅三百圓ニ達シタルトキハ其ノ後ノ登記ニ付登録稅ヲ課セス
財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ一件毎ニ金一圓ノ登録稅ヲ納付スヘシ

第三條 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ一件毎ニ金一圓ノ登録稅ヲ納付スヘシ

- 一 商號ノ新設又ハ取得
- 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
- 三 船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅
- 四 商法第五條及第七條ニ依ル登記
- 五 民法第七百九十四條、第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記
- 六 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
- 七 登記ノ更正又ハ抹消

第四條 印紙ヲ以テ登録稅ヲ納付スルコト能ハサルトキハ現金ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
支那ニ流通スル銀貨幣ヲ以テ資本ノ額ヲ定メタル會社ノ登録稅ハ登記ヲ申請スル日ノ相場ニ依リ支那ニ流通スル銀貨幣ヲ
以テ之ヲ納付スルコトヲ得 (大正十二年勅令第三百六十四號改正)

附 則

本令ハ明治三十九年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

御料地拂下地ノ地租及登録稅免除ニ關スル法律

(昭和二年三月三十日法律第十八號)

第一條 北海道ニ於ケル御料地ニ屬スル未開地ヲ開拓シテ拂下ヲ受ケ又ハ之ヲ開拓シ若ハ素地ノ儘使用スルノ目的ヲ以テ拂
下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニ對スル地租ハ民有ト爲リタル年ノ翌年ヨリ起算シ十年ヲ經過シタル後ニ非サレハ之ヲ賦課
セス

第二條 前條ノ拂下地ニ付テハ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ニハ登録稅ヲ免除ス但シ所有權取得後六月内ニ登記ノ囑託ヲ請
求セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條ノ規定ハ本法施行前拂下ヲ受ケ民有ト爲リタル土地ニシテ本法施行ノ際未タ地價ノ設定ヲ爲ササルモノニモ亦之ヲ適
用ス

第二條ノ規定ハ前項ノ規定ニ該當スル土地ニシテ本法施行ノ際未タ拂下ニ因ル所有權取得ノ登記ヲ受ケサルモノニモ亦之ヲ
適用ス此ノ場合ニ於テハ六月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

國稅徵收法 (抄録) (明治三十年三月二十九日法律第二十一號)

第二十三條ノ四 差押ノ解除ニ關シテ登録稅ヲ納ムルコトヲ要セス

北海道舊土人保護法 (抄録) (明治三十二年三月二日法律第二十七號)

改正 昭和十二年三月三十一日法律第二十一號

第二條ノ二 第一條ノ規定ニ依リ下付セラレタル土地ニハ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ三十年ヲ經過シタル後ニ非サレハ地租ヲ課セス又地方稅ヲ課スルコトヲ得ス但シ相續以外ノ原因ニ因リ所有權ノ移轉アリタル土地、登記シタル質權ノ目的タル土地又ハ登記シタル百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ期間内ハ下付ヲ受ケタル者又ハ其ノ相續人ニ對シ下付ヲ受ケタル土地ノ下付若ハ相續ニ因ル所有權ノ取得又ハ遺産ノ分割ニ關スル登録稅ヲ課セス

保險業法 (抄録) (昭和十四年三月二十九日法律第四十一號)

第八十條 相互會社カ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ營利ヲ目的トセサル社團法人ト同一ノ登録稅ヲ納ムルコトヲ要ス

永代借地權ニ關スル法律 (抄録) (明治三十四年九月二十一日法律第三十九號)

第三條 永代借地權又ハ之ヲ目的トスル權利ニ關スル登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

北海道士功組合法 (抄録) (明治三十五年三月八日法律第十二號)

第九條 組合事業ヲ施行シタルカ爲土地ノ登記又ハ登録ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス

北海道國有未開地處分法 (抄録) (明治四十一年四月十五日法律第五十七號)

第二十條 土地ノ賣拂又ハ付與ヲ受ケタル者六月以内ニ其ノ原因ニ依リ登記ヲ請フトキ又ハ土地臺帳ニ登録スルトキハ其ノ登録稅ヲ免除ス
前項ノ登記ノ申請ヲ爲ス者ハ其ノ申請書ニ本法ニ依リ處分セラレタル土地タルコトヲ記載スルコトヲ要ス

耕地整理法 (抄録) (明治四十二年四月十三日法律第三十號)

第十條 耕地整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記ヲ爲ストキハ登録稅ヲ免除ス

破産法 (抄録) (大正十一年四月二十五日法律第七十一號)

第二百二十二條 登記所カ前三條ノ規定ニ依リテ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス
第二百二十三條 登記ノ原因タル行爲カ否認セラレタルトキハ破産管財人ハ否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ否認セラレタルトキ亦同シ
第二百二十一條及前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
第二百二十四條 前四條ノ規定ハ破産財團ニ屬スル權利ニシテ登録シタルモノニ之ヲ準用ス

和議法 (抄録) (大正十一年四月二十五日法律七十二號)

第八條 破産法第十九條、第二十條、第二百二十二條及第二百二十四條ノ規定ハ和議開始、和議開始決定取消又ハ和議廢止

ノ決定アリタル場合及和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

産業組合中央金庫法 (抄録) (大正十二年四月六日法律第四十二號)

第八條 (第一項省略)

登録税法及印紙税法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第十七條 (第一項及第二項省略)

所得税法及登録税法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

復興貯蓄債券法 (抄録) (大正十三年七月二十二日法律第十五號)

第六條 復興貯蓄債券ニハ印紙稅ヲ、復興貯蓄債券ノ發行ニ依ル社債ノ登記ニハ登録稅ヲ、復興貯蓄債券ノ利子ニハ所得稅ヲ課セス

家畜保險法 (抄録) (昭和四年三月二十八日法律第十九號)

第九條 組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

船舶積量測度法中改正法律 (抄録) (昭和六年三月二十八日法律第六號)

附 則

第二條 従前ノ規定ニ依リ測度シタル船舶ノ總噸數又ハ登録噸數ハ各之ヲ本法ニ依リ測度シタル總噸數又ハ純噸數ト看做ス

第三條 従前ノ規定ニ依リ石數ヲ以テ積量ヲ表示シタル船舶ノ積量測度ニ付テハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ積量ヲ改測スル迄仍従前ノ規定ニ依ル

第四條 他ノ法令中登録噸數トアルハ之ヲ純噸數トス

第五條 船舶カ本法施行ノ結果登記登録ノ變更又ハ抹消ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登録ヲ爲ス場合ニ於テハ登録稅ヲ課セス本法施行ノ際登記登録ヲ要セサル船舶カ本法施行ノ結果新ニ登記登録ヲ要スル船舶ト爲リタル爲其ノ登記登録ヲ爲ス場合亦同シ

蠶絲業組合法 (抄録) (昭和六年三月三十日法律第二十四號)

第二十五條 養蠶實行組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

牧野法 (抄録) (昭和六年四月一日法律第三十七號)

第二十三條 牧野組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

産業組合法 (抄録) (明治三十三年三月七日法律第三十四號)

第十條ノ四 蠶絲業組合法 (中略) 第二十三條乃至第二十五條 (中略) ノ規定ハ農事實行組合ニ之ヲ準用ス (下略)

農村負債整理組合法 (抄録) (昭和八年三月二十九日法律第二十一號)

第十九條 負債整理組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録稅ヲ課セス

日本製鐵株式會社法 (抄録) (昭和八年四月六日法律第四十七號)

第十八條 日本製鐵株式會社其ノ設立ノ日ヨリ五年以内ニ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録稅ノ額ハ左ノ額

トス但シ登録税法ノ規定ニ依リ算出シタル登録税ノ額カ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 設立、資本ノ増加、合併又ハ第二回以後ノ株金拂込
 拂込株金額、増資拂込株金額又ハ毎回拂込株金額ノ千分ノ一

二 設立、資本ノ増加又ハ製鐵事業ノ譲受ノ場合ニ於ケル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得
 不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三

北海道府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ日本製鐵株式會社ニ對シ前項ニ規定スル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

旭川市舊土人保護地處分法 (抄錄) (昭和九年三月二十四日法律第九號)

第一條 北管道廳長官ハ舊土人保護ノ目的ヲ以テ旭川市ニ貸付シタル同市所在ノ土地ヲ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ經テ特別ノ緣故アル舊土人ニ單獨有財產又ハ共有財產トシテ無償下付スルコトヲ得

第三條 第一條ノ規定ニ依ル土地所有權ノ取得ニ關シテハ登録税ハ課セス又地方税ヲ課スルコトヲ得ス

臺灣拓殖株式會社法 (抄錄) (昭和十一年六月三日法律第四十三號)

第四條 政府ハ臺灣總督ノ管理ニ屬スル金錢以外ノ財產ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ臺灣拓殖株式會社カ政府ノ出資スル不動産ノ取得ニ付登記ヲ受クルトキハ其ノ登録税ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス

商工組合中央金庫法 (抄錄) (昭和十一年五月二十七日法律第十四號)

改正 昭和十五年三月法律第五十九號

第三十六條 所得税法、登録税法中社債ニ關スル規定ハ商工債券ニ之ヲ準用ス

競馬法 (抄錄) (大正十二年四月十日法律第四十七號)

第一條 本法ニ依ル競馬ハ日本競馬會ニ限り之ヲ行フコトヲ得

第十六條 (第一項省略)
 日本競馬會カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

附 則 (昭和十一年法律第三十一號)

第四十七條 從前ノ第一條ノ法人及社團法人帝國競馬協會解散シタル場合ニ於テハ其ノ權利義務ハ日本競馬會之ヲ承繼ス (第二項省略)

第四十九條 日本競馬會第四十七條ノ規定ニ依リ承繼シタル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登録税法ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ本法ニ依リ算出シタル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル (第二項省略)

日本通運株式會社法 (抄錄) (昭和十二年四月五日法律第四十六號)

附 則

第十九條 日本通運株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル稅額カ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

一 設立
 金錢出資ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財產ノ出資ニ依ル拂込株金額ノ千分ノ一トノ合計額

二 設立ノ際ニ於ケル出資ノ目的タル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得
 不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ日本通運株式會社ニ對シ前項ニ規定スル不動産又ハ船舶ニ關スル權利ノ取得ニ

關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

漁船保險法 (抄録) (昭和十二年三月三十一日法律第二十三號)

第二十八條 (前略) 家畜保險法第八條乃至第十條 (中略) ノ規定ハ漁船保險組合ニ之ヲ準用ス (下略)

産業組合自治監査法 (抄録) (昭和十三年三月十八日法律第十五號)

第六條 (第一項省略)

産業組合監査聯合會カ本法ニ基キテ爲ス登録税ヲ課セス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

農業保險法 (抄録) (昭和十三年四月二日法律第六十八號)

第八條 農業保險組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

第七十八條 第一項 (前略) 第七條乃至第十二條 (中略) ノ規定ハ農業保險組合聯合會ニ之ヲ準用ス (下略)

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

陸上交通事業調整法 (抄録) (昭和十三年四月二日法律第七十一號)

第八條 第二條ノ規定ニ依ル調整ノ實施ニ因リ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税カ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 會社ノ設立又ハ資本増加

金錢出資ニ依ル拂込株金額又ハ増資拂込株金額ノ千分ノ五ト金錢以外ノ財産ノ出資ニ依ル拂込金額又ハ増資拂込金額ノ千分ノ一トノ合計額

二 會社ノ設立若ハ資本増加又ハ陸上交通事業ノ讓受ノ場合ニ於ケル不動産ニ關スル權利ノ取得

不動産ノ價格ノ千分ノ三

北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ前項ニ規定スル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

日本發送電株式會社法 (抄録) (昭和十三年四月六日法律第七十七號)

第三十一條 日本發送電株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ノ額カ左ノ額ヨリ少キトキハ其ノ額ニ依ル

一 設立及第四條又ハ第八條ニ規定スル出資ニ因ル資本ノ増加

拂込株金額又ハ増資拂込株金額ノ千分ノ一

二 第四條、第八條又ハ第十四條ニ規定スル出資又ハ買収ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得

不動産ノ價格ノ千分ノ三

北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ日本發送電株式會社ニ對シ前項ニ規定スル不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

附 則

第四十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

北支那開發株式會社法 (抄録) (昭和十三年四月三十日法律第八十一號)

第三十三條 北支那開發株式會社設立、資本ノ増加、合併又ハ第二回以後ノ株金拂込ノ登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ拂込株金額、増資拂込株金額又ハ毎回拂込株金額ノ千分ノ一トス

第三十五條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臨時資金調整法 (抄録) (昭和十二年九月十日法律第八十六號)

改正 昭和十四年四月二十二日法律第八十六號

第十三條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ收入金五億圓ニ達スル迄貯蓄債券ヲ發行セシムルコトヲ得貯蓄債券ハ無記名トシ券面金額ヲ二十圓以下トス

第十五條 復興貯蓄債券法第三條、第五條、第六條、第七條第一項及第八條並ニ日本勸業銀行法第三十五條ノ二、第三十五條ノ三、第四十條及第四十二條ノ規定ハ貯蓄債券ニ之ヲ準用ス

軍馬資源保護法 (抄録) (昭和十四年四月七日法律第七十六號)

改正 昭和十五年三月法律第五十九號

第十四條 軍用保護馬鍛鍊中央會ニハ所得税、法人税及營業税ヲ課セス
軍用保護馬鍛鍊中央會カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

米穀配給統制法 (抄録) (昭和十四年四月十二日法律第八十一號)

附則

第五十三條 本法施行ノ期日ハ各規定ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十六條 日本米穀株式會社ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケ米穀ヲ賣買取引スル取引所又ハ正米市場開設者カ
本法公布ノ際現ニ所有スル土地、建物其ノ他ノ設備ヲ其ノ申込ニ應シ買取ルモノトス
(第二項以下省略)

第五十七條 日本米穀株式會社前條第一項ニ規定スル買取ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ不動産ノ價格ノ千分ノ三トス但シ登録税法ニ依リ算出シタル登録税ノ額カ本法ニ依リ之ヲ算出シタル額ヨリ少キトキハ其ノ税額ニ依ル
北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ日本米穀株式會社ニ對シ前條第一項ニ規定スル買得ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得ニ關シ地方税ヲ課スルコトヲ得ス

國際電氣通信株式會社法 (抄録) (大正十四年三月三十日法律第三十號)

改正 昭和十四年四月十二日法律第八十三號

第六條 政府ハ國際電氣通信株式會社ニ對シ其ノ資本ノ半額ヲ限リ出資スルコトヲ得
政府ノ所有株式ノ株金拂込ハ其ノ他ノ株式ノ株金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得
政府ハ國ノ所有ニ屬スル第一條ニ掲クル設備及其ノ設備ヲ爲ス爲購入シタル土地ヲ以テ出資ノ目的ト爲スコトヲ得
第十四條ノ八 國際電氣通信株式會社左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス
一 第六條第三項ニ規定スル出資ニ因ル資本ノ増加
増資拂込株金額ノ千分ノ一
二 第六條第三項ニ規定スル出資ニ基ク不動産ニ關スル權利ノ取得
不動産ノ價格ノ千分ノ三

大日本航空株式會社法 (抄録) (昭和十四年四月十二日法律第八十四號)

改正 昭和十五年三月法律第五十七號

第三十二條 大日本航空株式會社カ左ノ事項ニ付登記ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ登録税ノ額ハ左ノ額トス

- 一 第四條第二項ノ規定ニ依ル政府ノ出資及第五條第二項ノ規定ニ依ル第二回以後ノ株金拂込
拂込株金額又ハ毎回拂込株金額ノ千分ノ一
- 二 第四條第二項ノ規定ニ依ル政府ノ出資又ハ第五條第二項ノ規定ニ依ル第二回以後ノ株金拂込ニ基ク不動産又ハ船舶ニ
關スル權利ノ取得
不動産又ハ船舶ノ價格ノ千分ノ三

附 則

第三十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十八條 大日本航空株式會社ノ成立ニ因リ許可會社ハ之ニ吸收セラルルモノトシ許可會社ノ權利義務ハ大日本航空株式
會社ニ於テ之ヲ承繼ス

第四十九條 前條ノ規定ニ依リ許可會社カ大日本航空株式會社ト爲リタルトキハ所得稅法、法人稅及營業稅、臨時利得稅法
ノ適用ニ關シテハ許可會社ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ大日本航空株式會社ハ之ヲ合併ニ因リテ設立シタ
ル法人ト看做ス

大日本航空株式會社カ設立ノ登記ヲ受クルトキハ其ノ拂込株金額中許可會社ノ拂込株金額ニ相當スル部分ニ付テハ登録稅
ヲ課セス大日本航空株式會社カ前條ノ規定ニ依リ許可會社ヨリ不動産又ハ船舶ニ關スル權利ヲ承繼スル場合ニ於ケル其ノ
取得ニ付登記ヲ受クルトキ亦同シ
前條ノ規定ニ依ル許可會社ヨリ大日本航空株式會社ヘノ有價證券ノ移轉ニ付テハ有價證券移轉稅ヲ課セス

宗教團體法 (抄錄) (昭和十四年四月八日法律第七十七號)

附 則

第二十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條 登録稅法第二條及第三條ノ二中「寺院、祠宇、佛堂」ヲ「法人タル宗教團體」ニ改ム

同法第十九條但書中「第八號乃至第九號ノ四」ヲ「第二號ノ二、第八號乃至第九號ノ四」ニ改メ同條第二號ヲ左ノ如ク改
ム

二 神社ノ敷地ニ關スル登記

二ノ二 寺院ノ境内地若ハ教會ノ構内地又ハ寺院若ハ教會ノ用ニ供スル建物ニ關スル登記

二ノ三 墳墓地ニ關スル登記

第三十五條第一項ノ佛堂ニシテ寺院ニ屬セス又ハ寺院若ハ教會ト爲ラサルモノノ不動産ニ關スル登記ニ付テハ前二項ノ改
正規定ニ拘ラス本法施行後二年ヲ限り仍從前ノ例ニ依ル

附 (昭和十四年勅令第八五號)

宗教團體法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

船舶業組合法 (抄錄) (未公布)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登録稅法第十九條第七號中「又ハ肥料製造業組合」ヲ「肥料製造業組合、船舶業組合又ハ船舶業組合聯合會」ニ、「又ハ
重要肥料業統制法」ヲ「重要肥料業統制法又ハ船舶業組合法」ニ改ム

建築税法

(昭和十五年三月二十九日法律第三十號)

- 第一條 本法施行地ニ於テ左ニ掲クル家屋ヲ建築(増築及改造ヲ含ム以下同シ)シタル者ニハ本法ニ依リ建築税ヲ課ス
- 一 居住ノ用ニ供スル家屋
 - 二 料理店業、席貸業其ノ他之ニ類スル營業ノ用ニ供スル家屋ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノ
 - 三 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物(相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム)ノ開催ノ用ニ供スル家屋
- 第二條 建築税ハ家屋(附屬工作物ヲ含ム以下同シ)一構毎ニ其ノ建築價額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス
- 前項ノ建築價額ノ算定ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 一構ノ家屋ノ一部カ前條ノ家屋ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ部分ヲ以テ一構ノ家屋ト看做ス
- 第三條 第一條ニ掲クル家屋ヲ新築シタル者新築竣成後一年以内ニ其ノ家屋ト一構ト爲ルヘキ建築ヲ爲シタル場合ニ於テハ前後ノ建築ヲ通シテ一建築ト看做シ本法ヲ適用ス
- 前項ノ規定ニ依リ建築税ヲ課スヘキ場合ニ於テ既ニ建築税ヲ課シタル部分アルトキハ其ノ建築税ニ相當スル金額ヲ建築税額ヨリ控除ス
- 第四條 建築税ハ建築價額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額ノ百分ノ十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ税額トス
- 第五條 左ニ掲クル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ建築税ヲ課セス
- 一 建築價額一萬圓未滿ノ家屋
 - 二 公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體ガ建築シタル家屋
 - 三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋
- 第六條 左ニ掲クル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築税ヲ免除ス
- 一 災害ニ因リ滅失又ハ損壞シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋
 - 二 法令ニ依リ收用又ハ使用セラレタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋及法令ニ依ル敷地ノ收用又ハ使用ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋

三 其ノ他命令ヲ以テ定ムル家屋
 第七條 建築税ニ付納義務アル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築價額ヲ政府ニ申告スヘシ
 第八條 建築價額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

建築價額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ
 第九條 建築税ハ建築竣成ノ際之ヲ徵收ス

第十條 建築税ハ家屋ノ所在地ヲ以テ納稅地トス
 納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキハ建築價額ノ申告、納稅其ノ他建築税ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲其ノ地ニ於テ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

第十一條 本法ノ適用ニ付テハ被相続人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ相続人ノ爲シタルモノト看做シ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ爲シタルモノト看做ス

第十二條 收稅官吏ハ家屋ヲ建築シタル者、建築工事請負人、建築工事管理者若ハ建築材料供給者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ家屋、建築ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ建築税ヲ遁脱シタル者ハ其ノ遁脱シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハス

第十四條 第十二條ノ規定ニ依リ收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條 第十三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セス

附 則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第三條第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ支那事變特別稅法ニ依リ課セラレタル建築税ハ之ヲ本法ニ依リ課セラレタル建築税ト看做ス

建築稅法施行規則

(昭和十五年三月三十一日勅令第四百十號)

第一條 建築稅法第一條第二號ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課スヘキ家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 料理店
- 二 貸席
- 三 貸座敷
- 四 引手茶屋

第二條 建築價額ハ左ニ掲クル金額ノ合計額ニ依ル

- 一 家屋ノ建築ニ要シタル金額(疊、建具其ノ他ノ造作ニ要シタル金額ヲ含ム)
- 二 電氣、瓦斯、水道其ノ他ノ附屬設備ノ設置ニ要シタル金額
- 三 門、圍障、庭園其ノ他ノ附屬築造物ノ築造ニ要シタル金額

第三條 建築稅法第五條第二號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス

- 一 府縣組合、市町村組合、町村組合及市町村内ノ區
- 二 市町村學校組合、町村學校組合及學區
- 三 水利組合、水利組合聯合及北海道土功組合

第四條 建築稅法第五條第三號ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課セサル家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 長屋、共同住宅及寄宿舎
- 二 一時ノ使用ニ供スル家屋

第五條 建築稅法第六條第三號ノ規定ニ依リ建築稅ヲ免除スル家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 土地區劃整理ノ施行ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋
- 二 行政執行法第四條ノ處分ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋

第六條 建築稅法第六條及前條ニ掲クル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ建築稅ヲ免除ス但シ其ノ家屋ノ床面積カ從前ノ家屋ノ床面積ヲ超過スル場合ニ於ケル超過部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於ケル超過部分ノ建築價額ハ新ニ建築シタル家屋ノ床面積ニ對スル該超過部分ノ床面積ノ割合ヲ其ノ家屋ノ建築價額ニ乘シテ之ヲ計算ス
前二項ノ床面積ハ各階(地階ヲ含ム)ノ床面積ノ合計額ニ依リ各階ノ床面積ハ家屋ノ外壁又ハ之ニ代ルヘキ柱ノ中心線内ノ面積ニ依ル

第七條 建築税法第六條及前二條ノ規定ニ依リ建築税ノ免除ヲ受ケントスル者ハ同法第八條第一項ノ規定ニ依ル建築價額決定前事由ヲ具シ所轄稅務署ニ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ從前ノ家屋ノ所在地、用途、構造及床面積ヲ記載スヘシ

第八條 建築税ニ付納稅義務アル者ハ建築竣成後二十日以内ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

一 家屋ノ所在地

二 家屋ノ用途、構造及床面積

三 建築價額

四 建築竣成ノ年月日

五 建築工事請負人又ハ建築工事管理者アルトキハ其ノ住所及氏名又ハ名稱

六 建築税法第三條ニ該當スル建築ニ在リテハ其ノ旨及既ニ建築税ヲ課セラレタル部分アルトキハ其ノ稅額

家屋ノ一部カ建築税法第一條ノ家屋ニ該當スル場合ニ於テハ前項ノ申告書ニハ家屋全部ノ用途、構造、床面積及建築價額ヲ併セ記載スヘシ

第九條 稅務署長建築價額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スヘシ

第十條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十一條 收稅官吏建築税法第十二條ノ規定ニ依リ家屋、帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帯スヘシ

附 則

本令ハ建築税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鑛區稅法

(昭和十五年三月二十九日法律第三十一號)

第一條 本法施行地ニ在ル鑛區及砂鑛區ニハ本法ニ依リ鑛區稅ヲ課ス

第二條 鑛區稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 一 試掘鑛區 面積千坪毎ニ 三十錢
- 二 採掘鑛區 面積千坪毎ニ 六十錢
- 三 砂鑛區 面積千坪毎ニ 三十錢

河床 延長一町毎ニ 三十錢

河床ニ非サルモノ 面積千坪毎ニ 三十錢

前項ノ場合ニ於テ千坪未滿又ハ一町未滿ノ端數ハ之ヲ千坪又ハ一町トシテ計算ス

第三條 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ徵收ス

鑛區又ハ砂鑛區ノ合併又ハ分割ニ因リ設定セラレタル場合ヲ除クノ外鑛業權(砂鑛權ヲ含ム以下同シ)ノ設定又ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足セル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ直ニ之ヲ徵收ス

第四條 鑛區稅ハ納期開始ノ時ニ於ケル鑛業權者(砂鑛權者ヲ含ム以下同シ)ヨリ之ヲ徵收ス

共同鑛業權者ハ連帶シテ納稅ノ義務ヲ負フ

公賣及競賣以外ノ原因ニ因リ鑛業權ノ移轉アリタル場合ニ於テ未納ニ係ル鑛區稅アルトキハ新鑛業權者ハ當該鑛區稅ニ付舊鑛業權者ト連帶シテ納稅ノ義務ヲ負フ

第五條 鑛業權者鑛業代理人(砂鑛業代理人ヲ含ム以下同シ)ヲ選任シタルトキハ其ノ鑛業代理人ハ鑛區稅ニ關スル事項ノ處理ヲ委任セラレタルモノト看做ス

納稅義務者及鑛業代理人鑛區又ハ砂鑛區ノ所在地ヲ管轄スル稅務署ノ管轄區域内ニ現住セサルトキハ鑛區稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲メ其ノ地ニ於テ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スヘシ

附 則

第六條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條 砂鑛區稅法ハ之ヲ廢止ス但シ昭和十五年分以前ノ砂鑛區稅及同附加稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第八條 鑛業法中左ノ通改正ス

第十三條 削 除

第四十一條中「鑛業稅」ヲ「鑛區稅」ニ改ム

第七章 削 除

第八十一條乃至第八十八條 削 除

第一百條 削 除

第九條 昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅及同附加稅並ニ昭和十五年分以前ノ鑛區稅及同附加稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ昭和十五年一月一日以後昭和十五年三月三十一日迄ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅ハ昭和十五年六月中ニ之ヲ徵收ス

第十條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ昭和十六年度分迄直接鑛業又ハ砂鑛業ノ用ニ供スル家屋ニ對シ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第十一條 砂鑛法第二十三條中「第八十七條乃至第八十九條」ヲ「第八十九條」ニ改ム

砂鑛法第二十三條中「第八十七條乃至第八十九條」ヲ「第八十九條」ニ改ム

鑛區稅法施行規則 (昭和十五年三月三十一日勅令第四百一十一號)

第一條 鑛區又ハ砂鑛區ノ所在地ヲ管轄スル稅務署ヲ以テ鑛區稅ノ所轄稅務署トス

鑛區又ハ砂鑛區カ二以上ノ稅務署ノ管轄區域ニ亙ルトキハ其ノ面積(河床ヲ區域トスル砂鑛區ニ在リテハ其ノ延長)ノ大ナル部分ノ所在地ヲ管轄スル稅務署ヲ以テ所轄稅務署トス

第二條 鑛業權者鑛業代理人ヲ選任シタルトキ及砂鑛權者砂鑛業代理人ヲ選任シタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ鑛區稅ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第三條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ鑛區稅ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附 則
本令ハ鑛區稅法施行ノ日ヨリ之ヲ行ス

鑛區稅法ヲ樺太ニ施行スルノ件

(昭和十五年三月三十一日勅令第百八十八號)

四二〇

鑛區稅法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

附 則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業法

(抄録)(明治三十八年三月八日法律第四十五號)

改正

明治四十年四月十一日法律第四十一號	昭和二年三月三十一日法律第三十六號
明治四十四年三月十一日法律第九十一號	昭和九年三月二十九日法律第三十七號
昭和六年七月二十五日法律第六十五號	昭和十五年三月二十九日法律第三十一號
昭和十四年三月二十五日法律第二十三號	昭和十五年四月六日法律第百二號
明治四十三年三月二十五日法律第十三號	

昭和二年三月三十一日法律第三十六號
昭和九年三月二十九日法律第三十七號
昭和十五年三月二十九日法律第三十一號
昭和十五年四月六日法律第百二號

第一章 總 則

- 第一條 本法ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ試掘、採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ
- 第二條 本法ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、鋅鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿德鑛、重石鑛、水鉛鑛、砒鑛、ニッケル鑛、コバルト鑛、磷鑛、黑鉛、石炭、亞炭、石油、土瀝青、硫黃、石膏、重晶石、明礬石、螢石及石棉ヲ謂フ但シ砂鑛ハ此ノ限リニ在ラス(昭和九年法律第三十七號改正)(昭和十五年法律第百二號改正、炭化水素ヲ主成分トスル天然瓦斯ハ之ヲ石油ト看做ス但シ工業用其ノ他ノ營利ヲ目的トセスシテ單ニ一家ノ自用ニ供スルモノニハ本法ヲ適用セス)(明治四十年法律第四十一號改正)(同上)
- 第三條 未タ掘採セサル鑛物(廢鑛及鑛滓ヲ含ム)ハ國ノ所有トス
- 第四條 本法ニ於テ鑛業權ト稱スルハ試掘權及採掘權ヲ謂フ
- 鑛業權者ハ鑛區ニ於テ其ノ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ掘採シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ鑛區ノ重複シタル場合ニ於テハ鑛業權者ハ互ニ其ノ權利ヲ制限セラル
- 第五條 帝國臣民又ハ帝國法律ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ鑛業權者トナルコトヲ得ス
- 第六條 本法ニ規定シタル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス
- 本法ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者、土地所有者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效方ヲ有ス
- 第七條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サムトスルトキハ内一人ヲ選定シテ代表者ト爲シ鑛山監督局長ニ届出ヘシ代表者ヲ變更シタルトキ亦同シ(昭和十五年法律第百二號改正)
- 鑛山監督局長必要アリト認メタルトキハ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ代表者ノ變更ヲ命スルコトヲ得(同上)

第一項前段ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サス又ハ前項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサルトキハ鑛山監督局長ハ代表者ヲ指定ス(同上)

代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ヲ代表ス

共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタル者ト看做ス

第九條 本法ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登録ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鑛利保護上又ハ鑛區分合上已ヲ得サル場合ニハ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得

同一ノ鑛區ニ於テハ二以上ノ鑛業權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ目的異種ノ鑛物ナルトキ及第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正、増減及改正ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第十三條 削 除 (昭和十五年法律第三十一號)

第十四條 本法ハ第九章ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス (昭和十四年法律第二十三號改正)

第二章 鑛業 權

第十五條 鑛業權ハ物權トシ不動産ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 鑛業權ハ不可分トス

第十七條 鑛業權ハ相続、讓渡、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス但シ探掘權ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得

第十八條 試掘權ノ存續期間ハ登録ノ日ヨリ四箇年トス (昭和十五年法律第百二號改正)

前項ノ期間ハ鑛區ノ増減又ハ改正ノ爲變更セラルルコトナシ

第十九條 鑛業權及抵當權ノ設定、變更、移轉、消滅並處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登録ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付テモ亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登録ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ登録ハ登記ニ代ルモノトス

登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 前條第一項ニ掲ケタル事項ハ相続、死亡ニ因ル共同鑛業權者ノ脱退、期限ノ到來ニ因ル鑛業權ノ消滅並第四十二

條及第四十三條ノ贖買ノ場合ヲ除クノ外登録ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス (昭和十五年法律第百二號改正)

第二十四條 主務大臣ニ於テ試掘出願地探掘ニ適スモノト認メタルトキハ探掘ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ探掘ノ出願ヲ爲ササルトキハ試掘ノ出願ハ之ヲ許可セス (昭和十五年法律第百二號改正)

前二項ノ規定ハ主務大臣ニ於テ探掘出願地試掘ヲ要スルモノト認メタル場合第二十九條ノ場合ヲ除クニ之ヲ準用ス(同上)

第二十五條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ主務大臣ハ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ命令書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ探掘ノ出願ハ之ヲ許可セス(同上)

第二十六條 探掘出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認メタルトキハ探掘出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得

第二十七條 鑛業出願人ハ出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得

第二十八條 試掘出願地出願ノ當時鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス

第二十九條 探掘出願地出願ノ當時他人ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ其ノ出願ヲ許可セス但シ第三十六條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 探掘出願地他人ノ試掘出願地ト重複スル場合ニ於テ同種ノ鑛物ナルトキハ其ノ重複スル部分ニ付テハ第二十四條第一項及第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十五條 探掘權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ主務大臣ニ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ (昭和九年法律第三十七號改正)

抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ

第三十六條 鑛業權者ハ鄰接鑛區ノ鑛業權者及抵當權者ノ承諾ヲ得タルトキハ其ノ鑛區ニ掘進スル爲増區ヲ出願スルコトヲ得

鑛床ノ位置形狀ニ依リ鄰接鑛區ニ掘進スルニ非サレハ鑛利ヲ保護スル能ハサル場合ニ於テハ其ノ鑛業權者ノ承諾ヲ得テ鑛區ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鑛業權者ハ正當ノ理由ナクシテ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

前二項ノ出願ヲ爲サムトスル者ハ其ノ願書ニ鑛區圖ノ外鑛床圖ヲ添付スヘシ

前項ノ鑛床圖ハ之ヲ鑛區圖ノ一部ト看做ス

第四十條 鑛業權者正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セス若ハ一箇年以上休業シタルトキ又ハ施業案ニ依ラスシテ採掘ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第四十一條 鑛業權者第四十三條ノ三、第七十二條若ハ第七十四條ノ四第三項ノ命令ニ從ハサルトキ又ハ鑛區稅ヲ納メサルトキハ主務大臣ハ鑛業權ヲ取消スコトヲ得 (昭和十五年法律第三十七號改正)

第四十二條 採掘權取消ノ登錄アリタルトキハ鑛山監督局長ハ直ニ之ヲ抵當權者ニ通知スヘシ抵當權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ採掘權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第三十八條第一項及第三十九條ノ規定ニ依ル採掘權取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

採掘權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存續スルモノト看做ス
競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル責務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス競賣人ハ採掘權取消ノ登錄アリタル時ニ於テ採掘權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

第七章 罰 則 (昭和十五年法律第三十七號)

- 第八十一條 罰 則 除 (同上)
- 第八十二條 罰 則 除 (同上)
- 第八十三條 罰 則 除 (同上)
- 第八十四條 罰 則 除 (同上)
- 第八十五條 罰 則 除 (同上)
- 第八十六條 罰 則 除 (同上)
- 第八十七條 罰 則 除 (同上)
- 第八十八條 罰 則 除 (同上)

第九章 罰 則

第九十四條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ掘採シタル者又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス (昭和十五年法律第百二號改正)
過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス (同上)

第九十五條 前條ノ場合ニ於テハ其ノ掘採シタル鑛物ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス (同上)

第一百一條 罰 則 除 (昭和十五年法律第三十七號)

第一百二條 罰 則 除 (昭和十五年法律第百二號)

第一百三條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス (同上)

第一百四條 法人又ハ人ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス (同上)

本法ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定セル罰則ニ付テモ亦同シ

第一百五條 前二條ノ場合ニ於テハ懲役ノ刑ニ處スルコトヲ得ス (同上)

附 則

第一百七條 本法ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛業條例ハ之ヲ廢止ス

第一百十三條 日本坑法ニ依リ借區ノ許可ヲ得タル者及鑛業條例ニ依リ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得タル者ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ明治三十八年分ノ鑛區稅又ハ其ノ不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ月割ヲ以テ計算ス

第一百十四條 明治三十八年分ノ鑛產稅ハ本法施行前ニ得タル鑛產物ニ付テモ之ヲ課ス

附 則 (明治四十三年法律第十號)

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (明治四十四年法律第九號)

非常特別稅法中鑛區稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附 則 (昭和二年法律第三十六號)

本法ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス